

送達スル時間及ヒ相手方ヲシテ必要ナル穿鑿ヲ爲ス時間ヲ得セシム可シ
口頭辯論ノ延期ヲ爲ストキハ裁判所ハ爾後必要ナル準備書面ヲ差出ス可キ期間ヲ定ムルコトヲ得

〔註〕被告ハ答辨書ニ掲ケタル事實ニ於テ一方ノ相手方カ豫メ之カ穿鑿ヲナサカレハ陳述ヲ爲スコト能ハスト思慮スルトキハ其事項ハ口頭辯論ノ前ニ書面ニ認メテ差出スヘシ但其書面ヲ相手方ニ送達スル時間及ヒ相手方ヲシテ必要ナル穿鑿ヲ爲ス時間ヲ得セシムル爲メ口頭辯論ノ延期ヲ爲ストキハ其レニ必要ナル準備書面ヲ差出スヘキ期間ヲ適宜ニ定ムルコトヲ得ルナリ

第二百五五條 口頭辯論ハ一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第二百六條 妨訴抗辯ハ本案ニ付テノ被告ノ辯論前同時ニ之

ヲ提出ス可シ

左ニ掲グルモノヲ妨訴ノ抗辯トス

- 第一 無訴權ノ抗辯
- 第二 裁判所管轄違ノ抗辯

第三 裁判權利拘束ノ抗辯

第四 訴訟能力ノ欠缺又ハ法律上代理ノ欠缺ノ抗辯

第五 訴訟費用保證ノ欠缺ノ抗辯

第六 再訴ニ付キ前訴訟費用未濟ノ抗辯

第七 延期ノ抗辯

本案ニ付キ被告ノ口頭辯論ノ始マリタル後ハ妨訴ノ抗辯ハ被告ノ有效ニ拋棄スルコトヲ得サルモノナルトキ又ハ被告ノ過失ニ非スシテ本案ノ辯論前ニ其抗辯ヲ主張スル能ハカリシコトヲ疏明スルトキニ限り之ヲ主張スルコトヲ得

〔註〕妨訴ノ抗辯トハ被告カ原告ノ主張ヲ排斥セントスル所ノ抗辯ナリ而シテ之ヲ爲スハ口頭辯論前同時ニ提出スヘキモノナリ然ルニ本案ニ付テ已ニ被告ノ口頭辯論ノ始マリタル後ハ妨訴ノ抗辯ヲ許サスト雖モ被告ニ於テ其妨訴スヘキ點ハ有效ニシテ拋棄スルヲ得サル事實ノ存スル時又ハ過失ニアラサリシ事情ヲ證明スルトキニ限りテ辯論後ト雖モ之ヲ主張スルコトヲ得ルナリ而シテ其抗辯ト爲スヘキ理由ハ本條第一ヨリ第七ニ至ル理由中其一アルトキハ之ヲ提出スルコトヲ得ルナリ

第一 無訴權ノ抗辨

無訴權ノ抗辨トハ本件ハ行政裁判所ニ屬スヘキモノニシテ司法裁判所ニ屬スヘキモノニアラスト云ヘル如キ其訴權ナシト云フモノナリ

第二 裁判所管轄違ノ抗辨

裁判所管轄違ノコトハ前ニ已ニ述ヘタレハ之ヲ説明セス此ノ管轄違ナルトキハ該裁判所ハ裁判ヲ爲スコト能ハサレハ妨訴抗辨ノ理由トナルコト明カナリ

第三 權利拘束ノ抗辨

是亦第九十五條ニ於テ規定シタル所ニシテ訴狀送達ニ依リテ發生スルモノナレハ其訴狀送達カ有效ニナキモノハ權利拘束ノ理由ナキモノトナルナリ

第四 訴訟能力ノ欠缺又ハ法律上代理ノ欠缺ノ抗辨

訴訟能力ナキ者ハ訴訟ヲ提起スルコト能ハサルコトハ第四十三條以下ニ於テ之ヲ規定シ又法律上代理ノ欠缺スルトキモ訴訟ヲ起スコト能ハサルハ勿論ナリ

第五 訴訟費用保證ノ欠缺ノ抗辨

原告カ外國人ナルトキハ保證ヲ立テサルヲ得ス然ルニ之ヲ立テサルカ之ヲ立ツルモ十分ナラサルトキハ抗辨ヲ爲スノ理由トナルナリ

第六 再訴ニ付前訴訟費用未済ノ抗辨

一タヒ訴ヲ起シテ之ヲ取下ケ再ヒ訴ヲ起セシ場合ニ於テ其訴ヲ取下ケタル者カ前ノ訴訟

費用ヲ支拂ハサルニ依リ抗辨ヲ爲スモノナリ

第七 延期ノ抗辨

是ハ辨論ヲ後日ニ延期セラレシコトヲ求ムルモノニシテ他ノ抗辨ノ如ク認訴ヲ妨ケルモノニアラス

第二百七條

被告カ妨訴ノ抗辯ニ基キ本案ノ辯論ヲ拒ムトキ又ハ裁判所カ申立ニ因リ若クハ職權ヲ以テ別ニ辯論ヲ命スルトキハ其抗辯ニ付キ別ニ辯論ヲ爲シ及ヒ判決ヲ以テ裁判ヲ爲ス可シ

妨訴ノ抗辯ヲ棄却スル判決ハ上訴ニ關シテハ終局判決ト看做ス但裁判所ハ申立ニ因リ本案ニ付キ辯論ヲ爲ス可キヲ命スルコトヲ得

〔註〕終局判決ハ口頭辨論終結ノ後ニ於テ右認訴ヲ審判シテ裁判ヲ下スモノナレトモ妨訴抗辨ノ棄却ニ於テハ審判シテ判決ヲ下シタル終結判決ト看做シ其手續ヲ以テ上訴スルヲ得ルナリ然レトモ妨訴抗辨ノ棄却アリタル後ト雖モ申立アリタルニ依リテハ裁判所ハ本案訴訟ニ付テ辨論ヲ爲ス可キヲ命スル權アリトス

第二百八條

裁判所ハ計算事件、財産分別及ヒ此ニ類スル訴訟

ニ於テハ口頭辯論ヲ延期シ準備手續ヲ命スルコトヲ得但妨
訴ノ抗辯アリタルトキハ其完結後之ヲ爲ス

〔註〕計算事件トハ債權者ニ對シ別ニ入組ミタル計算上ノ事件ヲ云フ財産分別トハ例ヘハ
甲者カ乙丙三人ノ債權者ニ向テ債務アリトスルニ其レニ對シ甲者ハ自己ノ財産ヲ以テ各
個ニ分配スルヲ云フ此等ノ類ノ訴訟ニ於テハ裁判所ハ口頭辯論ヲ延期シ右ニ關スル準備
手續ヲ命スルコトヲ得ルモノトス

第二百九條

攻撃及ヒ防禦ノ方法(反訴、抗辯、再抗辯)等ハ第二百
一條ニ規定スル制限ヲ以テ判決ニ接着スル口頭辯論ノ終結
ニ至ルマテ之ヲ提出スルコトヲ得

第二百十條

〔註〕訴訟法上當事者ノ位置ハ常ニ同等ナルヲ元則トス即チ訴訟行爲ニ付テハ當事者ハ原
告タルト被告タルトナ問ハス同等ノ權利ヲ有スルモノトス故ニ當事者ハ原告タルト被告
タルトナ問ハス辯論ノ終結ニ至ルマテ攻撃防禦ノ方法ヲ提出スルノ權ヲ有スルナリ

被告ヨリ時機ニ後レテ提出シタル防禦ノ方法ハ
裁判所カ若シ之ヲ許スニ於テハ訴訟ヲ遅延ス可ク且被告ハ
訴訟ヲ遅延セシメントスル故意ヲ以テ又タハ甚シキ怠慢ニ
因リ早ク之ヲ提出セサリシコトノ心證ヲ得タルトキハ申立

ニ因リ之ヲ却下スルコトヲ得

〔註〕當事者ハ誠實ニ訴訟ヲ爲スノ義務アルヘシ是レ裁判ハ正當ノ權利者ヲ保護シテ其權
利ヲ伸張セシメ又ハ之ヲ防衛セシムルヲ目的トスルモノニシテ權利者ニ非サルモノチシ
テ權利ヲ有スルニ至ラシムルカ如キハ裁判ノ性質上其目的ニ非サルコトハ言テ埃ダスシ
テ明カナリトス故ニ原告トナリテ攻撃方法ヲ提出シ若クハ被告トナリテ防禦ノ方法ヲ提
出スルニ當リテモ亦誠意誠實ヲ以テセサルヘカラス蓋シ人事ノ錯雜ナルカ爲メ正當ノ權
利ヲ有セサル者チシテ勝チテ認廷ニ得セシムルカ如キハ實際上免カレサル處ナリ然レト
モ法律上其弊害ヲ避クルヲ務メタルコトハ訴訟法上ノ規定ニ依リ之ヲ知ルチ得ヘシ本條
ノ如キ其規定ノ一ナリ

被告カ時機ニ遅レテ防禦方法ヲ提出シタル場合ニ於テ裁判所カ之ヲ許ストキハ爲メニ訴
訟ノ遅延ヲ來タシ且ツ被告ハ訴訟ヲ遅延セシメントスル故意又ハ重過失ニ因リ早ク之ヲ
提出セサリシコトノ心證ヲ得タルトキハ原告ノ申立ニ因リ其防禦方法ヲ却下スルコトヲ
得ルモノトス

第二百十一條

訴訟ノ進行中ニ爭ト爲リタル權利關係ノ成立
又ハ不成立ヲ訴訟ノ裁判ノ全部又ハ一分ニ影響チ及ホスト
キハ判決ニ接着スル口頭辯論ノ終結ニ至ルマテ原告ハ訴ノ

申立ノ擴張ニ依リ又被告ハ反訴ノ提起ニ依リ判決ヲ以テ其
權利關係ヲ確定セシコトヲ申立ツルコトヲ得

〔註〕訴訟ノ進行中ニ他ノ事件ニ付争ヒノ起リタル爲メニ其ノ訴訟ノ全部又ハ一部ニ影響
ヲ及ホストキハ判決ニ接着スル口頭辯論ノ終ルマテニ原告ハ自己ノ申立ヲ擴張シ又被告
ハ反訴ヲ起シテ其權利義務ノ争ヒヲ判決セラレシコトヲ申立ツルコトヲ得ルモノトスル
ナリ

第二百十二條

訴狀其他ノ準備書面ニ於テ主張セサル請求ノ
權利拘束ハ口頭辯論ニ於テ其請求ヲ主張シタル時ヲ以テ始
マル

〔註〕本條モ亦第二百九條ト同シク當事者ニハ同等ノ權アルモノト爲シタルヨリ起リタル
規定ナリ次條ノ規定モ亦然リトス本條ハ辯論中生シタル中間ノ争ヒニ付キ判決ヲ受クル
ノ權ハ當事者双方ニ屬スルモノトス

第二百十三條

各當事者ハ事實上ノ主張ヲ證明シ又ハ之ヲ辯
駁セン爲ニ用ヰントスル證據方法ヲ開示シ且相手方ヨリ開
示シタル證據方法ニ付キ陳述ス可シ

各箇ノ證據方法ニ付テノ證據申出及ヒ之ニ關スル陳述ハ第
六節乃至第十節ノ規定ニ從テ

〔註〕各當事者ハ事實上ノ主張ヲ證明シ又ハ之ヲ辯駁センカ爲メニ用ヒントスル證據方法
ヲ申出テ且ツ相手方カ申出タル證據方法ニ付キ陳述ヲ爲スヘキ義務ヲ有スルハ前條ニ於
テ述ヘタル理由ト同シキナリ其他各當事者ハ判決ニ對シ上級審ヘ不服ヲ申立テ及ヒ命令
決定ニ對シテハ抗告裁判所ヘ抗告スルノ權利ヲ有ス

然レトモ當事者ノ權利ハ常ニ必スシモ同等ナリト云フコト能ハサルモノニシテ或ハ當事
者ノ位置ニ依リ自カラ各自ノ訴訟行爲上ニ差異ヲ生スルコトアリ或ハ訴訟法上特別ノ規
定ニ依リ各當事者ヲシテ同等ノ權利若クハ義務ヲ有セシメサルコトアリ
當事者ノ位置ヨリ生スル結果ハ左ノ如シ

凡ソ原告トナリテ訴ヲ提起スル者ハ訴訟法上ニ於テハ進ンテ請求ヲ爲スモノナリ而シテ
其請求ヲ爲ス者ハ之カ立證ヲ爲スヘキモノナルコトハ道理上正當ノ結果ナリトス加之ス
訴訟法上權利ヲ主張スル者ハ其目的ヲ達スル爲メ適法ノ方法ニ依ラサルヘカラサルコト
モ亦明カナリトス是ヲ以テ左ノ結果ヲ生ス

第一 原告ハ被告ヲ其裁判籍ニ訴ヘサルヘカラス

第二 原告ハ事實ノ主張ヲ爲ササルヘカラス之ニ反シ被告ハ事實ノ主張ヲ爲サスシテ

單ニ原告ノ主張シタル事實ヲ否認シ若クハ之ヲ爭フテ以テ足ル故ニ被告ニ於テ原告ノ主張シタル事實ヲ認メサルカ若クハ之ヲ爭フトキハ原告ハ其主張ノ事實ヲ立證セサルヘカラス若シ立證ヲ爲スコト能ハサルトキハ被告ニ於テ自ラ主張シタル事實ノ立證ヲ爲ササル場合ニ於テモ尙ホ原告ニ對シ敗訴ノ裁判ヲ爲スヘキモノトス尙ホ終リニ臨ンテ一言スヘク當事者ハ互ニ陳述スヘキモノニシテ又相手方カ申出テタル證據方法ニ對シ互ニ意見ヲ陳述スヘキモノトスレトモ其陳述タルヤ單ニ不知テ以テ答フルヲ許ササルモノニシテ必スヤ其事實ヲ認ムルカ若クハ之ヲ否認セサルヘカラス

第二百十四條 證據方法及ヒ證據抗辯ハ判決ニ接着スル口頭辯論ノ終結ニ至ルマテ之ヲ主張スルコトヲ得

證據方法及ヒ證據抗辯ノ時機ニ後レタル提出ニ付テハ第二百十條ノ規定ヲ準用ス

第二百十五條 證據決定ニ證據決定ヲ以テスル特別ノ證據調手續ノ命令ハ第五節乃至第十節ノ規定ニ從フ

第二百十六條 當事者ハ訴訟ノ關係ヲ表明シ證據調ノ結果ニ付キ辯論ヲ爲ス可シ

受命判事又ハ受託判事ノ面前ニ於テ證據調ヲ爲シタルトキ

ハ當事者ハ證據調ニ關スル審問調書ニ基キ其結果ヲ演述ス可シ

第二百十七條 裁判所ハ民法又ハ此法律ノ規定ニ反セサル限リハ辯論ノ全旨趣及ヒ或ル證據調ノ結果ヲ斟酌シ事實上ノ主張ヲ眞實ナリト認ム可キヤ否ヤヲ自由ナル心證ヲ以テ判斷ス可シ

第二百十八條 裁判所ニ於テ顯著ナル事實ハ之ヲ證スルコトヲ要セス

〔註〕立證ハ裁判所カ疑ヲ存スル事實ニ付キ之ヲ爲ササルヘカラス而シテ當事者ノ爭ニ係ル事實ハ概テ裁判所ニ於テ疑ヲ存スルモノナリ故ニ相手方カ自白シタル事實ノ外ハ當事者ニ於テ立證ヲ爲ササルヘカラス然レトモ左ノ事項ニ付テハ當事者ハ立證ノ責ヲ有セス
(イ) 裁判所ニ於テ顯著ナル事實(第二百十八條)

(ロ) 民法上ノ推定事實但反對ノ證據ヲ許スモノト否トヲ問ハス又反證ヲ許ス確定ニ付キ相手方カ立證ヲ爲シタルトキハ當事者ハ普通ノ方法ニ依リ立證ヲ爲スヘキモノトス
(ハ) 辯論ノ全旨趣ニ依リ特別ノ立證ヲ要セスシテ眞實ナルヤ否ヤニ付キ裁判所カ充分ナル心證ヲ得タル事實(第二百十七條)

立證ノ結果即チ心證ノ原因ヨリ生スル結果ニ付テハ判事ハ自由ナル判定權ヲ有ス故ニ事實ヲ眞實ト認ムヘキヤ否ヤハ全ク判事ノ自由ノ心證ニ委テタルモノナリ然レトモ判事ヲシテ事實上ノ認定上ニ於テ全ク自由ノ判定權ヲ有セシムルトキハ或ハ其認定權ヲ濫用スルノ恐ナシトセス然レトモ判決ニ於テハ其認定ノ理由ヲ掲クヘキモノナルヲ以テ之ニ依リテ多少其濫用ヲ防クノ目的ヲ達スルコトヲ得ヘシ事實ヲ眞實ナリトスル判事ノ認定ハ必スシモ事實ノ絕對ノ眞實ヲ得タルモノニ非ス寧ロ絕對ノ眞實ニ近キヲ認ムルモノニシテ通常其反對ヲ證スルコトハ事實上爲シ得ヘカラサルカ故ニ之ヲ以テ事實ノ眞實ヲ立證シ得タリト看做シタルモノナリ

第二百十九條 地方慣習法、商慣習及ヒ規約又ハ外國ノ現行法ハ之ヲ證ス可シ裁判所ハ當事者カ其證明ヲ爲スト否トニ拘ハラズ職權ヲ以テ必要ナル取調ヲ爲スコトヲ得

〔註〕立證スヘキ事項ハ單ニ事實ニ限ルモノニシテ法律ノ規定ハ之ヲ立證スヘキ必要アルコトナシ何トナレハ法律ノ規定ハ裁判所カ當然知ラサルヘカラサルモノナレハナリ然レトモ法律ノ規定ト雖モ裁判所ニ於テ之ヲ知ラサルヘカラサルノ義務ヲ有セサルモノニ付テハ當事者ニ於テ之ヲ立證スルノ責ヲ免レス故ニ地方慣習、商慣習、規約及ヒ外國ノ法律ハ當事者ニ於テ之ヲ立證スルノ責任ヲ有スルノモノノミナラス裁判所ハ職權ヲ以テ之

ヲ調査スヘシ

又事實ト雖モ相手方ニ於テ之ヲ自白シタルトキ即チ其事實ニ付キ裁判上ノ自白アリタルトキハ當事者ハ其事實ヲ立證スルノ責ナシ自白ヲ爲スニ當リ獨立シタル攻撃防禦ノ方法ヲ附加シタルトキト雖モ同亦シ

第二百二十條 此法律ノ規定ニ依リ事實上ノ主張ヲ疏明ス可キトキハ裁判官ヲシテ其主張ヲ眞實ナリト認メシム可キ證據方法ヲ申出ツルヲ以テ足ル但即時ニ爲スコトヲ得サル證據ハ疏明ノ方法トシテハ之ヲ許サス

第二百二十一條 裁判所ハ事件ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス自ラ又ハ受命判事若クハ受託判事ニ依リ訴訟又ハ或ル争點ノ和解ヲ試ムル權アリ和解ヲ試ムル爲ニハ當事者ノ自身出頭ヲ命スルコトヲ得

〔註〕裁判所ハ事件ノ如何程マテ進行シ居ルニモ拘ハラズ何時ニテモ訴訟又ハ或ル争點ニ付キ和解ヲ試ムル權アリ是レ社會ニ訴訟ノ起ルヲ好ムモノニアラサレハナリ所謂訟ヘナカラシメンコトヲ欲スレハナリ

第二百二十二條 判決ヲ受ク可キ事項ノ申立ハ書面ニ基キ之

ヲ爲スコトヲ要ス
書面ニ掲ケサル申立アルトキハ調書ニ附録トシテ添附ス可
キ書面ヲ差出シテ之ヲ爲スコトヲ要ス
重要ノ點ニ於テ以前申立テタルモノト異ナル申立ニ付テモ
亦同シ

本條ノ規定ヲ遵守セサルトキハ申立ナキモノト看做ス

〔註〕一定ノ申立ハ本條ノ規定ニ從ヒ書面ヲ朗讀シテ之ヲ爲スヘキモノナルコトヲ勿論ト
ス然レトモ請求ノ原因即チ一定ノ申立ノ依テ生スル所ノ事實關係ニ付テハ全ク書面ニ依
ラスシテ其演述ヲ爲ササルヘカラス

訴狀ニ掲ケタル事項ニ關シテハ當事者ハ訴ノ原因ヲ變更セサル以上ハ事實上又ハ法律上
ノ陳述ヲ補充若クハ更正シ申立ヲ擴張若クハ減縮シ又ハ最初求メタル物ノ減盡ニ因リ其
代償ヲ求ムルコトヲ得ルナリ此ノ場合ニ於テハ其新ナル訴ハ原告カ口頭辯論ニ於テ其申
立ヲ爲シタルトキニ於テ提起セラレタルモノト看做スヘキモノトス原告カ第九十五條
第三號但書ノ規定ニ從ヒ訴ノ變更ヲ爲シタル時ニ於テモ亦同一ナリ

第二百二十三條 前條ノ申立ヲ除ク外書面ニ掲ケサル重要ナ

ル陳述又ハ其書面ノ旨趣ト重要ノ點ニ於テ差異ノ存スル事
項ハ其差異カ附加、削除其他ノ變更ニ係ルヲ問ハス申立ニ因
リ又ハ職權ヲ以テ調書若クハ其附録トシテ添附ス可キ爲メ
差出シタル書面ニ依リテ之ヲ明確ニス可シ

第二百二十四條 當事者ハ訴訟記録ヲ閱覽シ且裁判所書記ヲ

シテ其正本、抄本及ヒ謄本ヲ付與スルコトヲ得
裁判長ハ第三者カ權利上ノ利害ヲ疏明スルトキニ限り當事
者ノ承諾ナクシテ訴訟登録ノ閱覽及ヒ其抄本竝ニ謄本ノ付
與ヲ許スコトヲ得

判決、決定、命令ノ草案及ヒ其準備ニ供シタル書類竝ニ評議又
ハ處罰ニ關スル書類ハ其原本ナルト謄本ナルトヲ問ハス之
ヲ閱覽スルコトヲ許サス

第二節 判決

第二百二十五條 訴訟カ裁判ヲ爲スニ熟スルトキハ裁判所ハ

終局判決ヲ以テ裁判ヲ爲ス

同時ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲ス爲メ併合シタル數箇ノ訴訟中ノ一ノミ裁判ヲ爲スニ熟スルトキモ亦同シ

〔註〕判決トハ訴訟ニ付テ規定ノ手續ヲ爲シ數回口頭辯論ヲ爲シ原告被告双方ノ争點ニ於テ已ニ辯論ノ結了ヲ告ケタル後ニ於テ裁判所カ之ヲ審判シテ決定ノ裁判ヲ下スヲ云フ即チ裁判ヲ爲スニ熟シタルトキニ至リタルモノナリ是ト同時ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲ス爲メ併合シタル數箇ノ訴訟中ノ一ノミ已ニ裁判ヲ爲スニ熟スルトキ其一ノミニ向テ判決ヲ下スナリ

第二百二十六條

一ノ訴ヲ以テ起シタル數箇ノ請求中ノ一箇又ハ一箇ノ請求中ノ一分又ハ反訴ヲ起シタル場合ニ於テハ本訴若クハ反訴ノミ裁判ヲ爲スニ熟スルトキハ裁判所ハ終局判決(一分判決)ヲ以テ裁判ヲ爲ス然レトモ裁判所ハ事件ノ事情ニ從ヒテ一分判決ヲ相當トセサルトキハ之ヲ爲ササルコトヲ得

〔註〕一分判決トハ訴訟ノ全体ニアラスシテ其一箇ノ事件ノ或ル一部分ヲ云フ例ヘハ一箇ノ貸金事件中其一部ニ付テ判決ヲ下スヲ云フ一分判決ヲ相當トセサルトキハ或ル一部分ヲ判決シテ却テ其他ノ全部又ハ或ル部分ニ向テ影響ヲ及ホス事情ノアルトキヲ云フナリ

第二百二十七條

各箇ノ獨立ナル攻撃若クハ防禦ノ方法又ハ中間ノ争カ裁判ヲ爲スニ熟スルトキハ中間判決ヲ以テ裁判ヲ爲スコトヲ得

〔註〕各箇ノ獨立ナル攻撃トハ或ル部分ニ向テノ攻撃ニアラス其事件カ數多アリテ一々別個ノ權利義務アル事項ノ攻撃ナリ又此ノ一部ニ向テノ攻撃ハ或ル部ニ向テノ攻撃トハナラサルモノヲ云フ

中間ノ争ヒトハ即チ攻撃ト防禦方法トノ中間争ヒヲ云フ此ノ争ヒカ裁判ヲ爲スヘキ程度ニ至リタルトキハ中間判決ヲ下スナリ

第二百二十八條

請求ノ原因及ヒ數額ニ付キ争アルトキハ裁判所ハ先ツ其原因ニ付キ裁判ヲ爲スコトヲ得請求ノ原因ヲ正當ナリトスル判決ハ上訴ニ關シテハ終局判決ト看做シ其判決確定ニ至ルマテ爾後ノ手續ヲ中止ス然レトモ裁判所ハ申立ニ因リ其數額ニ付キ辯論ヲ爲ス可キヲ命スルコトヲ得

〔註〕訴訟ハ原因ヲ主トスルモノナルヲ以テ先ツ其原因ニ付キ裁判ヲ爲スコトヲ得而シテ請求ノ原因ヲ正當ナリトスル判決ハ上訴ニ對シテ終局判決ト看做スノ義ニシテ即チ妨訴

抗辯棄却判決ヲ上訴ニ關シテ終局判決ト看做スト同シ趣意ナリ而シテ相手方ニ於テ其判決ニ對シ上訴スルカ又ハ其判決ニ服スルヤ否ヤヲ問ハス判決確定ニ至ルマテハ爾後ノ手續ヲ中止ス然レトモ裁判所ハ其數額ニ付テ辯論セント申立ツルトキハ其辯論ヲ爲スヘキヲ命スルコトヲ得ルナリ

第二百二十九條

口頭辯論ノ際原告其訴ヘタル請求ヲ拋棄シ又ハ被告之ヲ認諾スルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ其拋棄又ハ認諾ニ基キ判決ヲ以テ却下又ハ敗訴ノ言渡ヲ爲ス可シ

〔註〕裁判上ノ認諾トハ口頭辯論ノ際又ハ受命判事ノ面前ニ於テ被告カ原告ノ爲シタル請求ノ全部若クハ一部ヲ争ハストノ申立ヲ爲スヲ云フ拋棄トハ當事者ハ訴訟法上有スル所ノ自由ナル處分權内ニ於テ或ハ訴訟上主張シタル權利ヲ拋棄シ或ハ其權利ノ訴訟上ノ行使ヲ拋棄スルヲ得ルモノナリ請求ノ性質ハ認諾ノ性質ト同一ナリトス故ニ請求ノ拋棄ニ付テハ本條ニ規定スル所ナリ

裁判上ノ拋棄ト認諾ニ付テハ本條ノ規定タルヤ僅ニ口頭辯論ノ際被告カ原告ノ請求ノ全部又ハ一部ヲ認諾又ハ拋棄スル場合ニ於テ原告カ認諾ニ基キ判決ヲ受ケンコトノ申立ヲ爲シタル場合ニ關スルモノナリ而シテ本條ニ依レハ原告カ認諾ニ基ク判決ヲ受ケンコトノ申立ヲ爲ストキハ裁判所ハ其認諾拋棄ニ基キ判決ヲ爲ササルヘカラサルモノニシテ其

認諾拋棄ニシテ單ニ請求ノ一部ニ對スル場合ト雖モ本條第二項ノ規定ニ依ルヲ得サルモノナリ隨テ其一部ニ對シテモ常ニ判決ヲ爲ササルヘカラサルモノナリ

本條ノ規定ニ依レハ口頭辯論ノ際被告カ原告ノ請求ヲ認諾スルトキハ其認諾ニ基キ裁判ヲ爲スニ充分ナルノミナラス裁判所ハ其認諾ニ基キ裁判ヲ爲ササルヘカラサルナリ

第二百三十條

判決ハ辯論ヲ經タル總テノ攻撃及ヒ防禦ノ方法ヲ包括ス

然レトモ數箇ノ獨立ナル攻撃又ハ防禦ノ方法中其一箇ヲ適切ナリトスルトキハ裁判所ハ他ノ方法ニ付キ判斷スル義務ナシ

〔註〕判決ニハ辯論ヲ經タル上ニテ裁判ヲ下スニ充分熟シタルトキニ於テ之ヲ下スモノナレハ總テノ攻撃及ヒ防禦ノ方法ハ其中ニ包括即チ含ムモノナリ

然レトモ數箇ノ獨立ナル攻撃又ハ防禦ノ方法中其一箇ヲ以テ裁判ヲ下スニ適切ナリト認ムルトキハ裁判所ハ他ノ方法ニ付判斷スル義務ナシテ乃チ此ノ場合ニ下シタル判決ハ前項ノ規定ニ依リ包括アリト云フヘカラス

獨立シタル攻撃及ヒ防禦ノ方法トハ一定ノ訴訟ニ付キ他ノ攻撃又ハ防禦ノ方法ニ關セス獨立シテ攻撃又ハ防禦ノ用ニ供スルコトヲ得ル方法ヲ云フ

第二百三十一條 裁判所ハ申立テサル事物ヲ原告若クハ被告

ニ歸セシムル權ナシ

裁判所ハ終局判決ヲ爲ス場合ニ於テハ訴訟費用ノ負擔ニ限リ申立アラサルモ判決ヲ爲ス可シ然レトモ一分判決ヲ爲ス場合ニ於テハ費用ノ裁判ヲ後ノ判決ニ讓ルコトヲ得

〔註〕裁判ヲ受ケントスル事項ハ當事者ニ於テ之ヲ申立テサル可カラス即チ裁判所ハ申立テサル事物ヲ當事者ニ歸スルノ權ナキモノナリ例ヘハ原告ハ元金ヲ求メ之カ利子ヲ求メサリシトキ若クハ債權ノ一部ノ返濟ヲ求メ殘餘ノ返金ヲ求メサリシカ如キ場合ニ於テハ裁判所ハ原告ノ求メサリシ利子若クハ債權ノ一部マテモ職權ヲ以テ被告ヲシテ返濟セシムルヲ得サルモノトス故ニ原告ニ於テハ其求メサリシ部分ハ別箇ノ訴ニ於テ更ニ之ヲ求ムルヲ得ルモノナリ

然レトモ訴訟費用ノ點ニ付テハ法律上取除ノ規定ヲ設ケタリ即チ當事者ニ於テ訴訟費用ヲ相手方ニ負擔セシメントノ申立ヲ爲ササリシ場合ニ於テモ裁判所ハ法律上ノ規定ニ從ヒ敗訴者ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムヘキモノトス

第二百三十二條 判決ハ其基本タル口頭辯論ニ臨席シタル判事ニ限リ之ヲ爲ス

〔註〕我カ民事訴訟法ハ口頭審理主義ヲ採リタルヲ以テ本條ノ結果ヲ生シタルナリ本條ノ規定ニ依レハ判決ノ基ク口頭辯論ニ立會ヒタル判事ニ限リ判決ヲ爲スヲ得ト故ニ口頭辯論中ニ判事ヲ變更シタルトキハ更ニ口頭辯論ヲ更新セサルヘカラサルナリ

又當事者カ裁判所ニ對シ陳述セサリシ事實ハ判決ニ之ヲ採用スルコトヲ得ス故ニ受命判事若クハ受託判事ニ提出シタル證據方法ト雖モ判決ノ基本タル口頭辯論ニ於テ當事者カ之ヲ陳述セサリシトキハ判決ニ於テ之ヲ採用スルコトヲ得サルモノトス

第二百三十三條 判決ハ口頭辯論ノ終結スル期日又ハ直チニ指定スル期日ニ於テ之ヲ言渡ス但其ノ日ハ七日ヲ過クルコトヲ得ス

第二百三十四條 判決ノ言渡ハ判決主文ノ朗讀ニ因リ之ヲ爲ス 闕席判決ノ言渡ハ其主文ヲ作ラサル前ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得

裁判ノ理由ヲ言渡スコトヲ至當ト認ムルトキハ判決ノ言渡ト同時ニ其理由ヲ朗讀シ又ハ口頭ニテ其要領ヲ告クヘシ

〔註〕判決主文トハ裁判言渡書ニ記載スル判決ノ主意即チ原告被告ノ陳述ヲ審案シテ一方ノ申分相立タス云ト言渡スヘキ文ヲ云フ裁判ノ理由トハ判決ニ付テ此ノ如キ判決ヲ與

フルハ證據調又ハ當事者ノ陳述辯論等ニ徴スルニ原告ノ陳述ハ斯々ノ證據十分ニ被告ノ辯論ハ證據不十分ナリ理由立タス此等ノ理由ニ依テ判決ヲ下セシト告クルヲ云フナリ

第二百三十五條

判決ノ言渡ハ當事者又ハ其一方ノ在廷スルト否トニ拘ハラズ其效力ヲ有ス

言渡アリタル判決ニ基キ訴訟手續ヲ續行シ又ハ他ニ其判決ヲ使用スル原告若クハ被告ノ權ハ此法律ニ特定シタル場合ヲ除ク外相手方ニ其判決ヲ送達スルト否トニ拘ハラサルモノトス

〔註〕判決ノ言渡ハ當事者双方又ハ一方ノ在廷スルト否トニ拘ハラズ其效力ヲ有スルモノトス故ニ當事者ノ双方カ出頭セサル場合ニ於テモ法廷ニ於テ言渡シタル判決ハ當事者ニ對シ其效力ヲ有スルモノナリ

第二百三十六條

判決ニハ左ノ諸件ヲ掲クヘシ

第一 當事者及ヒ其法律上代理人ノ氏名、身分、職業及ヒ住所

第二 事實及ヒ爭點ノ摘示且其摘示ハ當事者ノ口頭演述

ニ基キ殊ニ其提出シタル申立ヲ表示シテ之ヲ爲ス

第三 裁判ノ理由

第四 判決ノ主文

第五 裁判所ノ名稱、裁判ヲ爲シタル判事ノ官氏名

〔註〕本條ハ判決ノ方式及ヒ言渡ニ關スル規定ナリ

判決ハ之ヲ書面ニ記載スルコトヲ要ス而シテ判決書ニハ本條ニ記載スル第一號ヨリ第七號ニ至ル事項ヲ掲クヘキモノトス

判決ノ主文ハ他ノ事項ヨリ分離シテ之ヲ記載スヘキモノトス然レトモ其主文ハ判決書ノ何レニ記載スヘキヤハ法律上規定スル所ナシ現行ノ慣例ニ依レハ主文ハ事實ノ摘示ノ前ニ掲クルナリ

判決書ニハ裁判ヲ爲シタル判事カ署名捺印スヘキモノトス若シ其ノ判事中署名捺印スルコト能ハサル者アルトキハ裁判長其理由ヲ附記シ裁判長差支アリテ署名捺印スルコト能ハサルトキハ官等最モ高キ陪席判事之カ理由ヲ附記スヘキモノトス
右ノ事項ヲ具備シタル判決書ハ之ヲ判決原本ト云フ

第二百三十七條

判決ノ原本ニハ裁判ヲ爲シタル判事署名捺印ス若シ陪席判事署名捺印スルニ差支アルトキハ其理由ヲ

開示シテ裁判長其旨ヲ附記シ裁判長差支アルトキハ官等最モ高キ陪席判事之ヲ附記ス
判決ノ原本ハ言渡ノ日ヨリ起算シテ七日内ニ裁判所書記ニ之ヲ交付ス可シ
裁判所書記ハ言渡ノ日及ヒ原本領收ノ日ヲ原本ニ附記シ且其附記ニ署名捺印ス可シ

〔註〕判決原本ハ言渡ヨリ七日以内ニ之ヲ書記ニ交付シ書記ハ其原本ニ言渡年月日及ヒ領收ノ年月日ヲ附記シ且ツ之ニ署名捺印スルモノトス但シ右七日ノ期間ハ判事カ職務上遵守スヘキ期間ニシテ判決ノ效力ニ何等ノ影響ヲ及ホササルモノノトス
判決ハ之ヲ言渡スコトヲ要ス而シテ其言渡ハ口頭辯論ヲ終結シタル日若クハ終結後直チニ指定シタル期日ニ於テ之ヲ言渡スヘキモノトス但シ其期日ハ言渡ヨリ七日ヲ經過スルヲ得サルモノトス然レトモ其七日ノ期日モ亦敢テ判決ノ效力ニ影響ヲ及ホスヘキモノニアラスシテ單ニ判事ノ職責ニ止マルモノトス

第二百三十八條 各當事者ハ判決ノ送達アラソコトヲ申立ツルコトヲ得其申立アリタルトキハ判決ノ正本ヲ送達ス可シ

〔註〕判決ハ職權ヲ以テ送達ヲ爲スヘキ規定アル場合ノ外當事者ノ申立ニ依リテ之ヲ當事者ニ送達スヘキモノトス而シテ職權送達ヲ爲スヘキ場合ハ法律第四百號（明治二十三年法律第四百號第十一條）ニ規定スル所ニシテ婚姻又ハ縁組ノ不成立若クハ無効、離婚又ハ縁縁ヲ言渡ス判事ナリトス

第二百三十九條 未タ判決ヲ言渡サス又ハ未タ判決ノ原本ニ署名捺印セサル間ハ裁判所書記ハ其正本、抄本及ヒ謄本ヲ付與スルコトヲ得ス

裁判所書記ハ判決ノ正本、抄本及ヒ謄本ニ署名捺印シ且裁判所ノ印ヲ捺シテ之ヲ認證ス可シ

第二百四十條 裁判所ハ其言渡シタル終局判決及ヒ中間判決ノ中ニ包含シタル裁判ニ羈束セラレ

〔註〕終局判決トハ本案ノ最終ナル判決ヲ云ヒ中間判決トハ訴訟審理中別ニ起リタル争ニ付キ下シタル判決ヲ云フ右場合ニ於テモ裁判所ハ其下シタル裁判ヲ保持スヘキモノニシテ後ニ至リ隨意ニ變更増減スルコトヲ得サルモノトス

第二百四十一條 裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ何時ニ

テモ判決中ノ違算、書損及ヒ此ニ類スル著シキ誤謬ヲ更正ス
此更正ニ付テハ口頭辯論ヲ經スシテ裁判ヲ爲スコトヲ得
右更正ノ申立ヲ却下スル決定ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ
得ス更正ヲ宣言スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ
得

〔註〕本條ハ前條ノ例外トモ云フヘキ場合ヲ定メタルモノノ如シ然レトモ唯タ僅少ノ書損
等ヲ更正シ得ヘキコトヲ定メタルモノニシテ裁判ノ要旨ヲ變更スルコトヲ得サルモノト
ス而シテ之ヲ更正セントスルニハ訴訟對手人ノ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ更正スルコト
ヲ得ヘキモノトス

右更正ノ申立ヲ不當トシテ却下スル裁判ニ對シテハ申立人ニ於テ上訴スルコトヲ得サル
モ其申立カ相當スル決定ニ對シテハ相手方ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

第二百四十二條

主タル請求若クハ附帶ノ請求又ハ費用ノ全

部若クハ一分ノ裁判ヲ爲スニ際シ脱漏シタルトキハ申立ニ
因リ追加ノ裁判ヲ以テ判決ヲ補充ス可シ

判決ノ言渡後直チニ追加裁判ノ申立ヲ爲ササルトキハ遅ク

トモ判決ノ正本ヲ送達シタル日ヨリ起算シテ七日ノ期間内
ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

追加裁判ノ申立アルトキハ即時ニ又ハ新期日ヲ定メテ口頭
辯論ヲ爲サシム可シ其辯論ハ訴訟ノ完結セサル部分ニ限り
之ヲ爲ス

第二百四十三條

判決ヲ更正シ又ハ補充スル裁判ハ判決ノ原

本及ヒ正本ニ之ヲ追加シ若シ正本ニ之ヲ追加スルコトヲ得
サルトキハ更正又ハ補充ノ裁判ノ正本ヲ作ル可シ

第二百四十四條

判決ハ其主文ニ包含スルモノニ限り確定力

ヲ有ス

第二百四十五條

口頭辯論ニ基キ爲ス裁判所ノ決定ハ之ヲ言

渡スコトヲ要ス

第二百三十三條、第二百三十四條ノ規定ハ裁判所ノ決定ニ之
ヲ準用シ又第二百三十五條、第二百三十九條及ヒ第二百四十
條ノ規定ハ裁判所ノ決定及ヒ裁判長並ニ受命判事又ハ受託

判事ノ命令ニ之ヲ準用ス
言渡ヲ爲ササル裁判所ノ決定及ヒ言渡ヲ爲ササル裁判長並
ニ受命判事又ハ受託判事ノ命令ハ職權ヲ以テ之ヲ當事者ニ
送達ス可シ

〔註〕裁判所ハ其定メタル口頭辯論ノ期日ヲ當事者ニ知ラシメサル可カラス但シ口頭辯論
ヲ經テ其期日ヲ定メタルトキハ之ヲ當事者ニ言渡シ口頭辯論ニ基カスシテ期日ヲ定メタ
ルトキハ其期日ヲ定メタル判定書ヲ當事者ニ送達スヘキモノトス是レ口頭辯論ヲ開キタ
ルトキハ通常ノ裁判言渡ト更ニ異ナルコトナキニ因ルナリ而シテ言渡ヲ爲ス裁判所ノ決
定ハ口頭辯論ノ終結セシ期日又ハ指定スル期日ニ於テ七日以内ニ之ヲ言渡ササルヘカラ
ス其ノ言渡ヲ爲ストキニ於テハ判決主文ノ朗讀ニ因リテ之ヲ言渡スコトヲ得ルナリ

第三節 缺席判決

〔註〕凡ソ訴訟行爲ヲ怠リタル當事者ハ其訴訟行爲ヲ爲スノ權利ヲ失フハ懈怠ヨリ生スル
一般ノ結果ニシテ第七十三條ノ明規スル所ナリ而シテ其ノ懈怠ヨリ生スル特別ノ結果
ニ至リテハ訴訟法中各場合ニ付キ規定スル所アリ本節ノ規定モ亦特別ノ結果ニ基キテ言
渡ス所ノ判決ニ外ナラサルナリ

第二百四十六條

原告若クハ被告口頭辯論ノ期日ニ出頭セカ

ル場合ニ於テハ出頭シタル相手方ノ申立ニ因リ缺席判決ヲ
爲ス

〔註〕訴訟ヲ爲スニハ各當事者ハ定リタル口頭辯論ノ期日ニ出頭シテ訴訟ニ付テノ辯論ヲ
爲スハ訴訟行爲ノ最モ重ナルモノナリ然ルニ當事者ニ於テ其行爲ヲ爲ササルトキハ法律
上之カ特別ノ結果ヲ規定シタリ蓋シ口頭辯論ノ期日ニ當事者ノ出頭セサル場合三種アリ
當事者双方ノ出頭セサルトキ原告ノミ出頭セサルトキ及ヒ被告ノミ出頭セサルトキ是ナ
リ
當事者双方ノ出頭セサルトキニ於ケル法律上ノ結果ハ第八十八條第二項ニ於テ之ヲ規
定シタリ故ニ本節ニ於テ規定スル所ノモノト異ナリ而シテ本節ニ説明セントスルモノハ
其ノ他ノ二個ノ場合ニシテ原告若クハ被告ノミ缺席ヲ爲シ他ノ一方カ出頭シタル場合ナ
リ即チ左ノ如シ

第一 原告ノミ缺席シタル場合

此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ缺席判決ヲ以テ其訴ヲ却下スヘキモノトス原告ノ訴ヲ却下ス
ルハ法律上定メタル所ノ懈怠ノ結果ナルヲ以テ裁判所ハ原告ノ訴ノ當否ヲ調査スルノ必
要ナキノミナラス又之ヲ調査スヘキモノニ非ス故ニ其訴ノ當否如何ニ關セス直チニ之ヲ
却下スヘシ

原告ノ訴ヲ却下スル裁判所ハ訴訟ノ本案ニ付テノ判決ニシテ不合法トシテ訴ヲ却下スル

モノト同シカラス不適法トシテ訴ヲ却下スルトキハ該判決タルヤ訴ノ當否ニ付テノ裁判ニ非スシテ其訴ニ付キ裁判ヲ爲スヘキモノニ非ストノ裁判ナリ故ニ原告ニ於テ後日再ヒ同一ノ訴訟ヲ提起スルコトヲ得之ニ反シ本案ニ付キ判決ヲ爲シ以テ原告ノ訴ヲ却下シタルトキハ原告ハ後日再ヒ同一ノ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス缺席判決ヲ以テ原告ノ訴ヲ却下スルトキハ即チ本案ニ付テノ判決ナルヲ以テ原告ハ後日再ヒ同一ノ訴訟ヲ提起スルコトヲ得サルナリ

原告ノ訴ヲ却下スル缺席判決ハ訴訟ノ本案ニ付テノ判決ナル以上ハ裁判所ハ該判決ヲ下スニ先チ原告ノ訴ハ訴訟條件ヲ具備スルヤ否ヤヲ調査セサルヘカラス即チ該訴訟ハ適法ノモノナルヤ否ヤ及ヒ裁判所カ職權ヲ以テ調査スヘキ條件ヲ有スルヤ否ヤヲ調査セサルヘカラス故ニ被告ニ於テハ原告ノ缺席アルニモ拘ハラズ尙ホ有效ニ拋棄スルコトヲ得サル妨訴抗辯ヲ提出スルコトヲ得ルナリ即チ無訴權ノ抗辯、專屬管轄ニ付テノ抗辯、訴訟能力ノ缺席及ヒ法律上代理人ノ缺席ノ抗辯ヲ提出スルコトヲ得ルナリ而シテ右妨訴抗辯ヲ正當ト爲シ若クハ其他裁判所カ職權ヲ以テ調査スヘキ條件ヲ缺キタルナリ理由ト爲シ原告ノ訴ヲ却下シタルトキハ該判決タルヤ缺席判決ニ非スシテ非缺席判決ナリ何トナレハ該判決タルヤ訴訟條件ノ欠缺ノ爲メ原告ノ訴ヲ却下スルモノニシテ法律上定メタル所ノ懈怠ノ結果トシテ判決スルモノニ非サレハナリ隨テ該判決ニ對シテハ故障ヲ爲スコトヲ得スシテ通常ノ上訴即チ控訴若クハ上告ヲ爲スコトヲ得ルナリ

第二百四十七條

出頭セサル一方カ原告ナルトキハ裁判所ハ 闕席判決ヲ以テ其訴ノ却下ヲ言渡ス可シ

第二百四十八條

出頭セサル一方カ被告ナルトキハ裁判所ハ 被告カ原告ノ事實上ノ口頭供述ヲ自白シタルモノト看做シ 原告ノ請求ヲ正當ト爲ストキハ闕席判決ヲ以テ被告ノ敗訴ヲ言渡シ又其請求ヲ正當ト爲ササルトキハ其訴ノ却下ヲ言渡ス可シ

〔註〕被告ノミ缺席シタルトキハ被告ハ原告ノ事實上ノ口頭供述ヲ自白シタルモノト看做シ裁判ヲ爲スヘキモノトス即チ被告カ缺席シタル場合ニ於テ原告ノ事實上ノ口頭供述ヲ被告ニ於テ自白シタルモノト看做ストハ原告ノ事實上ノ主張ハ別ニ證據ヲ立テスシテ眞實ナリト看做スヲ云フ而テシ立證ヲ用ヒスシテ眞實ト認ムルハ被告ニ於テ其主張ニ對シ抗辯ヲ爲サスト認メタルニ因ル故ニ原告カ主張スル事實ハ準備書面ニ依リ適當ナル時期ニ於テ豫メ之ヲ被告ニ通知シ置キタルモノニ限ル然ラスンハ假令ヒ原告カ口頭ニテ供述スルモ其事實ヲ以テ被告カ自白シタルモノト看做スヲ得ス隨テ裁判所ハ缺席判決ヲ以テ裁判ヲ爲スコトヲ得ス

既ニ被告カ自白シタルモノト看做シ原告ノ事實上ノ主張ニ依リ裁判ヲ爲スヘキモノナル

カ故ニ其事實ニ由リ法律上ノ理由ヲ適用シ裁判所ハ法律上原告ノ請求ノ全部ヲ正當トナストキハ被告ニ敗訴ノ言渡ヲ爲シ又一部ノミ正當ナリトスルトキハ一部判決ヲ以テ其一部ニ付キ被告ニ敗訴ノ言渡ヲ爲シ他ノ一部ニ付テハ原告ノ訴ヲ却下スヘシ又原告ノ請求ノ全部正當ナラストスルトキハ原告ノ請求ヲ却下スヘシ但シ原告ノ請求ヲ却下スル判決ハ原告ニ對シテハ缺席判決ニ非ス故ニ原告ハ故障ニ依ラスシテ控訴又ハ上告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

以上述タル判決ハ即チ本案ニ付テノ判決ナリ故ニ原告缺席ノ場合ニ於テハ裁判所ハ缺席判決ヲ爲スニ先チ訴訟條件ヲ調査スヘシ尤モ裁判所ノ管轄違ニ付テハ單ニ專屬管轄ニ付テノミ調査スヘキニ非スシテ其他合意ヲ以テ變更スルヲ得ヘキ管轄ニ付テモ亦之ヲ調査スヘシ何トナレハ被告ハ缺席シタルトキハ其管轄ニ付キ合意シタリト云フ能ハサレハナリ而シテ管轄違ナルトキハ裁判所ハ原告ノ訴ヲ却下スルモノニシテ該判決ハ缺席判決ニ非ス但被告カ出頭シテ管轄ニ付キ合意ヲ爲シタル後次ノ辯論期日ニ缺席シタルカ爲メ缺席判決ヲ爲ス場合ハ此限ニ在ラス

第二百四十九條 延期シタル口頭辯論ノ期日又ハ口頭辯論ヲ續行スル爲ニ定ムル期日モ亦第二百四十六條ノ辯論期日ニ同シ

〔註〕口頭辯論ノ期日ハ常ニ一日ニ限ルモノニ非スシテ或ハ既ニ定メタル期日ヲ變更シ又ハ辯論ヲ續行スル爲メ更ニ他ノ期日ヲ定ムルコトアリ而シテ其ノ延期又ハ辯論續行ノ期日ニ於テ當事者ノ一方出頭セサルコトアルモ是レ又辯論期日ニ出頭セサルモノナルコト明ナリ故ニ懈怠ノ結果ニ因リ缺席判決ヲ爲スヘキモノトス是レ我カ訴訟法ニ於テハ口頭辯論ハ唯一ノモノナルコトヲ原則ト爲シタルモノナルカ故ニ辯論期日ヲ數回ニ分ツコトアルモ之カ爲メ口頭辯論ヲ數回ニ分チタルモノニ非スシテ其數回ヲ通シテ以テ一個ノ口頭辯論ト看做スモノナリ故ニ最終ノ辯論期日ニ出頭セサルモノハ始メヨリ辯論ニ出頭シタルコトナキ者ト一般ナリ是ヲ以テ最初ノ辯論期日ニ出頭スルモ其續行ノ期日ニ出頭セサルトキハ是レ又全ク口頭辯論ニ出頭セサル者ナレハ缺席ト同シク懈怠ノ結果ニ因リ判決ヲ爲スヘキモノトス

果シテ然ラハ前期日ニ於テ已ニ證據決定若クハ證據調ヲ爲シ又ハ當事者ノ裁判上自白アルモ裁判所ニ於テ缺席判決ヲ爲スニ當リテハ裁判所ハ是等ノ裁判若クハ結果ニ依ルヘキニ非スシテ直チニ法律上ノ懈怠ノ結果ニ依リ缺席判決ヲ爲スヘシ

第二百五十條 原告若クハ被告出頭スルモ辯論ヲ爲ササルトキ又ハ辯論ヲ爲サスシテ任意ニ退廷シタルトキハ出頭セサルモノト看做ス

〔註〕當事者カ辯論期日ニ出頭スルモ辯論ヲ爲サス又ハ辯論ヲ爲サシテ任意ニ退廷シタルトキハ是レ亦缺席シタルモノト見做ス

第二百五十一條 原告若クハ被告カ本案ノ辯論ヲ爲シタルトキハ各箇ノ事實、證書又ハ發問ニ付キ陳述ヲ爲サス又ハ任意退廷スルモ本節ノ規定ヲ適用セス

〔註〕當事者ニ於テ本案ニ付キ辯論ヲ爲シタルキハ假令任意ニ退廷シ若クハ事實、證書又ハ發問ニ對シ陳述ヲ爲ササルモ之ヲ以テ缺席ト看做スヲ得ス隨テ缺席判決ヲ爲ス能ハス本案ノ辯論トハ當事者ヨリ裁判所ニ對シ訴訟事件ニ付キ事實上及ヒ法律上ノ點ニ關スル供述ヲ云フ故ニ訴訟事件ニ付キ單ニ事實上ノ説明ヲ爲シ若クハ法律上ノ説明ヲ爲スモ是レ唯タ辯論ノ一部ニ過キスシテ是ヲ以テ完全ナル辯論ト云フヲ得ス彼ノ當事者ニ於テ爲ス所ノ一定ノ申立ナルモノモ亦辯論ノ一部ヲ爲スモノナリ爲レトモ之ヲ以テ完全ナル辯論ト云フヲ得ス而シテ説明中ニ於テ事實上及ヒ法律上ニ關スル供述アルトキハ其供述ノ多少アルモ共ニ之ヲ辯論ト云ハサルヲ得ス之ヲ要スルニ當事者ニ於テ訴訟事件ニ付キ如何ナル事實及ヒ理由ナルニ因リ如何ナル判決ヲ受ケンコトヲ求ムルヤヲ供述シタルトキハ則チ本案ノ辯論アリタリト云フヘシ

右ノ理由ナルヲ以テ辯論期日ニ於テ一定ノ申立ノミヲ爲シ又事實上ノ供述ノミヲ爲スモ未タ法律上ノ關係ニ付キ何等ノ主張ヲ爲サスシテ辯論ヲ中止シタルトキハ未タ本案ニ付キ辯論アリト云フヲ得ス隨テ續行期日ニ其當事者カ欠席スルトキハ又缺席判決ヲ爲スコトヲ得ルナリ

本案ニ付キ辯論ヲ爲サス單ニ訴訟條件ニ付テノミ辯論ヲ爲シタルトキモ亦同シ例ヘハ管轄違ノ申立ヲ爲シ本案ニ付キ辯論ヲ爲ササルトキハ其管轄違ニ付キ判決ヲ爲シタル後チ當事者ニ於テ尙本案ニ付キ辯論ヲ爲ササルトキハ相手方ノ申立ニ依リ缺席判決ヲ爲スコトヲ得ルナリ

第二百五十二條 左ノ場合ニ於テハ闕席判決ノ申立ヲ却下ス然レトモ出頭シタル原告若クハ被告ハ口頭辯論ノ延期ヲ申立ツルコトヲ得

- 第一 出頭シタル原告若クハ被告カ裁判所ノ職權上調査ス可キ事情ニ付キ必要ナル證明ヲ爲ス能ハサルトキ
- 第二 出頭セサル原告若クハ被告ニ口頭上事實ノ供述又ハ申立ヲ適當ナル時期ニ書面ヲ以テ通知セサルトキ
- 辯論ヲ延期シタルトキハ出頭セサル原告若クハ被告ヲ新期日ニ呼出ス可シ

〔註〕欠席判決ハ本案ニ付テノ判決ナルカ故ニ裁判所カ之ヲ爲スニハ先ツ其訴訟條件ヲ具備スルヤ否ヤヲ定メサルヘカラス故ニ欠席ノ場合ニ於テモ裁判所ハ職權ヲ以テ其訴訟條件ヲ調査スヘク而シテ其調査ノ結果訴訟カ其條件ヲ具備セサルコト判然タリシトキハ裁判所ハ本案ニ對シ判決ヲ爲スニ及ハス直チニ其訴訟ヲ却下スヘシ然レトモ出頭シタル當事者ニ於テ訴訟條件ヲ具備スルコトノ證明ヲ爲ス能ハサルモ後日之カ證明ヲ爲シ得ヘシト思考シタル場合即チ訴訟條件ヲ具備セサルコトノ判然タラサル場合ニ於テハ裁判所ハ直チニ本案ニ付キ裁判ヲ爲スコトヲ得サルモノナルカ故ニ假令ヒ欠席判決ノ申立アルモ之ヲ却下スヘキモノトス

又出頭シタル者カ欠席者ニ對シ豫メ適當ナル時期ニ於テ事實上ノ申立ヲ書面ニテ通知セカリシトキニハ欠席者ハ其事實ノ自白ヲ爲シタルモノト云フヲ得ス隨テ欠席判決ヲ爲スコトヲ得ス而シテ事實上ノ供述又ハ申立ヲ自白シタルモノト看做シ欠席判決ヲ爲スハ被告カ欠席ノトキニ限ルモノニシテ原告ノ欠席シタルトキニ非ス故ニ本條第二號ハ被告反訴ノ被告、被控訴人及ヒ被上告人等ノ欠席シタル場合ニ適用スヘキナリ
以上ニ述ヘタル二個ノ場合ニ於テハ裁判所ハ決定ヲ以テ缺席判決ノ申立ヲ却下ス而シテ出頭シタル者ヨリ辯論期日ノ延期ヲ申立タルトキハ裁判所ハ之ヲ許可スヘク而シテ新期日ニ於テハ前ノ缺席者ヲモ呼出スヘシ

第二百五十三條 闕席判決ノ申立ヲ却下スル決定ニ對シテハ

即時抗告ヲ爲スコトヲ得又其決定ヲ取消シタルトキハ出頭セカリシ原告若クハ被告ヲ新期日ニ呼出サスシテ闕席判決ヲ爲ス

〔註〕前條ノ決定ニ對シ即時抗告ヲ爲シ而シテ裁判所カ右決定ヲ取消シタルトキハ欠席者ヲ呼出サスシテ欠席判決ヲ爲スヘシ

第二百五十四條 裁判所ハ左ノ場合ニ於テハ職權ヲ以テ闕席

判決ノ申立ニ付テノ欠席ヲ延期スルコトヲ得

第一 出頭セサル原告若クハ被告カ合式ニ呼出サレサリシトキ

第二 出頭セサル原告若クハ被告カ天災其他避ク可カラサル事變ノ爲ニ出頭スル能ハサルコトノ眞實ト認ム可キ事情アルトキ
出頭セカリシ原告若クハ被告ハ新期日ニ之ヲ呼出ス可シ

〔註〕本條ノ場合ハ欠席判決ヲ爲サスシテ裁判所ハ職權ヲ以テ欠席判決ノ申立ニ付テノ辯

論ヲ延期スル場合ヲ規定シタルモノナリ

第一號ハ出頭セサル原告若クハ被告カ合式ニ呼出サレサル場合ニシテ即チ法律ノ規定ニ違フタル不適法ノ送達ヲ受ケタル場合ニシテ此場合ニ於テハ當事者カ出頭セサルハ當事者ノ過失ニ出テタルモノト云フヲ得ス故ニ直チニ欠席判決ヲ爲サス先ツ欠席判決ノ申立ニ付テノ辯論ヲ延期スルモノトス

第二號ハ欠席者カ天災其他ノ不可抗力即チ避クヘカラサル事故ニテ出頭スルコト能ハサル場合ナリ例ヘハ洪水地震暴風雨ノ爲メ通行スルヲ得サリシトキノ如シ此場合ニ於テモ亦當事者ノ過失ニ非スシテ出頭セサリシモノト云フ可キヲ以テ欠席判決ヲ爲サスシテ欠席判決ノ申立ニ付テノ辯論ヲ延期スヘシ

右二個ノ場合ニ於テハ裁判所ハ新期日ヲ定メテ更ニ當事者ヲ呼出スヘク即チ先キニ欠席シタル者ヲモ呼出スヘシ此新期日ニ於テハ裁判所ハ前ノ期日ニ出頭セサリシ者ハ果シテ合式ノ呼出ナキカ爲メナリシカ又ハ天災等ノ爲メナリシカヲ調査シ若シ此等ノ事情ナクシテ出頭セサリシトキハ先ツ欠席者ノ出頭シタルニ拘ハラス尙ホ欠席判決ヲ爲シ若シ其一ノ原因ニ由テリ出頭セサリシモノナルトキハ本案ニ付キ辯論ヲ爲サシムヘキモノトス

第二百五十五條

闕席判決ヲ受ケタル原告若クハ被告ハ其判決ニ對シ故障ヲ申立ツルコトヲ得

故障申立ノ期間ハ十四日トス此期間ハ不變期間ニシテ闕席判決ノ送達ヲ以テ始マル

故障申立ハ判決送達ノ前ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得

外國ニ於テ送達ヲ爲スコトキ又ハ公ノ告示ヲ以テ之ヲ爲スヘキトキハ裁判所ハ闕席判決ニ於テ故障期間ヲ定メ又ハ後日決定ヲ以テ之ヲ定ム此決定ハ口頭辯論ヲ經スシテ爲スコトヲ得

〔註〕故障トハ欠席判決ニ對スル法律上ノ救濟方法ニシテ欠席判決ヲ受ケタル者ニ屬ス故ニ欠席判決ノ申立ヲ爲シタル者ハ故障ニ依リテ欠席判決ニ對シ不服ヲ申立ツルコトヲ得スシテ通常ノ上訴即チ控訴若クハ上告ニ依リ不服ヲ申立ツルノ外ナシ是ヲ以テ欠席判決ニ對シテハ欠席判決ヲ受ケタル者ヨリ故障ヲ爲シ而シテ欠席判決ノ申立ヲ爲シタル者ヨリハ之ニ對シ上訴ヲ爲スコトヲ得ルナリ

此ノ如ク一ノ欠席判決ニ對シテ一方ヨリ故障ヲ爲シ他ノ一方ヨリ上訴即チ控訴若クハ上告ヲ爲シタル場合ニ於テハ故障ノ完結ニ至ルマテ上訴ニ付テノ辯論ヲ延期ス故障ハ欠席判決ヲ爲シタル裁判所ニ書面ヲ差出シテ之ヲ爲スモノトス但シ區裁判所ニ於テハ敢テ書面ヲ要セス調書ニ記載セシメテ之ヲ爲スコトヲ得ルナリ

右書面ニハ次條ニ列記スル所ノ條件ヲ記載スルヲ要ス即チ如何ナル缺席判決ニ對シテ故障ヲ爲スヤチ明ニスル爲メ其ノ判決ノ表示ヲ爲スコト及ヒ故障ノ申立是レナリ而シテ該書面タルヤ單ニ故障ノ申立ノミニ付キ差出スモノニ非スシテ同時ニ本案ニ付テノ準備書面ノ性質ヲ有スルモノナルカ故ニ右必要條件ノ外尙ホ本案ニ付テノ準備書面トシテ必要ナル事項例ヘハ本案ニ付テノ一定ノ申立若クハ新ナル事實證據等ヲ記載スヘシ但右準備ノ事項ハ必要條件ニ非サルカ故ニ之ヲ記載セサルモ爲メニ不利益ヲ來タスノ恐ナキモノトス

故障ノ申立ハ十四日ノ不變期間内ニ之ヲ爲スヘキモノニシテ其期間ハ缺席判決ノ送達ヨリ起算ス若シ外國ニ於テ送達ヲ爲スヘキトキ又ハ公示送達ニ依ルヘキトキハ右十四日ノ不變期間内ニ故障ヲ爲スヲ得サルモノナルニ付キ裁判所ハ特ニ缺席判決中ニ適當ナル故障期間ヲ定メ之ヲ言渡スヘク若シ之ヲ缺席判決中ニ定メサリシトキハ後日口頭辯論ヲ經スシテ直チニ決定ヲ以テ其期間ヲ定メ之ヲ當事者ニ送達スヘシ但故障ハ缺席判決ノ送達前ニ爲シタルモノト雖モ尙ホ適法ナルモノナリ

第二百五十六條

故障申立ハ缺席判決ヲ爲シタル裁判所ニ書面ヲ差出シテ之ヲ爲ス
此書面ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 故障ヲ申出テラレタル缺席判決ノ表示

第二 其判決ニ對スル故障ノ申立

此書面ニハ本案ニ付テノ口頭辯論準備ノ爲ニ必要ナル事項アルトキモ亦之ヲ掲ク可シ

〔註〕本條ハ前條ニ述ヘタル故障申立ニ付テ記載スル所ノ條件ヲ明示スルモノニシテ即チ如何ナル缺席判決ニ對シテ故障ヲ爲スヤチ明ニスル爲メ其判決ノ表示ヲ爲スコト及ヒ故障ノ申立是ナリ而シテ該書面タルヤ單ニ故障ノ申立ノミニ付キ差出スモノニ非スシテ同時ニ本案ニ付テノ準備書面ノ性質ヲ有スルモノナルカ故ニ右必要條件ノ外尙ホ本案ニ付テノ準備書面トシテ必要ナル事項例ヘハ本案ニ付テノ一定ノ申立若クハ新ナル事實證據等ヲ記載スヘシ但シ右準備書面ノ事項ハ必要條件ニ非サルカ故ニ之ヲ記載セサルモ爲メニ不利益ヲ來タスノ恐ナキモノトス

第二百五十七條

判然許ス可カラサル故障又ハ判然法律上ノ方式ニ適セス若クハ其期間ノ經過後ニ起シタル故障ハ裁判長ノ命令ヲ以テ之ヲ却下ス可シ此却下ノ命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

〔註〕缺席判決ヲ受ケタル者ヨリ故障申立ヲ爲シタルトキハ裁判長ハ先ツ其故障ハ許スヘ

キモノナルヤ否ヤ例ハ法律上所謂缺席判決ニ對スルモノナルヤ又前條ノ要件ヲ具備スルヤ及ヒ第二百五十五條ニ定メタル期間内ニ提出シタルモノナルヤ否ヤヲ調査シ而シテ其一ヲ缺クコト判然タルトキハ裁判長ニ於テ命令ヲ以テ故障ヲ不適法トシテ却下スルコトヲ得ルナリ但シ此定規ハ故障申立カ右ノ條件ニ違背スルコト判然タル場合ニノミ適用スヘキモノニシテ法律上ノ見解等ニ依リ缺席判決ト見ルヘキモノナルヤ否ヤ判決ノ表示アリト見做スヘキヤ否ヤ又ハ期間ノ經過如何等ニ疑ヲ生シ得ヘキモノナルトキハ命令ヲ以テ之ヲ却下スヘキモノニ非ス要スルニ故障ヲ却下スルノ權利ヲ裁判長ニ與ヘタルハ實ニ便宜上ニ出タル規定ナルヘキナリ

第二百五十八條 前條ノ場合ヲ除ク外裁判所ハ故障申立ノ書面ヲ相手方ニ送達シ且故障ニ付キ口頭辯論ノ新期日ヲ定メ當事者ノ雙方ヲ呼出ス可シ

〔註〕故障カ不適當ナルコト判然タラサル場合ニ於テハ通常ノ訴訟ノ如ク故障申立書ヲ相手方ニ送達シ且辯論期日ヲ定メ當事者ヲ呼出スヘシ而シテ辯論期日於テハ裁判所ハ先ツ其故障ハ適法ナルヤ否ヤヲ調査ス即チ許スヘキ故障ナルヤ否ヤハ例ハ第二ノ新缺席判決又ハ非缺席判決ニ對スル故障ナラサルヤ第二十五十六條ノ方式ヲ遵守シタルモノナルヤ第二百五十五條ノ期間内ニ提出シタルモノナルヤ等ヲ調査シ若シ其一ヲ缺クトキハ

判決ヲ以テ故障ヲ不適法トシテ却下スヘシ却下ヲ言渡ス判決ハ所謂本案ニ對スルモノニ非サルヲ以テ當事者ノ一方カ缺席シタルトキト雖モ缺席判決ヲ以テスルモノニ非ス何トナレハ該判決ハ懈怠ノ結果トシテ之ヲ言渡スモノニ非スシテ裁判所カ職權上ノ調査ノ結果トシテ言渡スモノナレハナリ故ニ此判決ニ對シテハ故障ヲ許サシテ控訴若クハ上告ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ

第二百五十九條 裁判所ハ職權ヲ以テ故障ヲ許ス可キヤ否ヤ又法律上ノ方式ニ從ヒ若クハ其期間ニ於テ故障ヲ申立テタルヤ否ヤヲ調査スヘシ
若シ此要件ノ一ヲ缺クトキハ判決ヲ以テ故障ヲ不適法トシテ棄却ス

第二百六十條 故障ヲ適法トスルトキハ訴訟ハ闕席前ノ程度ニ復ス

〔註〕故障ノ適法ナルトキハ訴訟ハ缺席前ノ程度ニ復スルナリ蓋シ訴訟ニ於テ當事者ノ欠席シタリト看做スヘキノ時期ハ缺席判決ノ言渡後ニ生スルモノニ非サルノミナラス口頭辯論ノ終結後ニ生スルモノニモ非スシテ出頭シタル當事者ヨリ申立ヲ爲シタルニ依リ生シタルモノト看做スヘシ故ニ故障ノ適法ナルトキハ訴訟ハ出頭シタル當事者カ缺席判決

◎第二編第一卷ノ訴訟手續 第一章地方裁判所ノ訴訟手續

ノ申立ヲ爲シタル前ノ程度ニ復シ隨テ故障申立人又ハ其相手方ハ新ナル攻撃防禦ノ方法ヲ提出スルヲ得ルナリ

第二百六十一條 新辯論ニ基キ爲ス可キ判決カ闕席判決ト符合スルトキハ闕席判決ヲ維持スルコトヲ言渡シ其符合セサル場合ニ於テハ新判決ニ於テ闕席判決ヲ廢棄ス

〔註〕故障ヲ適法トシテ訴訟方缺席前ノ程度ニ復シタルトキハ裁判所ハ續テ本案ニ付キ裁判ヲ爲スヘシ其裁判タルヤ或ハ訴訟條件ノ欠缺即チ管轄違又ハ無訴權等ノ爲メ訴ヲ却下スルコトアリ或ハ本案ニ付キ裁判ヲ爲スコトアリ而シテ其判決カ缺席判決ト同一ノ結果ニ出ルトキハ缺席判決ヲ維持スル言渡ヲ爲シ之ニ違フトキハ缺席判決ヲ廢棄シ更ニ裁判ヲ爲スヘク若シ一部ハ缺席判決ト同シク又一部ハ之ニ違フトキハ缺席判決ノ一部ヲ廢棄シテ更ニ一部ノ判決ヲ爲スヘシ但シ訴訟費用ニ付テハ缺席判決ヲ廢棄シタルヤ否ヤニ付キ區別ヲ爲ササルヘカラス

第二百六十二條 法律ニ從ヒ闕席判決ヲ爲シタルトキ闕席ニ因リテ生シタル費用ハ相手方ノ不當ナル異議ニ因リ生セサルモノニ限り闕席ノ爲メ闕席判決ヲ變更スル場合ニ於テモ其闕席シタル原告若シハ被告ニ之ヲ負擔セシム

〔註〕缺席判決ヲ維持シタルトキハ訴訟費用ハ故障申立人ニ於テ負擔スヘシ又若シ缺席判決ヲ廢棄シタルトキハ更ニ其缺席判決ハ適法ノモノナルヤ否ヤニ付キ區別ヲ爲ササル可カラズ即チ前ノ判決カ第二百五十二條ノ規定ニ違背シタルカ又ハ訴訟條件ノ不備ノ點ニ因リ判決スヘキニ之ヲ爲サスシテ缺席判決ヲ爲シタルモノナルトキハ訴訟費用ハ缺席ト故障トチ合シ一個ノ訴訟費用ト看做シ敗訴者之ヲ負擔シ若シ適法ナル缺席判決ナルトキハ故障ニ關スル費用ハ假令勝訴ト爲ルモ故障申立人ニ於テ之ヲ負擔スルハ勿論相手方カ不當ナル異議ヲ述ヘタルカ爲メ特ニ費用ヲ生シタルトキハ其費用ハ相手方ニ於テ負擔ス

第二百六十三條 故障ヲ申立テタル原告若シハ被告口頭辯論ノ期日又ハ辯論延期ノ期日ニ出頭セサルトキハ第二百五十二條及ヒ第二百五十四條ニ規定シタル場合ヲ除ク外出頭シタル相手方ノ申立ニ因リ故障ヲ棄却スル新闕席判決ヲ言渡ス

新闕席判決ニ對シテハ故障ヲ申立ツルコトヲ得

〔註〕故障ノ申立ヲ爲シタル後申立人カ辯論期日ニ出頭セサルカ又ハ其辯論延期ノ期日ニ出頭セサルトキハ缺席判決ヲ以テ故障ヲ棄却ス但シ第二百五十二條及ヒ第二百五十四條ノ場合ハ此限ニ在ラス此ノ如ク故障ヲ棄却スル缺席判決ニ對シテハ更ニ故障ヲ爲スコト

◎第二編第一卷ノ訴訟手續 第一章地方裁判所ノ訴訟手續

ヲ許サス然レトモ故障ニ付キ既ニ辯論ヲ爲シテ而シテ裁判所力之ヲ適法トシタルトキハ
訴訟ハ缺席前ノ程度ニ復スルモノナルカ故ニ其後ニ於テ故障申立ルカ缺席スルモ裁判所
ハ之ニ因リテ故障ヲ棄却スルヲ得スシテ通常ノ缺席判決ト同シク本案ニ付テノ缺席判決
ヲ爲スヘシ故ニ該缺席判決ハ故障ヲ棄却スルモノニ非スシテ隨テ缺席者ハ之ニ對シ更ニ
故障ヲ爲スコトヲ得ルナリ

第二百六十四條 故障ノ拋棄及ヒ其取下ニ付テハ控訴ノ拋棄
及ヒ其取下ニ付テノ規定ヲ準用ス

第二百六十五條 本節ノ規定ハ反訴又ハ既ニ原因ノ確定シタ
ル請求ノ數額ノ定テ目的物トスル訴訟手續ニ之ヲ準用ス
中間訴訟ノ辯論ノ爲メ期日ヲ定メタルトキハ其闕席手續訴訟
訟及ヒ闕席判決ハ其中間訴訟ヲ完結スルニ止マリ本節ノ規
定ヲ之ニ準用ス

〔註〕本節ノ規定ハ反訴又ハ既ニ原因ノ決定シタル請求ノ數額即チ金錢物品ノ數量ニ爭テ
生シ其數ヲ定メタル爲メ訴訟ヲ起シタル場合ニモ之ヲ適用スルモノトス又中間判決即チ
主タル訴訟中之ニ關係シテ生シタル事件モ獨立ニ判決スヘキ訴訟ニモ之ヲ準用スルナリ

第四節 計算事件、財産分別及ヒ此ニ類スル訴訟ノ準備手續

第二百六十六條 計算ノ當否、財産ノ分別又ハ此ニ類スル關係
ヲ目的トスル訴訟ニ於テ計算書又ハ財産目錄ニ對シ許多ノ
爭アル請求ノ生シ又ハ許多ノ爭アル異議ノ生シタルトキハ
受訴裁判所ハ受命判事ノ面前ニ於ケル準備手續ヲ命スルコ
トヲ得

〔註〕以上説明シタル所ハ訴ノ提起ヨリ判決ニ至ルマテノ訴訟手續ニシテ以テ訴訟審理ノ
始終ヲ規定シタルナリ然レトモ其判決ヲ爲スニ先チ訴訟審理ノ手續上準備手續ナル特
別手續ヲ要スルコトアリ本節ハ即チ其準備手續ニ關スル規定ニシテ判決前ニ於ケル審理
手續ノコトヲ明示セルナリ

訴訟中計算、財産ノ分別其他之ニ類スル關係ヲ目的トスル訴訟ニ於テハ許多ノ爭點ヲ生
シタルトキ口頭辯論ノ期日ニ於テ一々其爭點ヲ明ニシ及ヒ之ニ對スル證據抗辯ヲ調査セ
ントセハ審理上非常ノ錯雜ヲ來スノミナラス之カ爲メ訴訟ヲ遲延スルノ恐アリ此ノ如キ
場合ニ於テ其爭點ヲ明ニシ之カ判定ヲ容易ナラシメントスルニハ口頭審理ニ依ルヨリハ
寧ロ書面ヲ以テ審理スルノ方法ニ依リ之カ調査ヲ爲スニ便トス是ヲ以テ受訴裁判所ハ計
算事件等ニシテ爭點ノ夥多ナルモノニ付テハ受訴裁判所ノ部員一名ヲシテ準備手續ヲ爲

◎第二編第一卷ノ訴訟手續 第一章地方裁判所ノ訴訟手續

カシムルヲ得ルナリ而シテ準備手續ニ付テハ受命判事ハ當事者ノ事實上ノ主張及ヒ攻撃防禦ノ方法ヲ明ニシタル上之ヲ受訴裁判所ニ還付シ受訴裁判所ハ主トシテ其訴訟ノ權利上ノ爭ヲ斷定シテ判決ヲ爲スニ過キス故ニ通常ノ審理手續ニ於テハ口頭審理ニ依リ爲スヘキ所ノモノヲ準備手續ニ於テハ書面ヲ以テ之ヲ爲スモノトス

第二百六十七條 準備手續ヲ命スル決定ヲ言渡スニ際シ裁判長ハ受命判事ヲ指定シ決定施行ノ期日ヲ定ム可シ若シ裁判長此期日ヲ定メサルトキハ受命判事之ヲ定ム又受命判事其委任ヲ施行スルニ差支アルトキハ裁判長更ニ他ノ判事ヲ任ス

〔註〕本條ハ前條ニ於テ述ヘタル説明ニ依リ明カナレハ之ヲ略ス

第二百六十八條 準備手續ニ於テハ調書ヲ以テ左ノ諸件ヲ明確ニス可シ

- 第一 如何ナル請求ヲ爲スヤ及ヒ如何ナル攻撃防禦ノ方法ヲ主張スルヤ
- 第二 如何ナル請求及ヒ如何ナル攻撃防禦ノ方法ヲ爭フ

ヤ又ハ之ヲ爭ハサルヤ

第三 爭ト爲リタル請求及ヒ爭ト爲リタル攻撃防禦ノ方法ニ付テハ其實上ノ關係及ヒ當事者ノ表示シタル證據方法、主張シタル證據抗辯、證據方法並ニ證據抗辯ニ關シテ爲シタル陳述及ヒ提出シタル申立

此手續ハ受訴裁判所ニ於テ訴訟又ハ中間訴訟カ判決又ハ證據判定ヲ爲スニ熟スルマテ之ヲ續行ス可シ

〔註〕準備手續ニ於ケル調書ニハ如何ナル諸件ヲ明確ニスヘキヤハ本條ニ明記スル所ナリ即チ第一號ヨリ第三號ニ至ル事項ヲ明確ニスヘキモノトス而シテ當事者ニ於テ準備手續中ニ提出セカリシ攻撃防禦ノ方法ハ準備手續ノ結了後ニ於テハ之ヲ提出スルヲ得ス是レ即チ書面審理ノ特色ニシテ該手續ハ總テノ攻撃防禦ノ方法ヲ明確ニスルノ目的ニ出テタルモノナレハナリ但シ準備手續結了後ニ於テ始メテ生シ又ハ始メテ當事者ノ知ル所ト爲リタルコトノ説明アルトキハ準備手續ニ於テ提出セカリシ所ノ攻撃防禦ノ方法モ後日口頭辯論ニ於テ之ヲ提出スルコトヲ得ルナリ

第二百六十九條 原告若クハ被告カ期日ニ於テ受命判事ノ面前ニ出頭セサルトキハ受命判事ハ前條ノ規定ニ依リ調書ヲ

以テ出頭シタル原告若クハ被告ノ提供ヲ明確ニシ且新期日ヲ定メ出頭セサル原告若クハ被告ニハ調書ノ謄本ヲ付與シテ新期日ニ之ヲ呼出ス可シ

原告若クハ被告カ新期日ニモ亦出頭セサルトキハ送達セシ調書ニ掲ケタル相手方ノ事實上ノ主張ヲ自白シタリト看做シ其主張ニ付テノ準備手續ハ完結シタルモノトス

〔註〕準備手續ノ期日ニ於テ當事者双方出頭セサルトキハ訴訟ハ休止トナル若シ一方出頭セサルトキハ出頭シタル者ノ供述ヲ明確ニシ其調書ノ謄本ヲ出席者ニ送達シ新期日ニ再ヒ之ヲ呼出スヘシ而シテ新期日ニ於テモ尙ホ出頭セサルトキハ調書ニ記載シタル相手方ノ主張ハ之ヲ自白シタルモノト看做ス

第二百七十條

受訴裁判所ハ準備手續ノ終結後ニ口頭辯論ノ期日ヲ定メ之ヲ當事者ニ通知ス可シ

〔註〕受訴裁判所ハ準備手續ニ付キ判決ヲ爲スニ充分ト認ムル時マテ之ヲ爲シ若シ判決ヲ爲スニ熟シタルトキハ準備手續ヲ結了シテ事件ヲ受訴裁判所ニ還付スヘシ

第二百七十一條

當事者ハ口頭辯論ニ於テ準備手續ノ結果ヲ

調書ニ基キ演述ス可シ

原告若クハ被告カ出頭セサルトキハ準備手續ニ於テ爭ハサル請求ハ一分判決ヲ以テ之ヲ完結ス其他ニ付テハ申立ニ因リテ闕席判決ヲ爲ス可シ

〔註〕受訴裁判所ハ新二期日ヲ定メ當事者ヲシテ辯論ヲ爲サシム而シテ當事者ハ調書ニ基キ準備手續ノ結果ニ付キ陳述ヲ爲スヘシ

受訴裁判所ハ右陳述ノ後チ準備手續ノ結果ニ基キ裁判ヲ爲ス但當事者ノ一方カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セサルモ準備手續ニ於テ爭ハサル請求ニ付テハ裁判所ハ缺席判決ヲ爲サス一部判決ヲ以テ裁判ヲ爲シ其他ノ部分ニ付テハ出頭シタル當事者ノ申立ニ依リ缺席判決ヲ爲スモノトス

第二百七十二條

受命判事ノ調書ヲ以テ明確ニス可キ事實又ハ證書ニ付キ陳述ヲ爲サス又ハ之ヲ拒ミタルトキハ口頭辯論ニ於テ之ヲ追完スルコトヲ得ス

請求攻撃若クハ防禦ノ方法證據方法及ヒ證據抗辯ニシテ受命判事ノ調書ヲ以テ之ヲ明確ニセサルモノニ付テハ後日ニ至リ始メテ生シ又ハ後日ニ至リ始メテ原告若クハ被告ノ知

◎第二編第一審ノ訴訟手續 第一章地方裁判所ノ訴訟手續

リタルコトヲ疏明スルトキニ限り口頭辯論ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ得

〔註〕受命判事ノ調書中明確ナラサル所アルモ又ハ證書ニ付キ陳述スヘキ所アルモ之ニ付テ陳述ヲ爲サス又ハ陳述ヲ拒ミタルトキハ口頭辯論ニ於テ之ヲ陳述シテ追完スルコトヲ得サルモノトス然レトモ後日ニ至リ此等ノ事實カ始メテ生スルカ若クハ當事者力之ヲ知リタルコトヲ疏明スルトキハ口頭辯論ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ得ルモノトス

第五節 證據調ノ總則

第二百七十三條 證據調ハ受訴裁判所ニ於テ之ヲ爲スヲ以テ通例トス

證據調ハ此法律ニ定メタル場合ニ限り受訴裁判所ノ部員一名ニ之ヲ命シ又ハ區裁判所ニ之ヲ囑託スルコトヲ得
此證據調ヲ命スル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

〔註〕口頭辯論ノ期日ニ於テ當事者ノ演述ニ引續キ證據調ヲ爲ストキハ特ニ裁判所ノ裁判ヲ要セサルモ新ナル期日ニ於テ證據調ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ裁判所ハ證據決定ヲ以テ證據調ヲ命ス而シテ其決定アリタルトキハ新期日ニ於テ證據調ヲ爲シ其證據調ニ引續キ

訴訟ノ辯論ヲ爲スヘシ

證據調ハ受訴裁判所ニ於テ之ヲ爲スナ原則トスレトモ訴訟法ニ特定シタル場合ニ於テハ受命判事若クハ受託判事ヲシテ證據調ヲ爲サシムルコトヲ得

受訴裁判所ノ部員ノ一名又ハ區裁判所ノ判事ヲシテ證據調ヲ爲サシムル場合ハ證據方法ノ種類ニ因リ同シカラス

受命判事又ハ受託判事ヲシテ證據調ヲ爲サシムルニハ決定ヲ以テ之ヲ命ス此ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二百七十四條 當事者ノ申立テタル數多ノ證據中其調フ可

キ限度ハ裁判所之ヲ定ム

當事者ノ演述ニ引續キ直チニ證據調ヲ爲サスシテ受訴裁判所ニ於テ新期日ニ之ヲ爲シ又ハ受命判事若クハ受託判事ノ面前ニ於テ之ヲ爲ス可キトキハ證據決定ニ因リ之ヲ命ス可シ

〔註〕證據調ノ數多ナルコトアリ此ノ數多ノ證據ハ必ス皆調フヘキモノトセス其ノ證據中取調フヘキモノノ限度ヲ定メテ調フヘキハ裁判所ノ自由ナリトス

當事者ノ演述ニ引續キ直チニ證據調ヲ爲サスシテ受訴裁判所ニ於テ新期日ニ之ヲ爲シ又ハ受命判事若クハ受託判事ノ面前ニ於テ之ヲ爲スヘキトキハ證據決定ニ因リテ之ヲ命ス

第二百七十五條 證據調ニ付キ不定時間ノ障礙アルトキハ申立ニ因リ相當ノ期間ヲ定ム可シ此期間ノ滿了後ト雖モ訴訟手續ヲ遲滯セシメサル限リハ其證據調方法ヲ用ヰルコトヲ得

〔註〕不定時間ノ障礙アルトハ何日ト云フ限リナク差支アルチ云フ此ノ場合ニハ當事者ヨリノ申立ニ依リ相當ノ期間ヲ定メテ證據調ヲ爲スヘシ此期間滿了後ト雖モ訴訟手續ヲ遲滯セシメサル限リニ於テ其證據方法ヲ用ヰルコトヲ得ルモノトス

第二百七十六條

證據決定ニハ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一 證ス可キ係爭事實ノ表示

第二 證據方法ノ表示殊ニ證人又ハ鑑定人ヲ訊問ス可キトキハ其表示

第三 證據方法ヲ申出テタル原告若クハ被告ノ表示

〔註〕證據調ヲ爲シタルトキハ之ヲ決定ヲ爲ササルヘカラス其ノ決定ニ掲クヘキ事項ハ左ノ如シ

第一 證スヘキ係爭事實ノ表示

第二 證據方法ノ表示殊ニ證人又ハ鑑定人ヲ訊問スヘキトキハ其表示

第三 證據方法ヲ申出テタル當事者ノ表示
右三個ノ條件ヲ記載シアルモ次條ノ規定ニ依リ之ヲ變更ヲ爲スコトヲ得ルナリ而シテ別ニ説明ヲ要スヘキ意義ナキヲ以テ之ヲ略ス

第二百七十七條

證據決定ノ施行ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス
リテ新ナル辯論ニ基クトキニ限リ之ヲ申立ツルキトヲ得
證據決定ノ施行ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

〔註〕證據決定ハ其決定ヲ爲シタル裁判所ヲ羈束スルモノニ非ス故ニ裁判所ハ其決定ヲ施行スル前ニ於テハ之ヲ變更スルコトヲ得然レトモ證據決定ノ變更ハ新ナル辯論ニ基クトキニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ストス故ニ當事者カ新ナル事實ヲ申立テ之ニ基キ決定ノ變更ヲ求メントスル場合ニ於テハ更ニ辯論期日ノ指定ヲ求メ其期日ニ於テ新ナル事實ヲ申立テ決定ノ變更ヲ求ムルコトヲ得ルナリ

第二百七十八條

受訴裁判所ノ部員カ證據調ヲ爲スコキトキハ裁判長證據決定言渡ノ際受命判事ヲ指名シ且證據調ノ期日ヲ定ム若シ其期日ヲ定メサルトキハ受命判事之ヲ定ム

受命判事其命ヲ施行スルニ差支アルトキハ裁判長更ニ他ノ部員ヲ命ス

〔註〕證據調ハ受訴裁判所ニ於テ之ヲ爲スナ原則トスルコトハ前ニ述ヘタルカ如シ而シテ受訴裁判所ノ部員カ證據調ヲ爲ス可キトキハ裁判長ハ證據決定ヲ言渡スノ際受命判事ヲ指名シ且證據調ノ期日ヲ定メ若シ其期日ヲ定メサリシカ又ハ其期日ヲ定ムルコトヲ遺脱シタルトキハ受命判事之ヲ定ムルモノトス且之ヲ定メタルトキハ當事者ニ送達スヘシ右決定ノ後受命判事ニ差支ヲ生スルトキハ裁判長ハ他ノ判事ヲ指名シテ證據調ヲ爲サシムルナリ

第二百七十九條

他ノ裁判所ニ於テ證據調ヲ爲ス可キトキハ裁判長ハ其囑託書ヲ發ス可シ
證據調ニ關スル書類ハ原本ヲ以テ受託判事ヨリ受訴裁判所書記ニ之ヲ送致シ其書記ハ之ヲ受領シタルコトヲ當事者ニ通知ス可シ

〔註〕他ノ裁判所ニ證據調ヲ囑託シ受託判事ヲシテ證據調ヲ爲サシムル場合ニ於テハ裁判長ハ其囑託書ヲ發シ且證據調ヲ要スル事項ヲ示スヘシ即チ立證スヘキ事項ヲ記載シタル書面ヲ證據決定ノ施行ヲ囑託スル書面ニ添ヘ之ヲ受託判事ニ送付ス

受命判事又ハ受託判事カ爲シタル證據調ノ調書ハ訴訟記録ノ一部ヲ爲スモノナリ故ニ受命判事又ハ受託判事ハ其調書ヲ受訴裁判所ノ書記ニ送付シ書記ハ其受領シタルコトヲ當事者ニ通知ルルモノトス

第二百八十條

受命判事又ハ受託判事カ證據調ノ期日ヲ定メタルトキハ其期日及ヒ場所ヲ當事者ニ通知ス可シ

〔註〕受託判事ハ證據調ノ囑託ヲ受ケタルトキハ其證據調ノ期日ヲ定メ之ヲ當事者ニ送達スルモノトス當事者ハ此ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ期日ニ出頭セサルヘカラス

第二百八十一條

外國ニ於テ爲ス可キ證據調ハ外國ノ管轄官廳又ハ其國駐在ノ帝國ノ公使若クハ領事ニ囑託シテ之ヲ爲ス其囑託ニ付テハ第五百五十二條及ヒ第五百五十五條ノ規定ヲ準用ス

〔註〕外國ニ於テ證據調ヲ爲スヘキ場合ハ訴訟法ニ於テ明カニ規定スル所ナキヲ以テ其場合ニ關スルコトハ裁判所ニ於テ之ヲ定メサルヘカラス而シテ其ノ場合トハ證據方法カ外國ニ存シ且ツ受訴裁判所ニ於テ其證據調ヲ爲ストキハ費用ト困難トヲ生スル場合ノ如キハ即チ外國ニ於テ證據調ヲ爲スヘキ場合ナリトス

外國ニ於テ證據調ヲ爲ストキハ受訴裁判所ノ裁判長ハ其囑託書ヲ外國ノ管轄官廳又ハ其

國駐在ノ帝國ノ公使若クハ領事ニ送付シテ之ヲ爲スヘシ其囑託ニ付テハ第五百五十二條及
ヒ第五百五十五條ノ規定ヲ準用スルモノトス

第二百八十二條 受命判事又ハ受託判事ハ他ノ裁判所ニ於テ
證據調ヲ爲ス可キコトノ至當ナル原因ノ爾後ニ生シタルト
キハ其裁判所ニ證據調ヲ囑託スルコトヲ得此囑託ヲ爲シタ
ルトキハ當事者ニ之ヲ通知ス可シ

〔註〕受命判事又ハ受託判事ハ爾後正當ノ原因生シタルトキハ證據調ヲ更ニ他ノ裁判所ニ
囑託スルコトヲ得ルナリ此ノ場合ニ於テハ其囑託ノ決定ハ之ヲ當事者ニ通知スルモノトス
第二百八十三條 受命判事又ハ受託判事ノ面前ニ於テ證據調
ノ際ニハ爭ヲ生シ其爭ノ完結スルニ非サレハ證據調ヲ續行
スルコトヲ得ス且其判事之ヲ裁判スル權ナキトキハ其完結
ハ受訴裁判所之ヲ爲ス

〔註〕受命判事又ハ受託判事ノ面前ニ於テ證據調ヲ爲スニ當リ爭ヲ生シ而シテ其ノ爭ノ完
結スルニ非サレハ證據調ヲ續行スル能ハサルトキハ受命判事又ハ受託判事ハ其爭ニ付キ
裁判ヲ爲スナ原則トス然レトモ或ル場合ニ於テハ受訴裁判所ニ於テ之ヲ裁判ヲ爲スヘキ
コトアリ例ヘハ證人カ證言ヲ拒ミタルカ如キ場合はレナリ此場合ニ於テハ受命判事又ハ

受託判事ハ訴訟記録ヲ受訴裁判所ニ返戻シ其爭ニ付テノ裁判ヲ爲サシム故ニ受訴裁判所
ハ辯論ノ期日ヲ定メテ當事者ヲ呼出シ其爭ニ付テノ裁判ヲ爲スヘシ

第二百八十四條 當事者ノ一方又ハ雙方證據調ノ期日ニ出頭
セサルトキハ事件ノ程度ニ因リ爲シ得ヘキ限リハ證據調ヲ
爲ス可シ

原告若クハ被告ノ出頭セサルカ爲ニ證據調ノ全部又ハ一分
ヲ爲スコトヲ得サル場合ニ於テハ其追完又ハ補充ハ此カ爲
メ訴訟手續ノ遲滯セサルトキ又ハ舉證者其過失ニ非スシテ
前期日ニ出頭スル能ハサルコトヲ説明スルトキニ限リ判決
ヲ接著スル口頭論辯ノ終結ニ至ルマテ申立ニ因リ之ヲ命ス

〔註〕證據調ハ裁判所ノ職務ニシテ當事者ノ行爲ニ非ス換言セハ裁判所カ當事者ノ申出テ
タル證據方法ヲ用ヒテ心證ノ原因ヲ得ル所ノ行爲ナリ例ヘハ證人ノ訊問ヲ爲シ檢證物件
ヲ實見スルカ如キ是レナリ而シテ當事者ハ證據調ニ立會フノ權利アルモノトス故ニ當事
者ハ其權利ノ伸張若クハ防禦ノ爲メ充分ニ其證據方法ヲ利用スルノ機會ヲ有スルナリ然
レトモ證據調ヲ爲スニ必ス當事者ノ立會ヲ要スルニ非スシテ當事者ノ立合ナキトキト雖
モ爲シ得ヘキ程度ニ於テハ裁判所之ヲ爲スコトヲ得ルナリ

當事者カ已ニ檢證物件ヲ裁判所ニ呈出シタリシトキハ當事者ノ立會ナキモ充分ニ檢證ヲ爲スコトヲ得ルモノトス又證人訊問ノ如キモ當事者ノ出頭ノ有無ニ拘ハラズ之ヲ爲スコトヲ得然レトモ當事者カ出頭セザリシカ爲メ證據調ノ全部又ハ一部ヲ爲スコト能ハサリシトキハ當事者ノ申立ニ依リ訴訟手續ノ遲滯ヲ生セス又ハ舉證者カ過失ニ非スシテ前日ニ出頭スル能ハサリシコトヲ疏明スルトキニ限り口頭辯論ノ終結ニ至ルマテ前ノ證據調ヲ追完又ハ補充スルコトヲ得ルナリ

第二百八十五條 裁判所ハ事件ノ未タ判決ヲ爲スニ熟セスト認ムルトキハ證據調ノ補充ヲ決定スルコトヲ得

第二百八十六條 證據調又ハ其續行ノ爲メ新期日ヲ定ムル必要アルトキハ舉證者又ハ當事者雙方前日ニ出頭セザリシトキト雖モ職權ヲ以テ之ヲ定ム

第二百八十七條 受訴裁判所ニ於テ證據調ヲ爲ストキハ其期日ハ同時ニ口頭辯論ヲ續行スル期日ナリトス
受命判事又ハ受託判事ノ面前ニ於テ證據調ヲ爲ス可キコトヲ命シタルトキハ受訴裁判所ハ證據決定中ニ併セテ口頭辯

論續行ノ期日ヲ定ムルコトヲ得若シ之ヲ定メサルトキハ證據調ノ終結後職權ヲ以テ其期日ヲ定メ之ヲ當事者ニ通知ス可シ

第二百八十八條 舉證者ハ裁判所ノ定ムル期間内ニ證據調ノ費用ヲ豫納ス可シ若シ其期間内ニ豫納セサルトキハ證據調ヲ爲サス但期間ノ滿了後ト雖モ豫納シタルトキハ訴訟手續ノ遲滯ヲ生セサル場合ニ限り證據調ヲ許ス

〔註〕右四條ハ説明ヲ要セスシテ意義明了ナレハ之ヲ略ス

第六節 人證

〔註〕證人トハ裁判所ニ對シ事實ニ付キ自己ノ見聞シタル事柄ヲ陳述スルモノヲ云フ而シテ證人トナルハ何人ヲ問ハズ之ヲ義務ト爲ス即チ何人ト雖モ日本帝國ニ住居シ日本ノ法律ノ下ニ棲息スル者ハ民事訴訟ニ關シテハ證人トシテ證言スルノ義務ヲ有スルナリ是ヲ以テ裁判所ハ何人ヲリトモ民事訴訟ニ關シテハ證人トシテ證言ヲ爲サシムル權利アリトス故ニ日本國內ニ住スル者ハ内國人タルト外國人タルトナ問ハズ能力ノ完全ナルト否トナ問ハズ證人トシテ訊問スルコトヲ得但シ外國人ニシテ治外法權ヲ有スル者ハ此限ニ在

テスレ證人ト爲ル者ハ我邦ノ法律ニ服從スル者ナレハナリ
然レトモ之カ例外ノ者アリ即チ左ノ者ハ取除クナリ

第一 訴訟當事者及ヒ其法律上代理人

訴訟當事者ハ現ニ訴訟ニ於テ立證ノ責任ヲ有スル者ナルヲ以テ自ラ證人トシテ自己ノ主張ヲ立證スルヲ得ス故ニ共同訴訟人ト雖モ亦其訴訟ニ付キ證人ト爲スヲ得ス然レトモ以前共同訴訟人ナリシ所ノ者ニシテ現ニ共同訴訟人ニ非サル者ハ尙ホ證人トシテ之ヲ訊問スルヲ得ルナリ

法律上代理人モ亦同シ即チ幼年ノ子ノ爲メ其父タル者カ法律上代理人トシテ訴訟ヲ提起シタル場合ニ於テハ其幼者ハ勿論其法律上ノ代理人タル父ハ代理人ノ資格ヲ以テセサルトキモ尙ホ證人トシテ證言スルコトヲ得ス

第二 官吏又ハ公吏

官吏又ハ公吏ノ證人ト爲ルコトヲ得サルノ理由ハ次條ノ下ニ之ヲ説明スヘシ
以上二個ノ取除ノ外ハ裁判所ハ何人ナリト雖モ民事訴訟ニ關シテ證言セシムルノ權利ヲ有ス然レトモ裁判所ニ於テ證言ニ因リ心證ヲ得ル能ハスト認定シタルトキハ證人トシテ訊問スルヲ拒ムヲ得ルナリ例ヘハ幼者瘋癲者等ニシテ之ニ因リテ心證ヲ得ル能ハスト認メタル者ハ裁判所ハ尙ホ證人トシテ之ヲ訊問スルノ義務ナキナリ

第二百八十九條

何人ナ問ハス法律ニ別段ノ規定ナキ限りハ

民事訴訟ニ關シ裁判所ニ於テ證言スル義務アリ

〔註〕本條ハ前ノ説明ニ因リテ自カラ明ナレハ之ヲ略ス

第二百九十條

官吏、公吏ハ退職ノ後ト雖モ其職務上默秘ス可

キ義務アル事情ニ付テハ其所屬廳又ハ其最後ノ所屬廳ノ許
可ヲ得タルトキニ限り證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得大
臣ニ付テハ勅許ヲ得ルコトヲ要ス

此許可ハ證言カ國家ノ安寧ヲ害スル恐アルトキニ限り之ヲ
拒ムコトヲ得

右許可ハ受訴裁判所ヨリ之ヲ求メ且證人ニ之ヲ許ス可シ

〔註〕官吏即チ官廳ヨリ命セラレテ官廳ニ職ヲ奉スル官吏又ハ人民ノ選舉ニ依リ官廳ノ認
可ヲ得テ業務ニ從事スル所ノ公吏ハ各職務上或ル事情ニ付テハ默秘即チ他人ニ向テ公言
スルコトヲ憚ルヘキ義務ヲ有シ而シテ其義務ヲ守ラサルトキハ國家ノ安寧ヲ害スルニ至
ルヤモ知ル可カラサルモノナルカ故ニ法律ハ其ノ默秘ノ事情ニ付テ證言ヲ爲サシムルヲ
許サス是ヲ以テ若シ裁判所ニ於テ官吏又ハ公吏ニ證言ヲ爲サシムルトキハ豫テ裁判所ヨ
リ所屬官廳又ハ退職ノ者ニ在リテハ最後ノ所屬官廳ニ之カ許可ヲ求メサルヘカラス而シ
テ其許可ヲ得テ初メテ證言ヲ爲サシムルヲ得ルナリ

國務大臣モ亦官吏タルカ故ニ右同一ノ規定ニ因ルヘシ但其許可ハ勅許ヲ受クヘシ
既ニ此ノ如ク官吏公吏ハ職務上黙秘スヘキ事情ニ付テハ豫メ許可ヲ得ルニ非サレハ證言
ヲ爲サシメサル理由ハ職務上ノ黙秘ノ義務ヲ重ニスルニ因ル故ニ裁判所ヲシテ官吏公吏
カ黙秘スヘキ事情ニ付キ先ツ之カ監督ヲ爲サシメタルモノナリ

而シテ官廳ニ於テ其證言カ國家ノ安寧ヲ害スル恐レアルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ルナリ

第二百九十一條

人證ノ申出ハ證人ヲ指名シ及ヒ證人ノ訊問
ヲ受ク可キ事實ヲ表示シテ之ヲ爲ス

〔註〕人證ヲ出スニ必要トスルトキハ其ノ證人ヲ指名シ且ツ證人ノ訊問ヲ受クヘキ事實ヲ
詳細ニ表示シテ呼出ヲ請求セサルヘカラス第二百九十三條ニ依レハ各當事者ハ事實上ノ主
張ヲ證明シ又ハ之ヲ辯駁センカ爲メ用ヒントスル證據方法ヲ開示セサルヘカラス即チ何
何ノ事實ハ書證ニ依リ之ヲ證シ何々ノ事實ハ鑑定ニ依リ之ヲ證スト云フカ如ク自カヲ引
用セントスル所ノ證據方法ノ申出ヲ爲スヘキモノトス故ニ人證ニ付テモ此ノ例ニ倣フ
舉證者ニ於テ證人ヲ同伴シテ出廷シタル上人證ノ申出ヲ爲ストキハ裁判所ハ直チニ證人
ノ訊問ヲ爲スヘシ然レトモ證人出頭シアラサル場合ニ於テハ裁判所ハ新ニ證據調ノ期日
ヲ定メ之カ訊問ヲ爲ササルヘカラス此場合ニ於テハ裁判所ハ第二百七十四條ニ從ヒ證據
決定ヲ以テ之カ訊問ヲ爲スヤ否ヤヲ決定シ若シ其訊問ヲ爲スコトヲ決定シタルトキハ裁

判長ハ證據調ノ期日ヲ定メ證人ヲ呼出スヘシ

第二百九十二條

證人ノ呼出狀ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコト
ヲ要ス

- 第一 證人及ヒ當事者ノ表示
- 第二 證據決定ノ旨趣ニ依リ訊問ヲ爲ス可キ事實ノ表示
- 第三 證人ノ出頭ス可キ場所及ヒ日時
- 第四 出頭セサルトキハ法律ニ依リ處罰ス可キ旨
- 第五 裁判所ノ名稱

〔註〕證人ノ呼出狀ニハ右ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス故ニ若シ此ノ事項ヲ缺クトキハ其
呼出狀ニ漏レタル事項ニ付テハ責任ナキモノナリ

第二百九十三條

豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ヲ證人
トシテ呼出スニハ其所屬ノ長官又ハ隊長ニ囑託シテ之ヲ爲
ス其長官又ハ隊長ハ期日ヲ遵守セシムル爲ニ其呼出ヲ受ケ
タル者ノ闕勤ヲ許ス可シ若シ軍務上之ヲ許ス能ハサルトキ
ハ其旨ヲ裁判所ニ通知シ且他ノ期日ヲ定ムル求テ爲ス義務

◎第二編第一卷ノ訴訟手續 第一章地方裁判所ノ訴訟手續

アリ

〔註〕豫備後備ノ軍籍ニ在ラスシテ現ニ服役スル軍人軍屬ヲ證人トシテ呼出サントスルニハ右呼出狀ハ直チニ之ヲ證人タル軍人軍屬ニ送達スルヲ得ス是レ現役ニ在ル軍人軍屬ハ軍規ニ依リ支配セラルルモノナルカ故ニ假令ヒ裁判所ヨリノ命令アルモ其命令ニシテ軍規ト違フタルトキハ其軍人軍屬ハ裁判所ノ命令ニ從フヲ得ス故ニ現役ニ在ル軍人軍屬ヲ證人トスル場合其呼出ハ之ヲ其長官若クハ隊長ニ囑託シテ之ヲ爲ス而シテ所屬長官及ヒ隊長ハ法律上其配下ニ屬スル軍人軍屬ニ證人トシテ裁判所ニ出頭スル爲メ缺勤ヲ許スヘク又軍務上之ヲ許ス能ハサルトキハ其旨ヲ裁判所ニ通知シ更ニ他ノ期日ヲ定ムルコトノ求メテ爲ス義務ヲ有ス是ヲ以テ證人トシテ呼出ヲ受ケタル軍人軍屬ニシテ所屬長官又ハ隊長ヨリ缺勤ノ許可ヲ受ケサカラ尙ホ裁判所ニ出頭セサルトキハ該軍人軍屬ハ訴訟法上證人タルノ義務ニ違背シタルモノニ非スシテ寧ロ長官ノ命令ニ違背スルモノト謂フヘシ

第二百九十四條

合式ニ呼出サレタル證人ニシテ正當ノ理由ナク出頭セサル者ニ對シテハ申立ナシト雖モ決定ヲ以テ其不參ニ因リ生シタル費用ノ賠償及ヒ貳拾圓以下ノ罰金ヲ言渡ス可シ

證人カ再度出頭セサル場合ニ於テハ更ニ費用ノ賠償及ヒ罰

金ヲ言渡ス可シ又其勾引ヲ命スルコトヲ得
證人ハ右ノ決定ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有ス
豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對スル罰金ノ言渡及ヒ執行ハ軍事裁判所又ハ所屬ノ長官又ハ隊長ニ託シテ之ヲ爲ス其勾引ニ付テモ亦同シ

〔註〕日本國ニ居住スル者ハ何人ヲ問ハス法律ニ別段ノ規定ナキ限りハ民事訴訟ニ關シ裁判所ニ於テ證言ヲ爲スノ義務ヲ有スルコトハ第二百八十九條ニ於テ之ヲ述ヘタリ故ニ證人トシテ裁判所ニ出頭セサルトキハ則チ裁判所ニ出頭スルノ義務ニ背キタルモノナリ又裁判所ニ出頭シタル上證言ヲ爲ササルトキハ證言ヲ爲スノ義務ニ違背スルモノナリ而シテ第一ノ場合ニハ證人ハ本條ノ規定ニ依リ其ノ制裁ヲ受ケ第二ノ場合ニ於テハ第三百二條ニ定メタル制裁ヲ受ケルナリ而シテ本條ニ規定スル證人カ裁判所ニ出頭スルノ義務ニ違背シタルカ爲メ制裁ヲ受ケルニハ左ノ二條件ヲ要ス

第一 合式ニ呼出サレタルコト

合式ニ呼出サルコトハ證人カ第二百九十二條ニ規定シタル條件ヲ具備スル呼出狀ヲ送達ノ規定ニ從ヒ受取りタルコトヲ云フ若シ其呼出狀カ不合式ノモノナルトキ又ハ送達ノ規

定ニ反シタルモノナルトキハ法律上其呼出狀ハ其效力ヲ有セサルモノナリ

第二 正當ノ理由ナクシテ出頭セザリシコト

證人カ出頭シタルモノナルヤ否ヤヲ定ムルノ時期ハ事件ノ呼上ヲ以テ定ムヘシ故ニ事件呼上ノ當時ニ於テ未タ證人ノ出頭セザルトキハ則チ證人ハ出頭セサルモノト見做ササルヘカラス然レトモ證人カ遲參シタル場合ニ於テ裁判所カ未タ罰金等ノ言渡ヲ爲サザルトキハ敢テ其言渡ヲナササルモノトス

證人タル者カ右二個ノ條件アルトキハ裁判所ハ費用ノ賠償及ヒ二十圓以下ノ罰金ヲ言渡スモノトス故ニ舉證者ニ於テ其後ニ至リ證人ノ申請ヲ拋棄シタルトキト雖モ尙ホ裁判所ハ費用ノ賠償及ヒ罰金ノ言渡ヲ爲スヘシ

證人カ右ノ費用賠償及ヒ罰金ノ言渡ヲ受ケ而シテ新ニ定メタル期日ニ於テ尙ホ出頭セザルトキハ更ニ費用ノ賠償及ヒ罰金ノ言渡ヲ爲スヘク又必要ナル場合ニ於テハ其證人ヲ拘引シテ出頭セシムルコトヲ得然レトモ證人ノ拘引ヲ命スルニハ證人タル者カ前ニ費用賠償及ヒ罰金ノ言渡ヲ受ケタルニ拘ハラス尙ホ出頭セザル場合ニ限ルモノニシテ證人カ出頭セザリシモ費用ノ賠償及ヒ罰金ノ言渡ヲ爲サザリシ場合ニ於テハ假令ヒ再度ノ缺席ノ場合ニ於テモ之カ拘引ヲ命スルコトヲ得ス但シ右賠償及ヒ罰金ノ言渡並ニ拘引ヲ命スル決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スヲ得而シテ其抗告ハ之カ執行ヲ停止スル效力ヲ有ス

第二百九十五條

證人其出頭セザリシコトヲ後日ニ正當ノ理由

由ヲ以テ辯解スルトキハ罰金及ヒ賠償ノ決定ヲ取消ス可シ證人ノ不參屆及ヒ決定取消ノ申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

〔註〕證人カ出頭セザリシ原因タルヤ天災若クハ不可抗力ノ爲メナリシトキ例ヘハ病氣ノ爲メ出頭スルヲ得ザリシトキノ如キハ之ヲ以テ證人ノ過失ト爲スヲ得ス故ニ證人カ前以テ其理由ヲ開陳シテ裁判所ハ其理由ヲ正當ト認メタルトキハ假令出頭セザルモ罰金等ノ言渡ヲ爲スヲ得ス

又其罰金等ノ言渡ヲ爲シタル後正當ノ理由ニ因リ出頭スル能ハサリシコトヲ書面又ハ口頭ヲ以テ申出テ罰金等ノ取消ヲ求メ而シテ裁判所ハ其理由ヲ正當ナリト爲シタルトキハ既ニ言渡シタル決定ヲ取消スヘシ

第二百九十六條

皇族證人ナルトキハ受命判事又ハ受託判事

其所在ニ就キ訊問ヲ爲ス

各大臣ニ付テハ其官廳ノ所在地ニ於テ之ヲ訊問ス若シ其所在地外ニ滞在スルトキハ其現在地ニ於テ之ヲ訊問ス

帝國議會ノ議員ニ付テハ開會期間其議會ノ所在地ニ滞在中ハ其所在地ニ於テ之ヲ訊問ス

〔註〕皇族ハ固ヨリ各大臣ハ尋常ノ者ト同一ニ取扱フヘカラサルチ原則トス故ニ皇族證人ナルトキハ裁判所ニ出廷セシメス判事其所在ニ就キテ訊問ス各大臣ハ國家ノ樞機ニ與リテ顯位ニ在ル者ナリ貴族院衆議院ノ議員ハ國民ノ代表者ナリ故ニ其所在地ニ於テ之ヲ訊問スヘキモノニシテ其所在地外ニ呼出スコトヲ得ス

第二百九十七條

左ニ掲クル者ハ證言ヲ拒ムコトヲ得

- 第一 原告若クハ被告又ハ其配偶者ト親族ナルトキ但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖モ亦同シ
- 第二 原告若クハ被告ノ後見ヲ受クル者
- 第三 原告若クハ被告ト同居スル者又ハ雇人トシテ之ニ仕フル者

裁判長ハ訊問前ニ前項ノ者ニ證言ヲ拒ム權利アル旨ヲ告ク可シ

〔註〕證言ヲ爲ス義務ハ何人ト雖モ之チ有ス然レトモ法律上或者ニ對シテハ其義務ヲ拒ムノ權利ヲ與ヘタリ即チ本條ニ記載スル第一ヨリ第三ニ至ル者其他第二百九十八條以下ニ規定シタル者ナリ而シテ本條ニ列記スル者ニ付テ説明セハ即チ左ノ如シ
本條ニ記載シアル者ハ身分ノ關係上ヨリ到底眞實ノ證言ヲ爲スコト能ハサル者ナリ是等

ノ親族等ニ在テハ眞實ノ證言ヲ爲スコト能ハサルハ人情ノ然ラシムル所ナリ故ニ此等ノ者チシテ強ヒテ證言ヲ爲サシメント欲セハ勢ヒ證人チシテ偽證ヲ爲サシムルニ至ルカ故ニ此等ノ者ニ對シ訴訟上證言ノ義務ヲ拒ムノ權利ヲ與ヘタルモノナリ但シ親屬トハ刑法ノ親屬例ニ因ルヘキモノナリ

第二百九十八條

左ノ場合ニ於テハ證言ヲ拒ムコトヲ得

- 第一 官吏、公吏又ハ官吏、公吏ヨリシ者カ其職務上默秘ス可キ義務アル事情ニ關スルトキ
- 第二 醫師、藥商、穩婆、辯護士、公證人、神職及ヒ僧侶カ其身分又ハ職業ノ爲メ委託ヲ受ケタルニ因リテ知リタル事實ニシテ默秘ス可キモノニ關スルトキ
- 第三 問ニ付テノ答辯カ證人又ハ前條ニ掲ケタル者ノ耻辱ニ歸スルカ又ハ其刑事上ノ訴追ヲ招ク恐アルトキ
- 第四 問ニ付テノ答辯カ證人又ハ前條ニ掲ケタル者ノ爲メ直接ニ財産權上ノ損害ヲ生セシム可キトキ
- 第五 證人カ其技術又ハ職業ノ秘密ヲ公ニスルニ非サレ

〔註〕本條ニ記載スル者ニ於テモ證言ヲ拒ムコトヲ得ルモノトス蓋シ此等ノ者ハ皆各々其職業上ヨリ之ヲ黙秘スヘキノ義務ヲ重ンスレハナリ故ニ其ノ黙秘ノ義務ナキニ至レハ之ヲ拒ムコトヲ得ヘキ理由ハナキモノトス即チ當事者ト身分上ノ關係ニ於テハ眞實ノ證言ヲ爲サスト推定スルノ理由ナシ然レトモ或ル事情ニ付テハ或ハ國家ノ安寧ヲ害シ或ハ他人ノ信用ヲ害シ或ハ自己ノ不利益ヲ來スノ恐レアルノ故ヲ以テ眞實ノ證言ヲ爲ササルノ嫌ヒアル者ナリ故ニ法律上其事情ニ關シテハ證言ヲ拒ムノ權利ヲ附與シタリ

但右第一號第二號ニ掲クル者ニシテ其黙秘スヘキ義務ヲ免除セラレタルトキハ證言ヲ拒ムノ權利ナシ又第四號ニ掲クル所ノ者ハ第二百九十九條ノ第一號ヨリ第四號ニ至ル事項ニ付テハ證言ヲ拒ムヲ得ス

第二百九十九條

證人ハ第二百九十七條第一號及ヒ第二百九十八條第四號ノ場合ニ於テ左ノ事項ニ付キ證言ヲ拒ムコトヲ得ス

- 第一 家族ノ出產、婚姻又ハ死亡
- 第二 家族ノ關係ニ依リ生スル財產事件ニ關スル事實
- 第三 證人トシテ立會ヒタル場合ニ於ケル權利行爲ノ成

立及ヒ旨趣

第四 原告若クハ被告ノ前主又ハ代理人トシテ係争權利關係ニ關シ爲シタル行爲

前條第一號第二號ニ掲ケタル者其黙秘ス可キ義務ヲ免除セラレタルトキハ證言ヲ拒ムコトヲ得ス

〔註〕第二百九十七條第一號ニ掲クル者ト雖モ本條第一號乃至第四號ニ掲クル事項ニ付テハ證言ヲ拒ムヲ得ス即チ左ノ如シ

(イ) 家族ノ出產婚姻又ハ死亡但シ家族トハ敢テ血縁ヲ云フニ非スシテ一家ヲ組成スル所ノ者ヲ云フ

(ロ) 家族關係ニ因リ生スル財產事件ニ關スル事實例ヘハ夫婦ノ財產ニ關スル事實遺贈養料ノ如キ是ナリ

(ハ) 證人トシテ立會ヒタル場合ニ於ケル權利行爲ノ成立及ヒ旨趣

(ニ) 原告又ハ被告ノ前主又ハ代理人トシテ係争ノ權利關係ニ關シ爲シタル行爲但代理人トハ總テ法律上ノ代理人、通常代理人即チ手代若クハ使用人ノ如ク代理ノ資格ヲ以テスル者ヲ云フ又行爲トハ證人ノ行爲ヲ云フモノニシテ該證人ノ聞キタル事實ニ非ス以上ノ者ハ當事者ト身分上ノ關係ニ於テハ眞實ノ證言ヲ爲サスト推定スルノ理由ナシ

故ニ訴訟ニ付キ總テノ證言ヲ拒ムヲ得ス

第三百條

證言ヲ拒ム證人ハ其訊問ノ期日前ニ書面又ハ口頭ヲ以テ又ハ期日ニ於テ其拒絕ノ原因タル事實ヲ開示シ且之ヲ疏明ス可シ

期日前ニ證言ヲ拒ミタル證人ハ期日ニ出頭スル義務ナシ
裁判所書記ハ拒絕ノ書面ヲ受領シ又ハ其陳述ニ付キ調書ヲ作リタルトキハ之ヲ當事者ニ通知ス可シ

〔註〕證言ヲ拒ム證人ハ訊問前ニ其拒絕ノ原因タル事實ヲ申出テ且之ヲ疏明ヲ爲スヘシ即チ訊問ノ期日前書面又ハ口頭ヲ以テ申立ツルカ又ハ訊問期日ニ於テ訊問前ニ口頭ヲ以テ之ヲ申立ツヘク訊問期日前ニ於テ此カ拒絕ノ原因ヲ申立テ且之ヲ疏明シタルトキハ證人ハ期日ニ出頭セサルコトヲ得

口頭ニテ拒絕ノ原因ヲ申立テタルトキハ之ヲ調書ニ記載シタル後又書面ニテ之ヲ申立テタルトキハ其書面ノ受領後書記ヨリ拒絕ノコトヲ當事者ニ通知スルモノトス

第三百一條

拒絕ノ當否ニ付テハ受訴裁判所當事者ヲ審訊シタル後決定ヲ以テ其裁判ヲ爲ス但第二百九十八條第一號ノ

場合ニ於テ爲シタル拒絕ノ當否ニ付テハ所屬廳又ハ最後ノ所屬廳ノ裁定ニ任ス

原告若クハ被告カ出頭セサルトキハ出頭シタル者ノ申述ヲ斟酌シテ決定ヲ爲ス

右決定ニ對シテハ即期抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル効力ヲ有ス

〔註〕證言拒絕ノ正當ナルヤ否ニ付キ爭ヲ生シタルトキハ裁判所ハ當事者ノ意見ヲ聞キ決定ヲ以テ之カ拒絕ノ當否ヲ裁判ス但官吏公吏カ默秘スヘキ事項ナリトシテ證言ヲ拒ミタルトキハ其當否ハ所屬官廳ノ判定ニ任セ其意見ニ依リテ裁判ヲ爲スヘシトス

右拒絕ノ原因ヲ正當ナラストスルトキハ更ニ證人ノ訊問ヲ爲スヘキモノナルカ故ニ新ニ期日ヲ定メ又ハ直チニ之カ訊問ヲ爲スヘシ其決定ニ對シテハ原告被告又ハ證人ヨリ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノトス其抗告ハ執行停止ノ効力ヲ有ス

第三百二條

原因ヲ開示セズシテ證言ヲ拒ミ又ハ開示シタル原因ノ棄却確定シタル後ニ之ヲ拒ミタルトキハ申立ヲ要セスシテ決定ヲ以テ證人ニ對シ其拒絕ニ因リテ生シタル費用ノ賠償及ヒ四十圓以下ノ罰金ヲ言渡ス

證人ハ費用ノ賠償及ヒ罰金ノ言渡ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル効力ヲ有ス豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對スル罰金ノ言渡及ヒ執行ハ軍事裁判所ニ囑託シテ之ヲ爲ス

〔註〕本條ハ説明ヲ要スヘキ事項ナキヲ以テ之ヲ略ス

第三百三條 原告若クハ被告ハ相手方ノ證人トノ間ニ第二百九十七條第一號乃至第三號ノ關係アルトキハ其證人ヲ忌避スルコトヲ得

〔註〕證人ノ陳述ハ證據ノ一ナルカ故ニ其證言ノ如何ハ當事者ノ利害ニ關係ヲ及ホスコト少ナカラサルコト明カナリ是ヲ以テ證人タル者ハ眞實ノ陳述ヲ爲スヘキコト勿論ニシテ若シ眞實ニ反シ證言ヲ爲ストキハ直チニ刑法上偽證ノ罰ヲ受ケサルヘカラス然レトモ偽證ノ事實タルヤ容易ニ之カ證明ヲ爲ス能ハサルモノナルカ故ニ其實偽證ナル場合ニ於テモ裁判所ハ證言ヲ眞實トシテ事實ノ判定ヲ爲スコトアルハ免レサル所ナリ故ニ證人ニ偏頗ノ恐アルトキハ法律上當事者ハ之ヲ忌避シテ證人ヲラシメサルコトヲ得ルナリ而シテ其忌避ヲ爲シ得ヘキ場合ハ證人カ舉證者ト第二百九十七條第一號ヨリ第三號ニ至ル迄ノ關係ヲ有スルトキ是レナリ是レ第二百九十七條ノ場合ニ於テハ證人自ラ證言ヲ拒ムノ權

ヲ有スト雖モ其證人ニシテ其權利ヲ行使セスシテ尙證人トシテ證言セントスルトキハ裁判所ハ之ヲ拒ムノ理由ナシ故ニ相手方ハ豫メ之ヲ忌避シテ證言ヲ爲サラシムルノ必要アルモノトス

第三百四條 忌避ノ申請ハ證人ノ訊問前ニ之ヲ爲スコト得此期限後ハ其前ニ忌避ノ原因ヲ主張スルヲ得サリシコトヲ疏明スルトキニ限り其證人ヲ忌避スルコトヲ得
忌避ノ申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
忌避ノ原因ハ之ヲ疏明ス可シ

〔註〕證人ノ忌避ハ證人訊問前ニ之ヲ爲スヘシ若シ其訊問前ニ忌避ヲ爲サリシトキハ當事者ハ忌避ノ權利ヲ拋棄シタルモノト看做ス故ニ既ニ訊問ヲ始メタルトキハ復證人ヲ忌避スルコトヲ許サス但當事者ニ於テ證人訊問前忌避ノ原因ヲ主張シ得サリシコトヲ疏明スルトキハ敢テ忌避ノ權利ヲ拋棄シタリト認ムルヲ得ス隨テ此ノ場合ニ於テハ既ニ訊問ヲ始メタル後ニ於テモ當事者ハ尙ホ證人ヲ忌避スルコトヲ得ルナリ
忌避ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得而シテ其申立ニ付テハ裁判所ハ決定ヲ以テ之ヲ決定ス此決定ハ辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スヲ得

第三百五條 忌避ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ

之ヲ爲スコトヲ得
忌避ノ原因アリト宣言スル決定ニ對シテハ上訴ヲ爲スコト
ヲ得ス忌避ノ原因ナシト宣言スル決定ニ對シテハ即時抗告
ヲ爲スコトヲ得

〔註〕忌避ノ申立ニ付テノ決定ニ對シテハ忌避ノ原因ナシト判決シタルトキニ限り即時抗
告ヲ爲スコトヲ得之ニ反シテ原因アリト判定シタルトキハ上訴ヲ爲スヲ得ス何トナレハ
法律上少シニシテモ偏頗ノ恐アル者ヲシテ證言ヲ爲サシムルヲ欲セサレハナリ證人ニ對
スル忌避ノ原因ナシトノ決定アリタルトキハ即チ證人ノ訊問ヲ爲スヘキモノトス

第三百六條

各證人ニハ其携帶ス可キ呼出狀其他適當ノ方法

ヲ以テ人違ナラサルコトヲ判然ナラシメタル後訊問前各別
ニ宣誓ヲ爲サシム可シ

然レトモ宣誓ハ特別ノ原因アルトキ殊ニ之ヲ爲サシム可キ
ヤ否ヤニ付キ疑ノ存スルトキハ訊問ノ終ルマテ之ヲ延フル
コトヲ得

〔註〕各證人ニハ先ツ其人違ナラサルコトヲ判然ナラシメ而シテ後チ訊問ヲ初ムル前豫メ

宣誓ヲ爲ササルヘカラス其ノ宣誓トハ第三百七條第一項ニ從ヒ良心ニ從ヒ眞實ヲ陳ヘ何
事ヲモ黙秘セス又何事ヲモ附加セサルコトノ誓ヲ爲サシメ且ツ宣誓者ニ偽證ノ罰アルヲ
示シ以テ證人ナシテ私情ノ爲メ偽證ノ罰ヲ犯スニ至ルコトナカラシムルヲ云フ

證人ノ宣誓ハ證言前ニ於テスル原則トス然レトモ宣誓ヲ爲サシムヘキモノナルヤ否ヤ
ニ付キ疑アル場合等ニ於テハ證言ヲ爲サシメタル後チ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得ルナリ
此場合ニ於テハ證人ハ良心ニ從ヒ何事ヲモ黙秘セス又何事ヲモ附加セサリシコトノ誓ヲ
爲スヘシ

第三百七條

證人ハ訊問前ニ宣誓ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ良

心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ黙秘セス又何事ヲモ附加セサ
ル旨ノ誓ヲ宣フ可シ

又訊問後ニ宣誓ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ良心ニ從ヒ眞實ヲ
述ヘ何事ヲモ黙秘セス又何事ヲモ附加セサリシ旨ノ誓ヲ宣
フ可シ

第三百八條

判事ハ宣誓前ニ相當ナル方法ヲ以テ宣誓者ニ偽

證ノ罰ヲ諭示ス可シ

第三百九條

宣誓ヲ拒ム證人ニ付テハ第三百條乃至第三百二

條ノ規定ヲ適用ス

〔註〕百三條ハ別ニ説明ヲ要セスシテ意義明カナレハ之ヲ略ス

第三百十條

左ノ者ハ宣誓ヲ爲サシメスシテ參考ノ爲メ之ヲ訊問スルコトヲ得

第一 訊問ノ時未タ滿十六歳ニ達セサル者

第二 宣誓ノ何物タルヤヲ了解スルニ必要ナル精神上ノ發達ノ缺クル者

第三 刑事上ノ判決ニ因リ公權ヲ剝奪又ハ停止セラレタル者

第四 第二百九十七條及ヒ第二百九十八條第三號並ニ第

四號ノ規定ニ依リ證言ヲ拒絕スル權利アリテ之ヲ行使

セサル者但第二百九十八條第三號並ニ第四號ノ場合ニ

於テハ拒絕ノ權利ニ關スル事實ニ付キ證言ヲ爲ス可キ

コトヲ申立テラレタルトキニ限ル

第五 訴訟ノ成績ニ直接ノ利害關係ヲ有スル者

〔註〕宣誓ヲ爲サシメテ爲シタル證言ハ證據トシテ裁判上援用スルコトヲ得ス換言セハ宣誓ヲ爲スヘキ者カ宣誓ヲ爲サシメテ爲シタル證言ハ法律ノ規定ニ反スルモノナルカ故ニ證言ノ效力ヲ有セシムルヲ得ス

然レトモ本條ノ規定ニ依レハ裁判所ニ於テ證人カ眞實ヲ陳述スルヤ否ヤニ付テ疑ヲ存スル場合ニ於テハ其者ニ限リ宣言ヲ爲サシメスシテ參考ノ爲メ之ヲ訊問スルヲ許シタリ是レ本條ニ掲クル幼年者刑事上ノ判決ニ因リ公權ヲ剝奪又ハ停止セラレタル者精神上ノ發達ヲ缺キタル者誓言拒絕ノ權利ヲ有シナカラ之ヲ行ハサリシ者及ヒ訴訟ノ結果ニ付キ直接ニ利害ノ關係ヲ有スル者ハ證人タルコトヲ得サル者ニ非サルモ其言フ所必スシモ眞實ナリト信スルヲ得サルトキハ敢テ宣誓ヲ爲サシメサル可カラサルニ非ス而シテ宣誓ヲ爲サシメテ爲シタル陳述ハ證據ノ效力ナシト雖モ裁判所ハ之ヲ以テ心證ヲ得ルノ材料ト爲スヲ得ヘシ然レトモ其效力タルヤ宣誓ノ上爲シタル誓言ニ比スレハ固ヨリ不完全ナルコト明カナリ

第三百十一條

證人訊問ハ後ニ訊問ス可キ證人ノ在ラサル場所ニ於テ各別ニ之ヲ爲ス

證人ノ供述互ニ齟齬シタルトキハ之ヲ對質セシムルコトヲ得

〔註〕證人ノ訊問ハ後ニ訊問スヘキ證人ノ在ラサル場合ニ於テスヘキモノナルコトヲ規定ス故ニ證人カ宣誓ヲ爲シタル後チ爲ス所ノ答辯ハ後ニ訊問スヘキ證人ノ在ラサル場所ニ於テスヘシ隨テ宣誓ノ後チ爲ス所ノ證人ノ氏名職業等ニ付テノ訊問モ亦後ニ證人ノ在ラサル場所ニ於テスヘシ但シ己ニ訊問シタル證人ハ後ニ訊問スル所ノ證人ト同一ノ場所ニ居ルコトヲ得ルノミナラス二人ノ證言カ互ニ相齟齬スルコトアルトキハ證人ノ再訊問ヲ命シ之ヲ對質セシムルコトヲ得

第三百十二條

證人訊問ハ證人ニ其氏名、年齢、身分、職業及ヒ住居ヲ問フヲ以テ始マル又必要ナル場合ニ於テハ其事件ニ於テ證言ノ信用ニ關スル事情殊ニ當事者トノ關係ニ付テノ問ヲ爲ス可シ

〔註〕證人ノ訊問ハ證人ニ其氏名、年齢、身分、職業及ヒ住所ヲ問フヲ以テ始マル是ハ證人ノ人違ナラサルヤ否ヤヲ確ムルモノニシテ證言ノ一部ヲ爲スモノナリ故ニ右事項ニ付テノ訊問モ亦宣誓ノ後チ之ヲ爲サシメサルヘカラス但宣誓ヲ爲サシムヘキヤ否ヤハ證人ノ人違ナラサルコト及ヒ證人ト當事者トノ間ニ存スル關係ヲ明ニシタル後ニ非サレハ之ヲ定ムルヲ得ス故ニ第三百六條ノ規定ニ從ヒ呼出狀ヲ携帶セシメ以テ其人違ナラサルコトヲ確メ然ル後チ宣誓ヲ爲サシムルモノトス然レトモ必要ナル場合ニ於テハ其氏名職業等其

他當事者ノ關係ニ付キ訊問ヲ爲シタル後チ初メテ宣誓ヲ爲サシムヘキコトアリ此ノ如キ場合ニ於テハ己ニ訊問ヲ爲シタル後ト雖モ宣誓後ニ於テハ尙ホ其事項ニ付キ更ニ訊問ヲ爲ス可トス

第三百十三條

證人ニハ其訊問事項ニ付キ知リタルモノヲ牽連シテ供述セシム可シ

證人ノ供述ヲ明白及ヒ完全ナラシメ且其知リ得タル原因ヲ穿鑿スル爲メ必要ナル場合ニ於テハ尙ホ他ノ問ヲ發ス可シ
〔註〕證人ノ訊問事項ニ付テノ答辯ハ單ニ然リ若クハ然ラストノ言語ヲ以テセシムヘキモノニ非スシテ其ノ訊問事項ニ付キ明カナル答辯ヲ爲サシムヘキノミナラス必要ナル場合ニ於テハ其答辯ニ牽連シテ知リタル事實ヲモ併セテ供述セシムルヲ得ルナリ蓋シ證人ノ訊問ハ口頭審理ノ原則ニ基クモノナルヲ以テ證人ノ答辯ハ必ス口頭ヲ以テ爲スヘシ故ニ算數等ニ關スルモノヲ除クノ外ハ書類ヲ朗讀シ若クハ覺書ヲ用フルヲ得ス

第三百十四條

證人ハ其供述ニ換ヘテ書類ヲ朗讀シ其他覺書ヲ用ヅルコトヲ得ス但算數ノ關係ニ限り覺書ヲ用ヅルコトヲ得

〔註〕前條ニ述ヘタル説明ニ依リ自カラ明カナレハ之ヲ略ス

第三百十五條 部席判事ハ裁判長ニ告ケテ證人ニ問テ發スルコトヲ得

當事者ハ證人ニ對シ自ラ問テ發スルコトヲ得ス然レトモ當事者ハ證人ノ供述ヲ明白ナラシムル爲ニ其必要ナリトスル問テ發セシコトヲ裁判長ニ申立ツルコトヲ得
發問ノ許否ニ付キ異議アルコトハ裁判所ハ直チニ之ヲ裁判ス

〔註〕證人ノ訊問ヲ爲スハ裁判長ノ職權ニ屬ス而シテ陪席判事モ亦裁判長ノ許ヲ得テ發問ヲ爲スヲ得ルナリ之ニ反シ當事者ハ自ラ證人ニ對シ訊問ヲ爲スコトヲ得スシテ必要ナル事項ニ付キ證人ノ答辯ヲ得ント欲セハ其事項ニ付キ訊問ヲ爲サンコトヲ裁判長ニ求メサルハカラス

第三百十六條 調書ニハ證人カ其訊問ノ前若クハ後ニ宣誓シタルヤ又ハ宣誓セスシテ訊問ヲ受ケタルヤヲ記載ス可シ

第三百十七條 受訴裁判所ハ左ノ場合ニ於テ證人ノ再訊問ヲ命スルコトヲ得

第一 證人訊問カ法律上ノ規定ニ違ヒタルトキ

第二 證人訊問ノ完全ナラサルトキ

第三 證人ノ供述カ明白ナラス又ハ兩義ニ涉ルトキ

第四 證人カ其供述ノ補充又ハ更正ヲ申立ツルトキ

第五 此他裁判所カ再訊問ヲ必要トスルトキ

〔註〕證人ハ再訊問ヲ爲スコトヲ得ルナリ若シ再訊問ヲ必要トスル場合ハ本條ニ於テ之ヲ列示セリ即チ本條第一號ヨリ第五號ニ至リ規定ノ場合ノ如キ是レナリ而シテ證人ノ訊問ハ受訴裁判所自ラ之ヲ爲スモノトス

第三百十八條 左ノ場合ニ於テ證人ニ依レル證據調ハ受訴裁判所ノ部員一名ニ之ヲ命シ又ハ區裁判所ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

第一 眞實ヲ探知スル爲メ現場ニ就キ證人ヲ訊問スルノ必要ナルトキ

第二 證人カ疾病其他ノ事由ノ爲メ受訴裁判所ニ出頭スル能ハサルトキ

第三 證人カ受訴裁判所ノ所在地ヨリ遠隔ノ地ニ在リテ
其裁判所ニ出頭スルニ付キ不相應ノ時日及ヒ費用ヲ要
スルトキ

〔註〕本條ニ掲クル場合ニ於テハ裁判所ハ自ラ其裁判所ニ於テ訊問ヲ爲スヲ得ルモノナル
モ適當ト認メタル場合ニ於テハ受命判事又ハ受託判事ヲシテ訊問ヲ爲サシムルコトヲ得
ルナリ

第一 眞實ヲ探知スル爲メ現場ニ就キ證人ヲ訊問スルノ必要アルトキ

例ヘハ土地ノ經界ニ付テノ證言ヲ得ル爲メ其現場ニ付キ訊問ヲ爲スノ必要アルトキ又ハ
建築等ニ就テノ證言ニシテ其建築場ニ就キ説明ヲ要スルカ如キ場合ニ於テハ裁判所ハ受
命判事又ハ受託判事ヲシテ其場所ニ於テ證人ノ訊問ヲ爲サシムルコトヲ得

第二 證人カ疾病其他ノ事故ノ爲メ受訴裁判所ニ出頭スルコト能ハサルトキ

第三 證人カ受訴裁判所ニ出頭スル爲メ不相應ノ費用及ヒ時日ヲ要スルトキ

證人カ受訴裁判所ニ出頭スル爲メ不相應ノ費用ヲ要シタルトキハ其費用ハ後日舉證者ヨ
リ償還ヲ求ムルヲ得ルモ該償還ハ證言ヲ爲シタル後ニ非サレハ之ヲ受取ルヲ得ス故ニ證
人ヲシテ多額ノ費用ヲ立替ヘシムルハ證人ノ爲メ甚ダ迷惑タリ加之ス證人カ出頭ノ爲メ
少ナカラサル時日ヲ消費スルカ如キハ證人ノ爲メ甚ダ不利益ナルモノナルカ故ニ此ノ如

キ場合ニ於テハ受命判事又ハ受託判事ヲシテ其所在ニ就キ訊問ヲ爲サシムルコトヲ得ル
ナリ

第三百十九條

第二百九十四條、第二百九十五條、第三百二條及

第三百九條ニ掲ケタル證人ニ對スル受訴裁判所ノ權ハ受命

判事又ハ受託判事ニモ屬ス

證人カ受命判事又ハ受託判事ノ面前ニ於テ理由ヲ開示シテ
證言ヲ拒ミ又ハ宣誓ヲ拒ミ又ハ職權若クハ申立ニ因リ發シ
タル問ニ答フルコトヲ拒ムトキハ此拒絕ノ當否ニ付キ裁判
ヲ爲ス權ハ受訴裁判所ニ屬ス

受命判事又ハ受託判事カ原告若クハ被告ヨリ申立テタル問
ヲ發スルコトヲ否ムトキハ原告若クハ被告ハ其當否ニ付キ
受訴裁判所ノ裁判ヲ求ムルコトヲ得證人ノ再訊問ハ受命判
事又ハ受託判事ノ意見ヲ以テ之ヲ命スルコトヲ得

〔註〕受訴裁判所ノ權ト受命判事又ハ受託判事ノ職權トハ異ナルモノナレトモ第二百九十
四條第二百九十五條第三百二條及ヒ第三百九條ニ掲ケタル證人ニ對スル受訴裁判所ノ權

ハ受命判事又ハ受託判事ニモ屬スルナリ是等ノ場合ハ此ノ規定ナキニ於テハ證人ニ對スル判事ノ職權ハ之ナキモノニ至レルナリ是等ノ場合ハ證人カ一般ニ受クル制裁ナレハナリ
然レトモ證人カ受命判事又ハ受託判事ノ面前ニ於テ理由ヲ開示シテ證言ヲ拒ミ又ハ宣誓ヲ拒ミタル等ノ場合ニ此ノ拒絕ノ當否ヲ裁判スルハ受託裁判所ニ屬スルモノトス

第三百二十條

證人ヲ申出テタル原告若クハ被告ハ其訊問ノ開始マテハ此證據方法ヲ拋棄スルコトヲ得其後ハ相手方ノ承諾ヲ得ルトキニ限り之ヲ拋棄スルコトヲ得

〔註〕民事訴訟ハ刑事訴訟ト異ニシテ放任主義ヲ執ルモノナレハ其ノ證據ヲ申出ツル等ニ於テモ裁判所ヨリ敢テ干涉スルコトナク原告被告ノ申出ニ任スヲ以テ證人申出ノ如キモ原告若クハ被告カ一旦申出タル場合ニ於テモ其訊問ヲ開始スルマテハ之ヲ拋棄スルハ當事者ノ任意ナリ而シテ其後即チ訊問開始ノ後ト雖モ相手方ノ承諾ヲ得ルトキハ亦之ヲ拋棄スルコトヲ得ルナリ

第三百二十一條

各證人ハ日當ノ辨濟及ヒ其出頭ノ爲ニ旅行ヲ要スルトキハ旅費ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得此金額ノ拂渡ハ訊問期日ノ終リタル後直チニ之ヲ求ムルコトヲ得

トヲ得

舉證者ノ豫納シタル金額不足スルトキハ職權ヲ以テ其不足額ヲ取立ツ可シ

〔註〕本條ハ意義明了ナレハ之ヲ説明スルヲ要セス

第七節 鑑定

〔註〕凡ソ當事者間ニ於テ爭ト爲リタル事實ニシテ判決ニ關係ヲ有スルモノハ裁判所ニ於テ之ヲ判定スルノ義務ヲ有スルナリ然レトモ事實ヲ判定スルニ當リテヤ或ハ専門ノ智識技能ヲ要スルコトアリ此ノ場合ニハ普通ノ智識ヲ以テ之ヲ判定シ得ヘキモノニ非スシテ其職ニ從事シ必要ナル經驗又ハ學識ヲ有スル者ニ非サレハ容易ニ之カ判定ヲ爲スヲ得ス故ニ裁判官ヲシテ自ラ此等ノ事實ヲ判定セシムルハ萬能チ一人ニ責ムルモノニシテ到底望ミ得ヘキ事ニ非ス是ヲ以テ此等ノ事實ノ判定ヲ爲スニハ特別ノ智識技能ヲ有スル者ノ助ケヲ得サルヘカラス之ヲ鑑定ト云フ

然ラハ則チ鑑定人ナル者ハ或ル事實ニ付キ己レノ有スル特別ノ智識又ハ技能ニ基キ鑑定ヲ爲シ以テ裁判所ノ判決ノ準備ヲ爲スモノニシテ即チ裁判官ヲ補助スルモノナリ是ヲ以テ裁判所ハ左ノ權利アルモノトス

第一 裁判所ハ職權ヲ以テ鑑定ヲ命スルコトヲ得

鑑定ハ裁判官ノ補助ト看做スヘキモノナルカ故ニ假令當事者ヨリ鑑定ノ申立ヲ爲ササリ

シトキト雖モ裁判所ハ職權ヲ以テ鑑定ヲ命スルコトヲ得但シ裁判所ニ於テ職權上鑑定ヲ命シタルトキハ其手續ハ當事者ノ申立ニ因リ鑑定ヲ爲サシムルト同一ノ手續ニ依ル

第二 鑑定人ノ指定及ヒ員數ハ裁判所ニ於テ之ヲ定ム

鑑定ノ結果即チ鑑定人ノ申立テタルコトハ裁判所ニ於テ必スシモ之ヲ遵守スルノ義務ヲ有セス如何トナレハ鑑定モ亦一ノ證據ニ外ナラサルヲ以テナリ然レトモ裁判所カ鑑定ヲ爲サシムルノ必要ヲ認メテ之ヲ命スル所以ハ其結果ニ依リ己レノ考ヘテ確メントスルニ過キス然ラハ則チ自ラ信スルニ足ルト認メタル者ヲシテ之カ鑑定ヲ爲サシムルハ最モ適當ノコトナリトス

第三百二十二條

鑑定ニ付テハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケサル限リハ人證ニ付テノ規定ヲ準用ス

〔註〕鑑定人ト人證トニ付テノ規定トハ略ホ同一ナルヲ以テ本節ニ別段ノ規定ナキモノハ人證ノ規定ヲ適用スルモノトス

第三百二十三條

鑑定ノ申出ハ鑑定ス可キ事項ヲ表示シテ之ヲ爲ス

〔註〕鑑定ハ裁判所ヨリ之ヲ命スル場合ノミナラス亦當事者ヨリモ申出ツルコトアルナリ若シ當事者ヨリ申出ツルトキハ其ノ鑑定スヘキ事項ヲ表示シテ之ヲ爲スモノトスルナリ

是レ人證ノ場合ニ述ヘタル同一理由ナリ

第三百二十四條

立會フ可キ鑑定人ノ選定及ヒ其員數ノ指定ハ受訴裁判所之ヲ爲ス其裁判所ハ鑑定人ノ任命ヲ一名マテニ制限シ又ハ何時ニテモ既ニ任命シタル者ニ代ヘ他ノ鑑定人ヲ任命スルコトヲ得

裁判所ハ鑑定人トシテ訊問ヲ受クルニ適當ナル者ヲ指名ス可キ旨ヲ當事者ニ催告スルコトヲ得

當事者カ一定ノ者ヲ鑑定人ニ爲スコトヲ合意シタルトキハ裁判所ハ其合意ニ從フ可シ然レトモ裁判所ハ當事者ノ爲ス可キ選定ヲ一定ノ員數ニ制限スルコトヲ得

〔註〕裁判所ハ鑑定人ノ選定ヲ當事者ニ委任スルコトヲ得ルナリ而シテ當事者カ合意上其鑑定人ヲ指定シタルトキハ裁判所ハ其指定シタル者ヲ鑑定人ト爲ササルヲ得ス但シ其員數ニ至リテハ裁判所ハ職權ヲ以テ之ヲ制限スルコトヲ得

又裁判所ハ自由ナル意見ニ依リ再鑑定ヲ命スルコトヲ得ルナリ是レ鑑定ノ結果ヲ採ルト否トハ裁判所ニ於テ自由ナル意見ニ依リ之ヲ定ムルモノニシテ數名ノ鑑定人カ同一ノ意見ヲ陳述シタルトキハ尙ホ裁判所ハ其結果ヲ排斥スルコトヲ得然ラハ則チ裁判所ニ於テ

◎第二編第一審ノ訴訟手續 第一章地方裁判所ノ訴訟手續

鑑ノ結果カ不十分ナリト判定シタルトキハ同一ノ鑑定人又ハ他ノ鑑定人ヲシテ再ヒ鑑定
ヲ爲サシムルコトヲ得ルナリ

又裁判所ハ當事者ヨリ提出シタル鑑定ノ申出ニ拘束セララルコトナシ即チ當事者ヨリ申
出タル鑑定人ヲ必ス採用スルノ義務ナキナリ是レ裁判所ニ於テ鑑定ヲ要スルハ自ラ係争
事實ヲ判定スルニ必要ナル智識ヲ有セサルニ因ル故ニ裁判官ニ於テ自ラ其智識ヲ有スル
場合ニ於テハ敢テ鑑定ヲ命スルノ要ナキモノナレハナリ

右ノ外鑑定ノ手續ニ付テハ總テ人證ニ付テノ規定ヲ適用スルモノトス然レトモ性質上兩
者ノ間差異ヲ生スヘキモノナルトキ又ハ特別ノ規定アル場合ニ於テハ固ヨリ其規定ニ依
ラサルヘカラス例ヘハ證人タルノ義務ハ何人モ之ヲ有スレトモ鑑定ハ何人ニテモ之ヲ爲
シ得ルモノニ非サルカ故ニ鑑定ノ義務ヲ有スル者ハ法律上左ノ三種ノ者ニ制限シアリ

第一 或ル種類ノ鑑定ヲ爲ス爲メ特ニ公ニ任命セラレタル者

第二 鑑定ヲ爲スニ必要ナル學術技藝若クハ職業ニ常ニ従事スル者又ハ之カ爲メ任命
セラレ若クハ授權セラレタル者

第三 鑑定ヲ爲スヘキ旨ヲ裁判所ニ於テ述ヘタル者

第三百二十五條

外國ノ書類又ハ產物ノ審査ヲ要スル場合ニ
於テ必要ナル能力ヲ有スル本邦人ノ在ラサルトキハ裁判所

ハ外國人ヲ鑑定人ニ任命スルコトヲ得

〔註〕ニ鑑定ハ其ノ智識經驗學術技藝ヲ必要トスレハ鑑定人ニ於テモ獨リ本邦人ニ限ルト
ルトキハ鑑定ヲ爲ス能ハサル場合アリ故ニ本條ニ記載スル場合ノ如キハ外國人ヲ鑑定人
命スルコトヲ得ルナリ

第三百二十六條

左ニ掲クル者鑑定ヲ命セラレタルトキハ之
ヲ爲ス義務アリ

第一 必要ナル種類ノ鑑定ヲ爲ス爲ニ公ニ任命セラレタ
ル者

第二 鑑定ヲ爲スニ必要ナル學術技藝若クハ職業ニ常ニ
従事スル者又ハ學術、技藝若クハ職業ニ従事スル爲ニ公
ニ任命セラレ若クハ授權セラレタル者

右ノ外鑑定ヲ爲ス可キ旨ヲ裁判所ニ於テ述ヘタル者ハ鑑定
人タル義務ナキトキト雖モ鑑定ヲ爲ス義務アリ

〔註〕本條ハ前ニ述ヘタル説明ニ因リ明カナレハ之ヲ略ス

第三百二十七條

鑑定人ハ證人カ證言ヲ拒ムコトヲ得ルト同

一ノ原因ニ依リ鑑定ヲ拒ム權利アリ
官吏、公吏ハ其所屬廳ニ於テ異議アルトキハ之ヲ鑑定人トシ
テ訊問スルコトヲ得ス

第三百二十八條 鑑定ヲ爲ス義務アル鑑定人出頭セス又ハ鑑
定ヲ拒ミタル場合ニ於テハ其者ニ對シ此カ爲ニ生シタル費
用ノ賠償及ヒ罰金ヲ言渡ス可シ但其鑑定人ヲ勾引スルコト
ヲ得ス

〔註〕鑑定ヲ爲ス義務ヲ有スル鑑定人トハ已ニ鑑定ヲ命セラレタル鑑定人又ハ當事者ヨリ
申出タル鑑定人ヲ云フ此ノ義務ヲ有スル鑑定人出頭セサルトキハ證人ノ場合ト同一ノ規
定ニ依リ費用ノ賠償及ヒ罰金ヲ言渡スコトヲ得ルナリ然レトモ鑑定人ヲ勾引スルコトヲ
得ス如何トナレハ鑑定ハ強制ニ依リ之ヲ爲サシムルヲ得サレハナリ

第三百二十九條 鑑定人ハ其鑑定ヲ爲ス前ニ其鑑定人タル義
務ヲ公平且誠實ニ履行スヘキ旨ノ誓ヲ宣フ可シ

第三百三十條 受訴裁判所ハ其意見ヲ以テ左ノ諸件ヲ定ム可
シ

第一 鑑定人ノ意見ハ口頭又ハ書面ニテ之ヲ述ヘシム可
キヤ

第二 數名ノ鑑定人ヲ訊問ス可キ場合ニ於テ各意見カ異
ナルトキハ共同ニテ鑑定書ヲ作ラシム可キヤ又ハ各別
ニ之ヲ作ラシム可キヤ

第三 口頭辯論ノ際鑑定人ノ總員又ハ其一名ヲシテ鑑定
書ヲ説明セシム可キヤ

第四 鑑定ノ結果カ不十分ナルトキハ同一又ハ他ノ鑑定
人ヲシテ再ヒ鑑定ヲ爲サシム可キヤ

〔註〕鑑定ノ結果ハ口頭又ハ書面ニテ之ヲ述ヘシムルヲ得ルナリ故ニ裁判所其孰レニ依リ
鑑定人ノ意見ヲ述ヘシムルヤヲ定ムヘシ其他鑑定書ハ數名ノ鑑定人ヲシテ共同ニテ之ヲ
作ラシムヘキヤ否ヤ又其鑑定書ノ説明ヲ要スル場合ニ於テハ一人ノ鑑定人ヲシテ之カ説
明ヲ爲サシムルヤ等モ亦裁判所ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第三百三十一條 受訴裁判所ハ鑑定人ノ任命ヲ受命判事又ハ
受託判事ニ委任スルコトヲ得此場合ニ於テハ受命判事又ハ

◎第二編第一審ノ訴訟手續 第一章地方裁判所ノ訴訟手續

受託判事ハ第三百二十四條及ヒ第三百三十條第一號並ニ第二號ノ規定ニ依リ受訴裁判所ニ屬スル權ヲ有ス

第三百三十二條 鑑定人ハ日當、旅費及ヒ立替金ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得

此場合ニ於テハ第三百二十一條ノ規定ヲ準用ス

第三百三十三條 特別ノ智識ヲ要セシ過去ノ事實又ハ事情ニシテ其實驗アル者ノ訊問ニ因リテ確定ス可キトキハ人證ニ付テノ規定ヲ適用ス

〔註〕特別ノ智識ヲ有スル者ニ非サレハ之カ判定ヲ爲ス能ハサルモノアリ此等ハ鑑定證人ト稱スヘキ者ナリ即チ過去ノ事實及ヒ事情ニシテ特別ノ智識ヲ有スル者ノ鑑定ハ純然タル普通ノ鑑定ニ非スシテ寧ロ證人ト云フヘシ故ニ此種ノ鑑定ニ付テハ總テ人證ニ關スル規定ヲ適用スヘキモノトス

第八節 書證

〔註〕書證トハ既往ノ事實ヲ確ムル所ノ筆記ヲ云フ此ノ如キ書類ハ紙上ニ在ルモノト石又ハ皮等ノ上ニ在ルモノトナ問ハス凡テ書證中ニ包含スルモノトス然レトモ經界、標石、彫刻若クハ圖面ノ如キハ書證ニ非スシテ檢證ノ用ニ供スヘキモノトス今茲ニ書證ヲ分テ二

トス公正證書私署證書是レナリ

公正證書トハ公吏カ其職務内ニ於テ且ツ法律ニ定メタル方式ニ從ヒテ作りタルモノヲ云フ私證書トハ公正證書ニ非サル證書ヲ云フ

第三百三十四條 書證ノ申出ハ證書ヲ提出シテ之ヲ爲ス

〔註〕書證ノ證據調ハ書證ノ申出ヲ以テ始マル書證申出ノ方法ハ場合ニ依リ一様ナラス
第一 舉證者自カラ證書ヲ所持スルトキ

右ノ場合ニ於テハ書證ノ申出ハ口頭辯論ニ於テ證書ヲ提出シテ之ヲ爲スモノトス然レトモ口頭辯論ノ際證書ヲ提出スルトキハ毀損若クハ紛失ノ恐れアルカ又ハ他ノ顯著ナル障害アルトキハ受命判事又ハ受託判事ノ面前ニ證書ヲ提出セシコトノ申立ヲ爲シ以テ證書ノ申出ヲ爲スヘシ是レ本條ノ規定ナリ第二ハ次條ニ就テ説明スヘシ

第三百三十五條 舉證者其使用セントスル證書カ相手方ノ手ニ存スル旨ヲ主張スルトキハ書證ノ申出ハ相手方ニ其證書ノ提出ヲ命セシコトヲ申立テテ之ヲ爲ス可シ

〔註〕本條ハ前條ニ於テ述ヘタル第二ノ場合ヲ規定シタルモノナリ其場合ハ即チ左ノ如シ
第二 舉證者ニ於テ相手方カ證書ヲ所持スト認メタルトキ

此場合ニ於テハ相手方ニ該證書ノ提出ヲ命セラシコトノ申立ヲ以テ書證ノ申出ヲ爲ス

又第三者ニ於テ證書ヲ所持スルトキ此場合ニ於テハ舉證者ハ該證書ヲ受取リ提出スル爲メ期間ヲ定メラレシコトヲ申立テ以テ證書ノ申出ヲ爲スヘシ
右ノ如ク書證ノ申出ヲ爲シタルトキハ其後ノ手續モ亦右各場合ニ依リ同シカラス而シテ前條ニ述ヘタル第一ノ場合ニ於テ舉證者カ自カラ證書ヲ提出シタルトキハ敢テ證據決定ヲ要セス其他ノ場合ニ於テハ總テ證據決定ヲ爲スヲ要ス即チ第一ノ場合中舉證者カ受命判事若クハ受託判事ノ面前ニ證書ヲ提出セシコトヲ申立テタルトキハ裁判所ハ證據決定ヲ以テ之ヲ命スルモノトス然レトモ裁判所ニ於テ特ニ受命判事ニ於テ證據調ヲ爲スノ要ナシト認メタルトキハ舉證者ノ申立ヲ却下シ證書ヲ口頭辯論ノ際提出セシムルヲ得ルモノトス

本條ノ場合ニ於テハ舉證者ノ申立カ違法ナルヤ否ヤヲ調査セサルヘカラス

第三百三十六條 相手方ハ左ノ場合ニ於テ證書ヲ提出スル義務アリ

- 第一 舉證者カ民法ノ規定ニ從ヒ訴訟外ニ於テモ證書ノ引渡又ハ其提出ヲ求ムルコトヲ得ルトキ
- 第二 證書カ其旨趣ニ因リ舉證者及ヒ相手方ニ共通ナルトキ

〔註〕本條ノ規定ニ依レハ證書ノ所持人ハ左ノ場合ニ於テ證書ヲ提出スルノ義務アリ

第一 舉證者カ民法ノ規定ニ從ヒ訴訟外ニ於テモ證書ノ引渡又ハ其提出ヲ求ムルコトヲ得ルトキ

第二 證書カ其旨趣ニ因リ舉證者及ヒ所持人ニ共通ナルトキ

第一ノ民法ノ規定ニ依リ訴訟外ニ於テ證書ノ提出又ハ引渡ヲ求ムルコトヲ得ル場合トハ物權又ハ人權ニ依リ舉證者ニ於テ之ヲ求ムルノ權利ヲ有スル場合ナリ例ヘハ舉證者カ證書ニ對シ所有權ヲ有スル旨又ハ占有權ヲ有スル旨ヲ主張シテ之カ引渡ヲ求ムルカ如キ又ハ契約上證書所持人カ其證書ノ引渡ヲ爲スノ義務アルコトヲ主張シテ之カ引渡ヲ求ムルカ如キ場合はナリ

證書カ舉證者及ヒ所持人ニ於テ共通ナルトキトハ舉證者及ヒ所持人ノ利益ノ爲メ成立シタルモノナルトキ又ハ相互ノ權義ヲ證スル爲メ成立シタルモノナルトキヲ云フ蓋シ證書カ或ル人ノ利益ノ爲メ成立シタルトハ敢テ證據ヲ爲スカ爲メ成立シタル所ノ證書ノミチ云フニ非スシテ該證書ニ依リ利益ヲ有スルトキハ則チ其ノ利益ノ爲メ成立シタルモノナリ例ヘハ第三債務者カ債務者ノ債權者ニ直チニ支拂ヒテ爲サンコトヲ債務者ニ對シ書面ヲ以テ約シタルトキハ該證書ハ債權者ニモ亦共通ナリ

第三百三十七條 相手方ハ其手ニ存スル證書ニシテ其訴訟ニ於テ舉證ノ爲メ引用シタルモノヲ提出スル義務アリ準備書

⑥第二編第一審ノ訴訟手續 第一章地方裁判所ノ訴訟手續

面中ニノミ引用シタルトキト雖モ亦同シ

〔註〕證書ノ所持人カ訴訟ノ相手方ナルトキハ右前條ニ於テ述ヘタル二個ノ場合ノ外尙相手方カ訴訟中舉證ノ爲メ引用シタル證書ハ之ヲ提出スルノ義務アルモノトス舉證者ニ於テモ亦然リ故ニ舉證者ニ於テ訴訟中證書ノ引用ヲ爲シタルトキハ相手方ニ於テ承諾セサル限ハ之ヲ取消スコトヲ得

官廳其他公吏ト雖モ亦前同一ノ規定ニ從ヒ證書提出ノ義務ヲ有ス

第三百三十八條 證書ノ提出ヲ命センコトノ申立ニハ左ノ諸

件掲ク可シ

第一 證書ノ表示

第二 證書ニ依リ證ス可キ事實ノ表示

第三 證書ノ旨趣

第四 證書カ相手方ノ手ニ存スル旨ヲ主張スル理由タル

事情

第五 證書ヲ提出ス可キ義務ノ原因ノ表示

〔註〕證書ノ提出ヲ命センコトノ申立ハ左ノ諸件ヲ具備セサレハ其申立ハ却下セラル

第一 證書ノ表示例ヘハ某ヨリ何某ニ差入レタル金員借用證書

- 第二 證書ヲ以テ證スヘキ事實ノ表示
 - 第三 證書ノ趣意
 - 第四 證書ヲ相手方ノ手ニ存スル旨ヲ主張スル理由
 - 第五 證書提出ノ義務ノ原因
- 右諸件ヲ掲ケタル申立アリタルトキハ裁判所ハ之ニ對シ相手方ヲシテ意見ヲ陳述セシムルナリ

第三百三十九條 裁判所ハ證書ニ依リ證ス可キ事實ノ重要ニシテ且申立ヲ正當ナリト認ムル場合ニ於テ相手方カ證書ノ其手ニ存スルコトヲ自白スルトキ又ハ申立ニ對シ陳述セサルトキハ證據決定ヲ以テ證書ノ提出ヲ命ス

〔註〕相手方ニ於テ證書ヲ所持スル旨ヲ自白シ且提出ノ義務ヲ認メタルトキハ裁判所ハ證書ヲ以テ證セントスル事實ノ必要ナルヤ否ヤヲ調査ス而シテ裁判所ニ於テ其事實ヲ證スルヲ必要ト認ムルトキハ證據決定ヲ以テ相手方ニ證書ノ提出ヲ命シ若シ之ヲ必要ナラストスルトキハ舉證者ノ申立ヲ却下シ本案ニ付テノ審理ヲ繼續スルナリ

相手方ニ於テ證書ヲ所持スル旨ヲ自白スルモ提出ノ義務ナキ旨ヲ主張スルトキハ裁判所ハ證書ヲ以テ證スヘキ事實ノ必要ナルヤ否ヤヲ調査ス而シテ必要ナラストスルトキハ申

立テ却下シ必要ナリトスルトキハ當事者間ニ證書提出ノ義務如何ニ付キ中間争ヲ生シタルモノナルカ故ニ裁判所ハ中間判決ヲ爲スヲ得ルナリ若シ中間判決ヲ與フルヲ可トスルトキハ裁判所ハ相手方カ提出ノ義務ヲ有ス若シハ有セストノ判決ヲ爲スヘク義務ヲシトスルトキハ審理ヲ繼續シ義務アリトスルトキハ證書ノ提出ヲ命スルモノトス
裁判所ハ證據決定ニ拘束セラルルコトナシ故ニ證據決定ヲ以テ證書ノ提出ヲ命シタル後ニ於テモ證書ヘキ事實カ判決ニ必要ナラサルコトヲ覺知シタルトキハ先キニ提出ヲ命シタル證據決定ヲ取消スコトヲ得ルナリ然レトモ中間判決ヲ以テ證書提出ヲ命シタルトキハ裁判所ハ之ヲ取消スコトヲ得ス

第三百四十條

相手方カ證書ヲ所持セサル旨ヲ申立ツルトキハ此申立ノ眞實ナルヤ否ヤヲ定ムル爲メ又ハ證書ノ所在ヲ穿鑿スル爲メ又ハ舉證者ノ使用ヲ妨クル目的ヲ以テ故意ニ證書ヲ隱匿シ若シハ使用ニ耐ヘサラシメタルヤ否ヤヲ穿鑿スル爲メ本章第十節ノ規定ニ從ヒテ相手方本人ヲ訊問ス可シ
相手方カ官廳ナルトキハ證書カ其官廳ノ保藏ニ係ラス又ハ其所在ヲ開示スルヲ得サル旨ノ長官ノ證明書ヲ以テ訊問ニ

換フ裁判所ハ此證明書ヲ差出サシムル爲メ相當ノ期間ヲ定ム可シ

〔註〕舉證者ノ申出ニ對シ相手方ノ代理人カ證書ヲ所持セスト申立テタルトキハ其申立ノ眞實ナルヤ否ヤ又ハ證書ハ尙ホ何地ニ在ルヤ又ハ舉證者ノ使用ヲ妨クル爲メ故意ニ證書ヲ隱匿シ若シハ使用ニ耐ヘサラシメタルヤ否ヤヲ知ル爲メ當事者本人ノ訊問ヲ命スルコトヲ得ルナリ

若シ其相手方カ官廳ナルトキハ右證書ハ官廳ノ保存ニ係ラス又ハ其所在ヲ開示スルヲ得ストノ長官ノ證明書ヲ以テ本人訊問ニ換フルモノナルカ故ニ其證明書ヲ得ル爲メ期間ヲ定ム可シトス

第三百四十一條

證書ヲ所持スルコトヲ自白シ又ハ之ヲ所持セスト申立テサル相手方カ其證書ヲ提出ス可シトノ命ニ從ハス又ハ相手方カ所持セスト申立テタル證書ニ付キ訊問ヲ受ケテ供述ヲ爲スコトヲ拒ミタルトキ又ハ舉證者ノ使用ヲ妨クル目的ヲ以テ故意ニ證書ヲ隱匿シ若シハ使用ニ耐ヘサラシメタルコトノ明確ナルトキハ舉證者ノ差出シタル證書ノ謄本ヲ正當ナルモノト看做ス若シ謄本ヲ差出ササルトキ

ハ裁判所ハ其意見ヲ以テ證書ノ性質及ヒ旨趣ニ付キ舉證者ノ主張ヲ正當ナリト認ムルコトヲ得
前條第二項ニ掲ケタル證明書ヲ裁判所ノ定メタル期間内ニ差出ササルトキハ相手方タル官廳ニ對シ前項ト同一ノ結果ヲ生ス

〔註〕前條ノ規定ニ依リ訊問ヲ爲シタル上相手方カ眞ニ證書ヲ所持セスト認ムルトキハ舉證者ノ申立ヲ却下シテ本案ニ付テノ審理ヲ引續キテ爲スナリ然レトモ相手方ニ於テ證書ノ所在ニ付テノ訊問ニ對シ何等ノ答辯ヲ爲サズ若シクハ舉證者ノ使用ヲ妨クル爲メ故意ニ證書ヲ隱匿若クハ使用ニ堪ヘサラシメタルコトノ明確ナルトキハ證書提出ノ義務如何ノ問題ヲ定ムヘシ若シ提出ノ義務ナシトスルトキハ他ノ手續ヲ要セスト雖モ義務アリト認メタルトキハ舉證者ニ於テ證書ノ謄本ヲ出シタルヤ否ヤニ依リテ區別アリ若シ證書ノ謄本ヲ差出シタルトキハ之ヲ正當ノモノナリト見做ス若シ其ノ謄本ヲ出ササルトキハ裁判所ハ其ノ意見ヲ以テ證書ノ性質及ヒ旨趣ニ付キ舉證者ノ主張ヲ正當ト見做スコトヲ得ルナリ官廳カ期間内ニ證明書ヲ差出ササルトキモ亦同一ノ規定ニ依ルヘシトス
證書ノ提出ヲ爲ス爲メ期間ヲ定メシコトヲ申立テタルトキハ其申立ハ第三百三十八條ノ證書提出ヲ命ゼシコトノ申立ニ掲ケヘキ諸件ノ内第四號ヲ除キ其他ノ諸件ヲ掲ケ且ツ證

書カ第三者ノ手中ニ存スルコトヲ疏明スヘシ又申立カ右ノ事項ヲ具備シ且裁判所ニ於テ證スヘキ事實ヲ必要ト認メタルトキハ證據決定ヲ以テ證書提出ノ期間ヲ定ムルナリ

第三百四十二條

舉證者其使用セントスル證書カ第三者ノ手ニ存スル旨ヲ主張スルトキハ書證ノ申出ハ其證書ヲ取寄スル爲メ期間ヲ定メシコトヲ申立テテ之ヲ爲ス

〔註〕前條ノ期間ハ舉證者ヨリ第三者ニ對シ訴訟ヲ以テ證書ノ取戻ヲ爲シ若クハ提出ヲ爲サシムルコトヲ得ル限リ猶豫ヲ與ヘサルヘカラス若シ訴訟カ其期間内ニ落着セサルトキハ當事者ハ合意ヲ以テ口頭辯論ノ延期ヲ爲スカ又ハ裁判所ニ期日ノ變更ヲ求ムルヲ得ルナリ若シ舉證者ニ於テ第三者ニ對シ訴訟ヲ起ササルカ其手續ヲ繼續セサルカ又ハ執行ヲ怠ルカ又ハ己ニ訴訟ノ完結ヲ爲シタルトキハ假令ヒ裁判所ノ定メタル期間内ト雖モ相手方ハ口頭辯論ノ續行ヲ申立ツルコトヲ得ルナリ本條ニ於テ其證書ヲ取寄スル爲メトアルハ舉證者ニ於テ該證書ヲ受取り提出スル爲メト知ルヘシ

第三百四十三條

第三者ハ舉證者ノ相手方ニ於ケルト同一ナル理由ニ因リ證書ヲ提出スル義務アリ然レトモ強テ證書ヲ提出セシムルコトハ訴ヲ以テノミ之ヲ爲スコトヲ得

第三百四十四條

第三百四十二條ニ從ヒ申立ヲ爲スニハ第三

百三十八條第一號乃至第三號及第五號ノ要件ヲ履ミ且證書カ第三者ノ手ニ存スルコトヲ疏明ス可シ

第三百四十五條 證書ニ依リ證ス可キ事實ノ重要ニシテ且其申立カ前條ノ規ニ適スルトキハ裁判所ハ證書提出ノ期間ヲ定ム可シ

第三者ニ對スル訴訟ノ完結シタルトキ又ハ舉證者カ訴ノ提起、訴訟ノ繼續又ハ強制執行ヲ遲延シタルトキハ相手方ハ前項ノ期間ノ滿了前ト雖モ訴訟手續ノ繼續ヲ申立ツルコトヲ得

〔註〕右三條ハ前條ニ於テ説明シタルニ依リ明カナレハ之ヲ略ス

第三百四十六條 舉證者其使用セントスル證書カ官廳又ハ公吏ノ手ニ存スル旨ヲ主張スルトキハ書證ノ申出ハ證書ノ送付ヲ官廳又ハ公吏ニ囑託セラレノヲ申立テ之ヲ爲ス此規定ハ當事者カ法律上ノ規定ニ從ヒ裁判所ノ助力ナクシテ取寄スルコトヲ得ヘキ證書ニハ之ヲ適用セス

官廳又ハ公吏カ第三百三十六條ノ規定ニ基キ證書ヲ提出スル義務アル場合ニ於テ其送付ヲ拒ムトキハ第三百四十二條乃至第三百四十五條ノ規定ヲ適用ス

〔註〕官廳又ハ公吏若クハ公吏ニ證書ノ送付ヲ囑託セラレノコトノ申立ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ證據決定ヲ以テ之ヲ許スヘキヤ否ヤヲ定ムヘシ官廳又ハ公吏若クハ公吏カ證書ノ送付ヲ拒ミ而シテ舉證者ハ官廳又ハ公吏若クハ公吏カ提出ノ義務ヲ有スル旨ヲ主張シタルトキハ前第三ノ場合ニ於テ陳述シタル所ノ規定ヲ適用ス

第三百四十七條 證據決定ヲ爲シタル後第三百四十二條及ヒ第三百四十六條ノ規定ニ從ヒ書證ヲ申出テタル場合ニ於テ證書取寄ノ手續ノ爲ニ訴訟ノ完結ヲ遲延スルニ至ル可ク且裁判所ニ於テ原告若クハ被告カ訴訟ヲ遲延スル故意ヲ以テ又ハ甚シキ怠慢ニ因リ書證ヲ早ク申出テカリシノ心證ヲ得タルトキハ申立ニ因リ其書證ノ申出ヲ却下スルコトヲ得

〔註〕本條ハ書證ヲ申出タルモ證書取寄ノ爲メ又ハ原告若クハ被告カ故意ヲ以テ又ハ甚シキ怠慢ニ因リ書證ヲ早ク申出テサルトキニ其書證ノ申出ヲ却下スルコトヲ得ル旨ヲ規定セリ

第三百四十八條 口頭辯論ノ際證書ヲ提出スルニ於テハ其毀損若クハ紛失ノ恐アリ又ハ他ノ顯著ナル障礙アルトキハ受命判事又ハ受託判事ノ面前ニ證書ヲ提出ス可キ旨ヲ命スルコトヲ得

受命判事又ハ受託判事ハ證書ノ明細書及ヒ其謄本ヲ調書ニ添附シ及證書ノ一分ノミ必要ナルトキハ第一百七條第二項ノ規定ニ從ヒテ作りタル抄本ヲ之ニ添附ス可シ

〔註〕以上陳述シタル場合ニ於テ裁判所カ證書ノ提出ヲ命スルニ當リ或ハ毀損若クハ紛失等ノ恐アルト認メタルトキハ之ヲ受命判事若クハ受託判事ノ面前ニ提出セシムルコトヲ得ルナリ

受命判事又ハ受託判事ハ證書ノ明細書及ヒ其謄本ヲ調書ニ添付シ又調書ノ一分ノミ必要ナルトキハ第一百七條第二項ノ規定即チ其冒頭、事件ニ屬スル部分、終尾、日附、署名及ヒ印章ヲ謄寫シタル抄本ヲ之ニ添付セサルヘカラス

第三百四十九條 公正證書ハ正本又ハ認證ヲ受ケタル謄本ヲ以テ之ヲ提出スルコトヲ得然レトモ裁判所ハ舉證者ニ正本ノ提出ヲ命スルコトヲ得

私署證書ハ原本ヲ以テ之ヲ提出ス可シ若シ當事者カ未ダ提出セサル原本ノ真正ニ付キ一致シ只其證書ノ效力又ハ解釋ニ付テノミ爭テ爲ストキハ謄本ヲ提出スルヲ以テ足ル然レトモ裁判所ハ職權ヲ以テ舉證者ニ原本ノ提出ヲ命スルコトヲ得
提出シタル謄本ニ換ヘテ正本又ハ原本ヲ提出ス可キ旨ノ命ニ從ハサルトキハ裁判所ハ心證ヲ以テ謄本ニ如何ナル證據力ヲ付ス可キヤヲ裁判ス

〔註〕提出シタル證書ノ眞否ニ付キ爭アルトキハ證書ノ性質如何ニ因リ之カ區別ヲ爲ササルヲ得ス而シテ提出シタル證書カ公正證書ナルトキハ相手方ニ於テ其眞正ナルコトヲ認ムルト否トニ拘ハラズ完全ノ證據ヲ爲ス之ニ反シテ提出シタル證書カ私署證書ニシテ其眞否即チ舉證者カ主張スル所ノ者ヨリ差出シタル證書ナルヤ否ヤニ付キ爭アルトキハ該證書ハ相手方ニ對シ證據ノ效力ヲ有スルモノニ非ス故ニ舉證者ニ於テ其證書ヲ利用セント欲セハ之カ眞實ナルコトヲ立證セサルヲ得サルヲ以テ舉證者ハ其證書ノ眞否如何ヲ定メシコトノ申立即チ檢眞ノ申立ヲ爲スヲ得ルナリ

第三百五十條 舉證者ハ證書ヲ提出シタル後ハ相手方ノ承諾

ヲ得ルトキニ限リ此證據方法ヲ拋棄スルコトヲ得
第三百五十一條 公正證書又ハ檢眞ヲ經タル私署證書ヲ偽造
 若クハ變造ナリト主張スル者ハ其證書ノ眞否ヲ確定セシコ
 トノ申立ヲ爲ス可シ
 此場合ニ於テハ裁判所ハ其證書ノ眞否ニ付キ中間判決ヲ以
 テ裁判ヲ爲ス可シ

第三百五十二條 私署證書ノ眞否ニ付キ爭アルトキハ裁判所
 ハ舉證者ノ申立ニ因リ檢眞ヲ爲スコトヲ得

第三百五十三條 私署證書ノ檢眞ハ總テノ證據方法及ヒ手跡
 若クハ印章ノ對照ニ因リテ之ヲ爲ス
 證書ノ眞否ヲ證セントスル當事者ハ裁判所ノ定ムル期間内
 ニ手跡若クハ印章ヲ對照スル爲ニ適當ナル書類ヲ提出スヘ
 シ
 眞正ナリトノ自白又ハ證明シタル適當ノ對照書類ナキトキ
 ハ對照ノ爲メ原告若クハ被告ニ對シ裁判所ニ於テ一定ノ語

辭ノ手記ヲ命スルコトヲ得其手記シタル語辭ハ調書ノ附録
 トシテ之ニ添附ス可シ
 裁判所ハ手跡若クハ印章ヲ對照シタル結果ニ付キ自由ナル
 心證ヲ以テ裁判ヲ爲シ又必要ナル場合ニ於テハ鑑定ヲ爲サ
 シメタル後之ヲ爲ス
 原告若クハ被告カ裁判所ノ定メタル期間内ニ對照書類ヲ提
 出セサルトキ又ハ對照ス可キ語辭ヲ手記ス可キ裁判所ノ命
 ニ對シ十分ナル辯解ヲ爲サスシテ之ニ從ハサルトキ又ハ書
 様ヲ變シテ手記シタルトキハ證書ノ眞否ニ付テノ相手方ノ
 主張ハ其他ノ證據ヲ要セスシテ之ヲ眞正ナリト看做スコト
 ナ得

〔註〕檢眞ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ總テノ證據方法及ヒ手跡印影ノ對照若クハ職權
 上鑑定ヲ爲サシメ以テ之ヲ定ムルコトヲ得ルナリ舉證者ヨリ確實ナル對照書類ヲ提出ス
 ルコトヲ得サルトキハ裁判所ハ相手方ナシテ裁判所ニ於テ一定ノ語辭ヲ筆記セシメ以テ
 對照ノ用ニ供スルコトヲ得ルナリ

對照書類ハ自ラ之ヲ所持スルコトアリ或ハ相手方又ハ第三者若クハ官廳等カ之ヲ所持ス

ルコトアリ此場合ニ於テハ證書カ第三者若クハ相手方ノ手ニ存スルトキハ同一ノ規定ニ依リ之ヲ提出セシムルコトヲ得而シテ相手方ニ於テ該對照書類ノ提出ヲ爲サス又ハ裁判所ノ命ニ依リ筆記ヲ爲スコトヲ肯セス若クハ書様ヲ變シテ書シタルカ如キ場合ニ於テハ證書ノ眞否ニ付テハ相手方ノ申立ヲ眞正ト看做スコトヲ得ルナリ

第三百五十四條

提出シタル證書ハ直チニ之ヲ還付シ又適當

ナル場合ニ於テハ其謄本ヲ記録ニ留メテ之ヲ還付ス可シ

然レトモ證書ノ偽造又ハ變造ナリト争フトキハ檢事ノ意見

ヲ聽キタル後ニ非サレハ之ヲ還付スルコトヲ得ス

〔註〕檢眞ヲ經タル私署證書若クハ公正證書ニ對シテハ更ニ偽造又ハ變造ノ申立ヲ爲スコトヲ得ルナリ故ニ偽造又ハ變造ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ中間判決ヲ以テ偽造又ハ變造ナルヲ定メサルヘカラス

右ノ證書カ刑法ニ觸ルルコトアル情實アルトキハ該證書ハ檢事ノ意見ヲ聽キタル後ニ非サレハ之ヲ差出人ニ還付スルコトヲ得ス

第三百五十五條

公正證書ノ偽造若クハ變造ナルコトヲ眞實

ニ反キテ主張シタル原告若クハ被告ニ惡意若クハ重過失ノ

責アルトキハ五十圓以下ノ過料ヲ言渡ス

又私署證書ノ眞正ナルコトヲ眞實ニ反キテ争フトキハ前項ト同一ナル條件ヲ以テ二十圓以下ノ過料ヲ言渡ス

〔註〕公正證書ニ對シ眞實ニ反キ故意又ハ重過失ニ因リ偽造若クハ變造ノ申立ヲ爲シタル者ニ對シテハ五十圓以下ノ過料ニ處スルノ言渡ヲ爲スコトヲ得又私署證書ニ對シ同一ノ條件ニ依リ同様ノ申立ヲ爲シタル者ニ對シテハ二十圓以下ノ過料ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ルナリ

第三百五十六條

本節ノ規定ハ事件ノ性質ニ於テ許ス限リハ

事跡ノ紀念又ハ權利ノ證徴ノ爲メ作リタル割符、界標等ノ如

キモノニモ之ヲ準用ス

〔註〕本節ニ規定スル條項ハ單ニ書證ノミニ適用スルニ非スシテ事件ノ性質ニ於テ證據ト爲シ得ル丈ハ事跡ノ紀念即チ既往ノ事柄ヲ後日ニ存スルコト又ハ權利ノ證徴即チ權利ノアル所ヲ明確ナラシムル爲メ作リタル割符、界標等ノ如キモノニモ之ヲ準用スルモノトス

第九節 檢證

檢證トハ事物即チ證據トナルモノヲ檢閱スルヲ云フ彼ノ目ヲ以テ物ヲ見以テ其ノ形狀又ハ實體ヲ確ムルカ如キ是レナリ然レトモ敢テ目ヲ以テ事物ヲ見ルノミニ限ラスシテ總テ

五感ノ働ニ依リ事物ノ形狀等ヲ確ムルコトモ亦檢證中ニ包含ス

檢證ハ單ニ當事者ノ申出ニ因リテノミ之ヲ爲シ得ヘキモノニ非スシテ裁判所ハ職權上之ヲ爲スコトヲ得ルナリ

檢證ノ場合ハ少ナカラス例ヘハ土地ノ經界ヲ爭フニ當リ被告カ原告ノ主張スル經界ノ場所ヲ爭フトキハ之ヲ檢證スルコトヲ得ルナリ又損害賠償ノ訴ニ於テ其損害ノ原因タル隣家牆壁ノ破壊ノ多少ニ付キ爭アルトキハ其破壊ノ多少ヲ檢證スルヲ得ルナリ又賣買契約ヲ爲シタル後チ代價支拂ノ請求ヲ爲シテ其賣買シタル品物ハ見本ト同一ニ非サルコトヲ主張シテ代價ノ支拂ヲ拒ムトキハ其賣買シタル品物ト見本ヲ檢證スルヲ得ルナリ

第三百五十七條 檢證ノ申出ハ檢證物ヲ表示シ及ヒ證ス可キ事實ヲ開示シテ之ヲ爲ス

第三百五十八條 受訴裁判所ハ檢證ヲ爲スニ際シ鑑定人ノ立會ヲ命スルコトヲ得

受訴裁判所ハ檢證及ヒ鑑定人ノ任命ヲ其部員一名ニ命シ又ハ區裁判所ニ囑託スルコトヲ得

第三百五十九條 檢證ヲ爲ス際發見シタル事項ハ調書ニ記載シテ之ヲ明確ナラシメ又必要ナル場合ニ於テハ調書ノ附録

トシテ添附ス可キ圖面ヲ作り之ヲ明確ナラシム可シ
若シ既ニ記錄ニ圖面ノ存スルトキハ之ヲ檢證物ニ對照シ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ更正ス可シ

〔註〕檢證ノ申出ヲ爲スニハ檢證スヘキ事物及ヒ檢證ニ依リ證セントスル事實ヲ表示スヘキモノトス而シテ裁判所ニ於テ檢證ヲ爲スコトヲ決定シタルトキハ裁判所自ラ之ヲ爲シ若クハ受託判事又ハ受命判事ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得ルナリ
檢證ニ付テハ別段ニ調書ヲ製シ檢證ノ際發見シタル事項ヲ掲ケ又必要ナル場合ニ於テハ圖面ヲ作り之ヲ調書ニ添付シ又已ニ圖面ヲ存スル場合ニ於テハ檢證物ト對照シテ更正ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

第十節 當事者本人ノ訊問

〔註〕當事者本人ノ訊問ニ二種アリ一ハ事件關係ヲ明ニスル爲メ爲ス所ノ本人訊問一ハ證據方法トシテ爲ス所ノ本人訊問是レナリ
事件ノ關係ヲ明了ナラシムル爲メ爲ス所ノ本人訊問ハ第百十四條ノ規定スル所ナリ之ニ反シ證據方法トシテ爲ス所ノ本人訊問ハ第三百六十條以下ニ規定スル所ナリ而シテ本節ニ説明スル所ノ本人訊問ハ總テ證據方法トシテ爲ス所ノ本人訊問ニ關スル規定ナリ
證據方法トシテ爲ス所ノ本人訊問ハ其目的タルヤ當事者ノ自白ヲ得ルニ在リ而シテ自白

ハ一ノ證據ト認ムヘキモノナルヤ否ヤハ立法上ノ問題ニ屬ス然レトモ我舊民法ハ證據編ニ於テ自白ヲ以テ一ノ證據ト爲シタルハ訴訟法ニ於テモ亦其證據調ニ關スル手續ヲ規定セサルヲ得ス是レ即チ本節ニ於テ本人訊問ノ規定ヲ設ケタル所以ナランカ

自白ニ二種アリ裁判外ノ自白及ヒ裁判上ノ自白是レナリ而シテ其裁判上ノ自白中自發ニ因ルモノアリ審問ニ因リ生スルモノアリ自發ノ自白トハ口頭辯論ノ際ニ於テ當事者ノ一方方他ヨリ訊問ヲ受ケスシテ自ラ爲スモノヲ云フ之ニ反シテ審問ニ因リ生スル自白トハ訊問ノ結果生スル所ノ自白ナリ故ニ本節ニ規定スル所ノ本人訊問ハ即チ訊問ニ因リ生スル自白ヲ得ントスルニ在ルモノナリ

自白タルヤ相手方ニ於テ主張シタル事實ニシテ己レニ不利ナル結果ヲ生シ得ヘキモノニ對シテ爲スモノナラサルヘカラス之ニ反シ自ラ主張スル所ノ事實ニ付テハ全ク一ノ主張タルニ過キスシテ之ヲ自白ト爲シ以テ相手方ノ證據ト爲スヲ得ス故ニ本人訊問モ亦相手方ノ主張スル事實ニ對シ一方ノ當事者ヲ訊問スルモノナラサルヘカラス若シ夫レ然ラスシテ被告ノ主張ヲ證スル爲メ被告本人ヲ訊問シ若クハ原告ノ主張スル事實ヲ證スル爲メ原告本人ヲ訊問スルカ如キハ本節ニ於テ所謂證據トシテ規定シタル本人訊問ト云フヲ得ス例ヘハ原告ニ於テ賣買契約ヲ爲シタルモノナリト主張スルニ當リ其事實ヲ證スル爲メ原告即チ主張者ノ本人ヲ訊問スルモ之ヲ以テ本節ニ所謂當事者本人ノ訊問ト云フヲ得サルナリ

本人訊問ハ之ニ因リテ裁判上ノ自白ヲ求ムル爲メ當事者本人ヲ訊問スヘキモノナルモ訴訟無能力者カ法律上ノ代理人ニ依リ訴訟ヲ爲ストキノ如キハ場合ニ因リ本人ノ訊問ヲ爲スコト能ハサルコトアリ例ヘハ會社財團等ニシテ法人トシテ訴訟ヲ爲ス場合ニ於テハ其本人ヲ訊問スルヲ得ス癡癩白痴者カ後見人ニ依リ訴訟ヲ爲ス場合ニ於テモ亦同一ナリ之ニ反シ有夫ノ婦カ其法律上代理人タル夫ニ依リ訴訟ヲ爲スカ如キ場合ニ於テハ其本人ヲ訊問スルコトヲ得故ニ右等ノ場合ニ於テハ其事情ニ隨ヒ或ハ本人ヲ訊問スルカ又ハ法律上代理人ノミヲ訊問スヘキカ又ハ本人及ヒ法律上代理人ヲ訊問スヘキカハ裁判所ノ意見ニ依リ之ヲ定ムヘキモノトス

第三百六十條

當事者ノ提出シタル許ス可キ證據ヲ調ヘタル結果ニ因リ證ス可キ事實ノ眞否ニ付キ裁判所カ心證ヲ得ルニ足ラサルトキハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ原告若クハ被告ノ本人ヲ訊問スルコトヲ得

〔註〕本人訊問ニ關スル規定中ニハ證據調ノ總則及ヒ訴訟法ノ原則ニ對スル取除ノモノアリ即チ例セハ左ノ如シ

凡ソ民事訴訟法ニ於テハ放任主義ヲ以テ其原則トス故ニ證據調ノ如キモ亦當事者ノ申立若クハ提出ヲ待テ初メテ之ヲ爲スモノニシテ婚姻事件養子縁組事件等ニ於ケルカ如ク特

別ノ場合ニ非サレハ當事者ノ申立ナクシテ證據調ヲ爲メカ如キコトアルコトナシ然ルニ
本人訊問ニ付テハ敢テ當事者ノ申立ヲ待タス裁判所ハ職權上本人訊問ヲ爲スコトヲ得ル
ナリ

又證據調ノ順序ハ訴訟法ニ於テ別ニ之カ規定ナキヲ以テ當事者ニ於テ自己ニ利益アリ若
クハ必要ナリト認メタルトキハ多數ノ證據方法ヲ同時ニ提出スルヲ得ルナリ然レトモ本
人訊問ニ付テハ然ラス當事者ヨリ申出タル適法ナル證據調ヲ爲シタル後チ尙ホ裁判所ニ
於テ事實ノ眞否ニ付キ心證ヲ得ル能ハサルトキニ於テノミ本人訊問ヲ爲スコトヲ得ルナ
リ

第三百六十一條

裁判所ハ原告若クハ被告ヲ訊問スルコトヲ
決定シ且原告若クハ被告ノ自身カ決定言渡ノ際在廷スルト
キハ直チニ其訊問ヲ爲スヲ以テ通例トス

〔註〕第二百七十四條ノ規定ニ依レハ裁判所カ證據決定ヲ以テ證據調ヲ命スルハ當事者ノ
演述ニ引續キ直チニ證據調ヲ爲スヲ得スシテ新时期日ヲ定メ或ハ受訴裁判所ニ於テ或ハ受
命判事若クハ受託判事ノ面前ニ於テ之ヲ爲スヘキ時ニ限ル故ニ當事者ノ演述ニ引續キ直
チニ證據調ヲ爲ストキハ別ニ證據決定ヲ爲サスシテ直チニ證據調ヲ爲スヘク又當事者カ
證人ヲ同伴シテ出廷ノ上人證ノ申出ヲ爲シタルカ如キ場合ニ在リテハ別ニ證據決定ヲ爲

サスシテ直チニ證人ノ訊問ヲ爲スヘシ之ニ反シテ本人訊問ニ付テハ假令ヒ其本人カ在廷
スル場合ト雖モ先ツ證據決定ヲ以テ證人訊問ヲ許スヘキモノナルヤ否ヤヲ決定シ然ル後
チ其本人ヲ訊問スルコトヲ得ルナリ

第三百六十二條

訊問ヲ受クル原告若クハ被告ハ供述ニ換ヘ
テ書類ヲ朗讀シ其他覺書ヲ用ヰルコトヲ得ス但算數ノ關係
ニ限リ覺書ヲ用ヰルコトヲ得

〔註〕訊問ヲ受クル原告若クハ被告ハ必ス口頭ニテ其ノ訊問ニ應答セサルヘカラス故ニ供
述ニ換ヘテ書類ヲ朗讀シ其他覺書ヲ用ヰルコトヲ得ス然レトモ算數ノ關係ハ本人ニ於テ
モ記憶スルコト難ク隨テ誤謬アルヲ恐レ覺書ヲ以テ供述ニ換フルコトヲ得ルモノトス

第三百六十三條

原告若クハ被告カ十分ナル理由ナクシテ供
述スルコトヲ拒ミ又ハ訊問期日ニ出頭セサルトキハ裁判所
ハ其意見ヲ以テ訊問ニ因リテ舉證ス可キ相手方ノ主張ヲ正
當ナリト認ムルコトヲ得

〔註〕本人ノ訊問ヲ爲スニ當リ當事者カ正當ノ理由ナクシテ陳述ヲ拒ミ若クハ其訊問期日
ニ出頭セサルトキハ裁判所ハ自由ナル意見ニ依リ訊問セントスル相手方ノ主張ヲ正當ト
認ムルコトヲ得ルナリ

第三百六十四條 訴訟無能力者ノ法律上代理人カ訴訟ヲ爲ストキハ法律上代理人若クハ訴訟無能力者ヲ訊問ス可キヤ又ハ此等ノ者ヲ共ニ訊問ス可キヤ裁判所ノ意見ヲ以テ之ヲ決定ス

法律上代理人アルトキハ其一人ヲ訊問ス可キヤ又ハ數人ヲ訊問ス可キヤモ亦前項ニ同シ

〔註〕法律上代理人カ訴訟ヲ爲ストキハ其代理人若クハ無能力者ヲ訊問スヘキヤ此等ノ者ヲ共ニ訊問スヘキヤハ裁判所ノ意見ヲ以テ之ヲ決定スヘキヤハ前ニ述ヘタルカ如シ又法律上代理人ノ數人アル場合即チ商法第四百二十二條ニ從ヒ數人ノ業務擔當社員若クハ取締役ニ於テ共同シテ訴訟ヲ爲シタルカ如キ場合ニ在リテハ本人訊問ノ爲メ其内一人ヲ訊問スヘキヤ又ハ數人ヲ訊問スヘキヤハ是レ亦裁判所ノ意見ニ依ルヘキモノトス

第十一節 證據保全

第三百六十五條 證據ヲ紛失スル恐アリ又ハ之ヲ使用シ難キ恐アルトキハ證據保全ノ爲メ證人若クハ鑑定人ノ訊問又ハ檢證ヲ申立ツルコトヲ得

〔註〕證據保全トハ訴訟上利用セントスルトキハ證據ノ湮滅ヲ防ク爲メ豫メ其證據調ヲ爲

スヲ云フ例ヘハ後日訴訟ヲ起サントシ若クハ訴訟ト爲ラントスル恐アル事柄ニ付キ利用セントスル所ノ檢證物、證人、鑑定人ハ現時其證據調ヲ爲スニ非サレハ後ニ之ヲ爲ス能ハサルカ又ハ之ヲ爲スコト甚タ困難ナルトキ例ヘハ檢證物ノ形体ヲ變スルモノナルトキ證人若クハ鑑定人ノ死亡センコトヲ恐ルルカ如キ場合ニ於テ未タ訴訟ヲ起ササル前又ハ己ニ起シタル訴訟ニ付キ未タ證據調ヲ爲スヘキ程度ニ至ラサル前ニ於テ豫メ其證據調ヲ爲スコトヲ得又證據ヲ紛失シ若クハ之ヲ使用シ難キ恐ナキ時ト雖モ相手方ノ承諾アルトキハ豫メ其證據調ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ

第三百六十六條 訴訟カ既ニ繫屬シタルトキハ此申請ハ受訴裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

切迫ナル危險ノ場合ニ於テハ訊問ヲ受ク可キ者ノ現在地又ハ檢證ス可キ物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ申請ヲ爲スコトヲ得

訴訟ノ未タ繫屬セサルトキハ前項ニ記載シタル區裁判所ニ申請ヲ爲スコトヲ要ス

右申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

〔註〕訴訟カ既ニ繫屬シタル即チ裁判ニ着手シタル後ニ於テ豫メ證據調ヲ爲スノ必要ヲ生

シタルカ爲メ證據保全ヲ爲サントスルニハ其受訴裁判所ニ之カ申請ヲ爲スヘク又未タ訴
訟カ繫屬セサルトキハ訊問ヲ受クヘキ證人若クハ鑑定人ノ現在地若クハ檢證ニヘキ物件
ノ所在地ヲ管轄スル所ノ區裁判所ニ其申請ヲ爲ササルヘカラス又訴訟カ既ニ繫屬シタル
トキト雖モ急迫ナル場合即チ急速ニ證據調ヲ爲スニ非サレハ證據ヲ紛失シ若クハ之ヲ使
用スルコト能ハサルニ至ルノ恐アル場合ニ於テハ右ノ區裁判所ニ其申請ヲ爲スコトヲ得
ルモノトス

第三百六十七條

申請ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 相手方ノ表示

第二 證據調ヲ爲ス可キ事實ノ表示

第三 證據方法殊ニ證人若クハ鑑定人ニ訊問ヲ爲ス可キ
トキハ其表示

第四 證據ヲ紛失スル恐アリ又ハ之ヲ使用シ難キ恐アル
理由此理由ハ之ヲ説明ス可シ

〔註〕證據保全ノ申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得但シ口頭ヲ以テ其申請ヲ爲
ストキハ之ヲ調書ニ記載シテ明確ニスヘキモノトス而シテ證據保全ノ申請ヲ爲スニハ本
條第一號ヨリ第四號ニ至ルノ事項ヲ具備スルコトヲ要ス

右四個ノ條件ヲ具備スルヲ要スレトモ然レトモ申請人ニ於テ其申請ノ當時相手方ヲ表示
スル能ハサル場合アリ例ヘハ相手方カ死亡シ未タ其相續人ノ何人ナルヤヲ知ル能ハサル
カ如キ場合ニ於テ急ニ證據保全ヲ爲スノ必要アルトキハ申請人ニ於テ自己ノ過失ニ非ス
シテ相手方ヲ指名スルコト能ハサルコトヲ説明スルトキハ假令相手方ノ指名ナキトキト
雖モ其申請ヲ有效トス

又證據方法トシテ證人若クハ鑑定人ノ訊問若クハ檢證ヲ求ムルトキハ其證人若クハ鑑定
人及ヒ檢證物ノ表示ヲ要シ又證據紛失ノ恐若クハ使用シ難キニ至ル恐アル理由ハ之ヲ疏
明セサルヘカラス又相手方ノ承諾ヲ得テ證據保全ノ申請ヲ爲ストキハ本條第四號ノ事項
ヲ必要トセサルヘカラス

第三百六十八條

申請ニ付テノ決定ハ口頭辯論ヲ經スシテ之
ヲ爲スコトヲ得

申請ヲ許容スル決定ニハ證據調ヲ爲ス可キ事實及ヒ證據方
法殊ニ訊問ス可キ證人若クハ鑑定人ノ氏名ヲ記載ス可シ此
決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得

〔註〕證據保全ノ申請アリタルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ證據保全ヲ許スヘキヤ否ヤヲ定
ム但口頭辯論ヲ經ルコトヲ要セス而シテ此ノ決定ニハ證據決定ニ於ケルカ如ク證據方法
◎第二編第一審ノ訴訟手續 第一章地方裁判所ノ訴訟手續

證スヘキ事項、證人若クハ鑑定人ノ氏名ヲ記載スヘク此ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百六十九條 證據調ノ期日ニハ申立人ヲ呼出シ又決定及ヒ申請ノ謄本ヲ送達シテ其權利防衛ノ爲ニ相手方ヲモ呼出ス可シ

切迫ナル危險ノ場合ニ於テハ適當ナル時間ニ相手方ヲ呼出スコトヲ得カリシトキト雖モ證據調ヲ妨クルコト無シ

〔註〕申立人ハ勿論其相手方ニハ證據保全ノ決定書及ヒ申請書ノ謄本ヲ送達シテ證據調ノ期日ニ之ヲ呼出シ以テ相手方ヲシテ其權利ヲ防禦スルノ途ヲ得セシムヘシ
若シ相手方ノ知レサル場合ニ於テハ裁判所ハ臨時代理人ヲ命スルコトヲ得ルナリ此ノ場合ニ於テハ決定及ヒ申請ノ謄本ハ之ヲ其代理人ニ送達シ證據調ノ期日ニ之ヲ呼出スヘシ但シ急迫ナル場合ニ於テ相手方ヲ呼出スコト能ハス若シクハ代理人ヲ命スルコトヲ得サルトキハ相手方ノ出頭ナキモ之カ爲メ證據調ヲ爲スコトヲ妨ケサルナリ

第三百七十條 證據調ハ本章第六節、第七節及ヒ第九節ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス
證據調ノ調書ハ證據調ヲ命シタル裁判所ニ之ヲ保存ス可シ

各當事者ハ證據調ノ調書ヲ訴訟ニ於テ使用スル權利アリ
受訴裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ再度ノ證據調ヲ命シ又ハ既ニ調ヘタル證據ノ補充ヲ命スルコトヲ得

〔註〕證據調ハ一般ノ證據調ニ適用スヘキ規定ニ依リ之ヲ爲ス即チ本章第六節第七節第八節及ヒ第九節ノ規定ニ從フヘシ其調書ハ證據調ヲシタル裁判所ニ保存シ當事者ハ訴訟ニ於テ之ヲ利用スルノ權利ヲ有ス但必要ナル場合ニ於テハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ再度ノ證據調ヲ命シ又ハ己ニ調ヘタル證據ノ補充ヲ命スルコトヲ得ルモノトス

第三百七十一條 證據調ハ第三百六十五條ノ條件ナキトキト雖モ相手方ノ承諾ニ因リ之ヲ許スコトヲ得

第三百七十二條 申立人カ相手方ヲ指定セサルトキハ申立人自己ノ過失ニ非スシテ相手方ヲ指定シ能ハサルコトヲ疏明スル場合ニ限リ其申請ヲ許ス
申請ヲ許容シタルトキハ裁判所ハ其知レサル相手方ノ權利防衛ノ爲ニ臨時代理人ヲ任スルコトヲ得

〔註〕申立人ハ相手方ヲ指定スヘキモノナレトモ其ノ申立人ニ於テ自己ノ過失ニ非スシテ

相手方ヲ指定スルコト能ハカリシコトヲ疏明スルトキハ其申請ヲ許スヘキモノトス而シテ其申請ヲ許容シタルトキハ裁判所ハ其知レサル相手方ノ權利ヲ防衛スル爲メニ臨時代理人ヲ命スルコトヲ得ルモノトス是レ裁判所カ申請人ノミヲ保護セズ相手方ヲモ保護スル所以ナリ

第二章 區裁判所ノ訴訟手續

第一節 通常ノ訴訟手續

〔註〕區裁判所モ亦第一審裁判所ナルヲ以テ區裁判所ニ於ケルモ地方裁判所ニ於ケルモ第一審裁判ヲ爲スノ手續ニ付テハ敢テ異ナルヘキモノニ非ス然レトモ裁判所構成法ノ規定ニ依レハ事物ノ管轄ノ點ニ付キ自ラ之カ區別ヲ設ケラレタリ是ヲ以テ區裁判所ニ於ケル第一審ノ訴訟手續ニ關シテハ地方裁判所ニ於ケル第一審ノ訴訟手續ト多少ノ差違ヲ免レヌ而シテ本章ニ於テハ其差異ノ規定ノミヲ掲ケタルモノニシテ其他ノ手續ニ付テハ總テ地方裁判所ニ於ケル第一審ノ訴訟手續ニ依ルヘキモノトス但シ第一編ニ於テ明文アルモノヲ若クハ裁判所構成法ノ規程上區裁判所ニ適用スルヲ得サル規定ハ勿論之ヲ適用スルノ限ニ在ラス

區裁判所ニ於ケル第一審裁判ニ特殊ノ手續ヲ生シタルハ左ノ原因ニ由ルナリ

第一 區裁判所ノ構成ハ地方裁判所ノ構成ト異ナルコト

第二 區裁判所ニ於ケル訴訟手續ヲ簡易トスル立法者ノ企望

蓋シ區裁判所ニ屬スル事件ハ或ハ少額ノモノアリ簡單ノモノアリ急速ヲ要スルモノアリ是ヲ以テ其訴訟手續モ亦之ヲ簡易ト爲スノ必要ヲ生スルニ至リタルモノナリ

區裁判所ノ構成ヨリ生スル差異ハ左ノ如シ
區裁判所ハ地方裁判所ト異ナリ單獨判事ヲ以テ裁判ヲ爲スモノナリ故ニ區裁判所ノ判事ニ對シ當事者ヨリ忌避ノ申立ヲ爲ストキハ其區裁判所ノ上級地方裁判所之ヲ裁判スルノ外ナシ

又辯論調書ニハ裁判長及ヒ書記署名捺印スヘク而シテ裁判長差支アルトキハ官等最高キ陪席判事之ニ署名捺印スヘキモノナルコトハ第三百三十二條ノ規定スル所ナリ然レトモ區裁判所判事差支アルトキハ他ニ判事アラサルヲ以テ書記ノ署名捺印ノミヲ以テ足ルモノトス(第三百三十二條第二項)

訴訟手續ヲ簡易ナラシメントノ企望ヨリ生スル差異ハ左ノ如シ

第一 訴ノ提起ハ地方裁判所ニ於ケル手續ニ依ルノ外尙ホ左ノ方法ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得ルナリ

(イ)口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得○即チ原告ハ區裁判所ニ出頭シテ其訴ノ原因一定ノ申立當事者及ヒ裁判所ノ表示ヲ口頭ニテ陳述シ書記ヲシテ之ヲ調書ニ記載セシメ而シテ其調書ヲ作りタル後チ訴訟費用印紙法ニ因リ之ニ印紙ノ貼用ヲ爲シタルトキ

◎第二編第一審ノ訴訟手續 第二章區裁判所ノ訴訟手續

ハ訴ハ之ニ依リ提起セラレタルモノトス但書記ハ其調書ノ謄本ヲ作り之ヲ相手方ニ送達スルヲ要ス

(ロ) 區裁判所ノ通常ノ裁判日ニ當事者双方出頭シ訴訟ニ付キ辯論ヲ爲ストキハ原告ニ於テ口頭ノ陳述ヲ爲スヲ以テ訴ノ提起アリタルモノトス

此ノ如ク當事者双方カ合意上區裁判所ニ出頭シテ訴訟ヲ爲スハ訴ノ如何ナル程度ニ於ケルモ之ヲ爲スコトヲ得ルナリ例ヘハ初メ口頭ヲ以テ訴ノ提起ヲ爲シ而シテ其辯論ノ延期セラレタル場合ニ於テ未タ辯論期日ノ至ラサル前當事者双方出頭シテ辯論ノ續行ヲ爲スコトヲ得ルナリ

又當事者双方合意上區裁判所ニ出頭シテ訴ノ提起ヲ爲シタル場合ニハ敢テ調書ヲ以テ之ヲ明確ニスルノ必要ナキモノトスルカ故ニ當事者ノ陳述ヲ以テ訴ノ提起ヲ爲シタル後チ一方ノ當事者退席シ若クハ辯論ノ延期ノ場合ニ於テ其期日ニ當事者一方ノ缺席スルコトアルモ之ニ對シ缺席判決ヲナスコトヲ得サルヘシ

第三百七十三條 區裁判所ノ通常ノ訴訟手續ニ付テハ區裁判所ノ構成又ハ第一編及ヒ本節ノ規定ニ依リ差異ノ生セサル限リハ地方裁判所ノ訴訟手續ニ付テノ規定ヲ適用ス

第三百七十四條 訴ハ書面又ハ口頭ヲ以テ裁判所ニ之ヲ爲ス

コトヲ得

[註]右二條ハ以上ニ陳ヘタル意義ニテ自カラ明カナレハ之ヲ略ス

第三百七十五條 起訴アリタルトキハ裁判所書記ハ訴狀ヲ被告ニ送達スル手續ヲ爲ス

準備書面ノ交換ハ之ヲ爲スコトヲ要セス

第三百七十六條 原告若クハ被告ハ其申立及ヒ事實上ノ主張ニシテ豫メ通知スルニ非サレハ相手方ニ於テ之ニ對シ陳述ヲ爲シ得ヘカラサルモノヲ口頭辯論ノ前直接ニ相手方ニ通知スルコトヲ得

[註]既ニ原告カ起訴シタルトキハ裁判所書記ハ其訴狀ヲ被告ニ送達スル手續ヲ爲スヘシ之カ送達ヲ爲ササレハ權利ヲ拘束スルコトヲ得ス被告ハ此ノ送達ニ接シテ初メテ權利拘束ヲ受クルモノナリ

然ルニ準備書面ノ交換ハ之ヲ必要トセス故ニ當事者ニ於テ其書面ノ交換ヲ爲ササルモ爲メニ不利益ノ結果ヲ受クルコトナシ然レトモ當事者カ豫メ相手方ニ通知スルニ非サレハ相手方ハ之ニ對シ陳述ヲ爲ス能ハスト認メタル事柄ハ書面ニ認メ若クハ調書ニ記載セシメ之ヲ送達スルコトヲ得ルナリ又當事者ハ之ヲ送達ノ方法ニ依ラスシテ單純ナル書面、

使ヒ若クハ口頭ヲ以テ相手方ニ通知スルコトヲ得ルモノトス

第三百七十七條

口頭辯論ノ期日ト訴狀送達トノ間ニ少ナクトモ三日ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス急迫ナル場合ニ於テハ此時間ヲ二十四時マテニ短縮スルコトヲ得
送達ヲ外國ニ於テ爲ス可キトキハ事情ニ應シテ時間ヲ定ムヘシ

〔註〕口頭辯論ノ期日ト訴狀送達トノ間ハ三日ノ期間ヲ存スルヲ最短期トス然レトモ急迫ナル場合ニ於テハ其期間ヲ二十四時間マテニ短縮スルコトヲ得ルナリ又外國ニ送達ヲ爲スヘキトキハ情況ニ從ヒ適宜ニ其期間ヲ定ムルモノトス但シ公示送達ニ付テハ第五百十八條ヲ適用ス

第三百七十八條

當事者ハ通常ノ裁判日ニ於テハ豫メ期日ノ指定ナクシテ裁判所ニ出頭シ訴訟ニ付キ辯論ヲ爲スコトヲ得

此場合ニ於テ訴ノ提起ハ口頭ノ演述ヲ以テ之ヲ爲ス

〔註〕通常ノ裁判日トハ日曜日大祭祝日等ノ休暇日ヲ除キタル日ヲ云フ此ノ通常ノ日ハ前

以テ期日ノ定メナシト雖モ裁判所ニ出頭シテ訴ヲ起シ口頭辯論ヲ爲スコトヲ得ルナリ而シテ此ノ場合ニハ書面ヲ以テ訴ヲ提起セスシテ口頭ノ演述ヲ以テ之ヲ爲スモノトス

第三百七十九條

數箇ノ妨訴ノ抗辯ヲ本案ノ辯論前同時ニ提出ス可キ規定ハ裁判所管轄違ノ抗辯ニ限リ之ヲ適用ス
被告ハ妨訴ノ抗辯ニ基キ本案ノ辯論ヲ拒ム權利ナシ然レトモ裁判所ハ職權ヲ以テ右抗辯ニ付キ分離シタル辯論ヲ命スルコトヲ得

〔註〕妨訴ノ抗辯ハ數多アル場合ト雖モ同時ニ之ヲ提出スルコトヲ必要トセス又其ノ抗辯ハ本案ニ付テノ辯論前之ヲ提出スルヲ必要トセス然レトモ裁判所管轄違ノ抗辯ニ付テハ此限ニ在ラス何トナレハ被告カ其抗辯ヲ爲サスシテ本案ニ付キ辯論ヲ爲シタルトキハ專屬管轄ノ規定ナキ以上ハ之ニ依リ管轄ノ合意アリタルモノト認ムヘキヲ以テナリ但シ裁判所ニ於テハ妨訴抗辯ニ付キ分離シタル辯論ヲ命スルコトヲ得ルナリ

第三百八十條

第二百二十二條、第二百六十六條乃至第二百七十二條ノ規定ハ區裁判ノ訴訟手續ニ之ヲ適用セス
然レトモ原告若クハ被告ノ申立及ヒ陳述ハ裁判所ノ意見ニ從ヒ訴訟關係ヲ十分ニ明確ナラシムル爲メ必要ナルモノニ

限リ調書ヲ以テ之ヲ明確ナラシム可シ

〔註〕區裁判所カ事物ノ管轄違ナリトシテ訴ヲ却下スル場合ニ於テ之ヲ所屬地方裁判所ニ移送スルコトニ付キテハ第九條第二項ニ規定スル所ノ如シ又準備書面ヲ要セサルニ因リ判決ヲ受クヘキ事項ノ申立ニ付テモ亦第二百二十二條第二百二十六條乃至第二百七十二條ノ規定ヲ適用スヘキモノニアラス

然レトモ當事者ノ申立及ヒ陳述ヲ十分ニ明確ナラシムル爲メ必要ナルモノニ限リ調書ヲ以テ十分ニ之ヲ明確ニスルヲ要スルナリ

第三百八十一條

訴ヲ起サントスル者ハ和解ノ爲メ請求ノ目的物ヲ開示シテ相手方ヲ其普通裁判籍ヲ有スル區裁判所ニ呼出ス可キコトヲ得其申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

當事者雙方出頭シ和解ノ調ヒタルトキハ調書ヲ以テ之ヲ明確ナラシム可シ

和解ノ調ハサルトキハ當事者雙方ノ申立ニ因リ其訴訟ニ付キ直チニ辯論ヲ爲ス此場合ニ於ケル訴ノ提起ハ口頭ノ演述

ヲ以テ之ヲ爲ス

相手方カ出頭セス又ハ和解ノ調ハサルトキハ此カ爲ニ生シタル費用ハ訴訟費用ノ一分ト看做ス

〔註〕訴訟ヲ起サントスル者ハ其訴訟カ地方裁判所ニ屬スヘキモノナルトキモ和解ノ爲メ相手方ヲ其普通裁判籍ヲ有スル區裁判所ニ呼出スコトヲ申立ツルコトヲ得ルナリ

當事者出頭ノ上和解ノ調ヒタルトキハ調書ニ記載シテ之ヲ明確ニスヘシ若シ和解ノ調ハサルトキハ裁判所ハ其争ニ付キ直チニ辯論ヲ爲サシムヘシ此場合ニ於テ訴ノ提起ハ當事者ノ口頭演述ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ直チニ本案ニ付キ辯論ヲ爲サシムルハ無訴權ノ嫌ナキトキ及ヒ合意上ノ管轄ヲ許ササル場合ニ適合セサルトキニ於テノミ爲スモノトス

和解ノ爲メ生シタル費用ハ訴訟費用ノ一分ト見做シ敗訴者ニ於テ之ヲ負擔スヘキモノトス

第二節 督促手續

〔註〕督促手續トハ一ノ特別手續ニシテ通常ノ訴訟手續ニ依ラス債權者ヲシテ債務者ニ對シ執行力アル權原ヲ有セシムルヲ目的ト爲スモノナリ

是レ普通ノ場合ニ於テ一定ノ金額ノ支拂其他代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付

ヲ爲スヘキ債務ヲ有スル者ニシテ債權者ニ對シテ其ノ義務ノ履行ヲ爲ササルハ必スシモ
債務者ニ於テ債權者ノ權利ヲ爭フカ故ニ非スシテ債務者ニ於テ怠慢ナルカ故ニ或ハ之カ
履行ヲ爲スノ資力ヲ有セサルカ若クハ其履行ノ遲延ヲ企望スルノ結果ナルコト數多ナリ
此ノ如キ場合ニ於テ債權者ハ常ニ普通訴訟手續ニ依リ執行力ヲ得サル可カラストセハ誠
ニ不必要ノ費用ヲ要スルモノト云フヘシ故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ當事者ノ利益ノ爲メ
債權者ヲシテ通常訴訟ノ手續ニ依ラスシテ其債權ニ付テノ執行力ヲ得ルニ至ラシメント
スルモノナリ

第三百八十二條

一定ノ金額ノ支拂其他ノ代替物若クハ有價
證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ目的トスル請求ニ付キ債權者ハ
通常ノ訴訟手續ニ依ラスシテ督促手續ニ依リ條件附ノ支拂
命令ヲ債務者ニ發センコトヲ申立ルコトヲ得
申請ノ旨趣ニ依レハ申請者反對給付ヲ爲スニ非サレハ其請
求ヲ主張スルコトヲ得サルトキ又ハ支拂命令ノ送達ヲ外國
ニ於テ爲シ若クハ公示送達ヲ以テ爲ス可キトキハ督促手續
ヲ許サス

〔註〕右ノ理由ニ依リ民事訴訟法上一定ノ金額ノ支拂其他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定

ノ數量ノ給付ヲ目的トスル請求權ヲ有スル債權者ハ裁判所ニ申立テ債務者ニ對シテ一ノ
條件附支拂命令ヲ發セシムルコトヲ得ルナリ即チ其命令書ニ依リ債務者ハ二週間内ニ其
ノ義務ノ履行ヲ爲スカ又ハ異議ノ申立ヲ爲スヘク然ラサレハ債務者ハ直チニ強制執行ヲ
受クルニ至ルコトアルヘシ而シテ債務者ニ於テ其期間内ニ異議ノ申立ヲ爲ストキハ債權
者ハ普通ノ訴訟手續ニ依ルノ外ナク之ニ反シ其異議ヲ申立テサルトキハ債權者ハ其命令
ニ對シテ執行命令ヲ求ムルコトヲ得ルナリ但シ右執行命令ニ對シテハ債務者ハ假執行ノ
宣言ヲ附シタル缺席判決ニ對スルカ如ク故障ノ申立ヲナスヲ得ルモノトス

右督促手續ニ依ラント欲セハ先ツ其請求カ一定ノ金額ノ支拂其他ノ代替物若クハ有價證
券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ目的トスルモノナラサルヘカラス而シテ其ノ如何ナル原因ニ基
シモノナルヤハ問フ所ニアラス例ヘハ契約、不當ノ利得若クハ遺言ニ基シキト雖モ常ニ
督促手續ニ依ルコトヲ得ルナリ然レトモ其請求ニシテ反對給付ヲ條件トスルモノ若クハ
外國ニ送達ヲ爲スヘキモノナルトキ又ハ公示送達ヲ要スルモノナルトキハ督促手續ニ依
ルヲ得ス而シテ債權者ノ請求カ反對給付ヲ必要トスルモノナリヤ否ヤハ專ラ債權者ノ申
請ニ依リ之ヲ判定セサルヘカラス但シ反對給付ヲ要スルモノナルモ債權者ニ於テ已ニ其
給付ヲ爲シタルトキ若クハ債務者ニ於テ先ツ其ノ履行ヲ爲シ然ル後チ債權者ニ於テ反對
給付ヲ爲スヘキモノナルトキハ尙ホ其ノ請求ニ對シ支拂命令ヲ發スルヲ得ルコト勿論ナ
リトス又債權者ノ申立ニ依リ支拂命令ヲ外國ニ送達シ若クハ公示送達ヲ爲スヘキトキ又

ハ之ヲ要スト認メタルトキハ其支拂命令ノ申請ヲ棄却スヘシ若シ支拂命令ヲ發シタル後
チ之ヲ外國ニ送達シ若クハ公示送達ヲ爲スノ申請ヲ爲シタルトキハ其申請ヲ棄却スヘキ
モノトス

注意 一定ノ金額トハ證書貸金ノ如キ確定シタル金高ヲ云フ代替物トハ米麥酒ノ如キ一
日借リテ之ヲ費消シタルモ後ニ至リ他ノ同種同量ノ物ヲ以テ返却スヘキヲ云フ反對給付
トハ例ヘハ甲ナル者乙ニ貸金アリ乙ハ甲ニ對シ物品賣渡ノ殘金ヲ貸シ置キタルニ甲乙ニ
對シ督促手續ヲ行ハントスレハ先ツ以テ物品買入ノ殘金ヲ乙ニ拂ヒ渡ササルヘカラス之
ヲ反對給付ト云フ

第三百八十三條

支拂命令ハ區裁判所之ヲ發ス

此命令ハ區裁判所ノ第一審ノ事物ノ管轄ノ制限ナキモノト
看做シ通常ノ訴訟手續ニ於ケル訴ノ提起ニ付キ普通裁判籍
又ハ不動産上裁判籍ノ屬ス可キ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

〔註〕支拂命令ハ何レノ裁判所カ之ヲ發スヘキモノナルヤハ支拂命令ニ付テハ事物ノ管轄
土地ノ管轄共ニ專屬ナリ而シテ事物ノ管轄ニ付テハ請求金額ノ多少ニ拘ハラズ總テ區裁
判所ノ管轄ニ屬シ土地ノ管轄ニ付テハ債務者カ普通裁判籍ヲ有スル土地ノ區裁判所ノ管
轄ニ屬ス又不動産上ノ物權ニ基ク請求ニ付テハ債權者ハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル區

裁判所若クハ不動産所在地ノ區裁判所ノ中選擇ヲ以テ一ノ裁判所ニ請求スルコトヲ得ル
ナリ其他ノ管轄ハ毫モ支拂命令ニ關係ヲ及ボササルモノトス

第三百八十四條

支拂命令ヲ發スルコトノ申請ハ書面又ハ口

頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

此申請ハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 當事者及ヒ裁判所ノ表示

第二 請求ノ一定ノ數額、目的物及ヒ原因ノ表示若シ請求
ノ數箇ナルトキハ其各箇ノ一定ノ數額、目的物及ヒ原因
ノ表示

第三 支拂命令ヲ發センコトノ申立

〔註〕支拂命令ヲ發スルコトノ申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スヲ得ルナリ但口頭ヲ以
テスルトキハ敢テ調書ニ記載スルコトヲ必要トセス而シテ其ノ申請ニハ左ノ事項ヲ包含
スルコトヲ要ス

(イ) 當事者ノ表示

(ロ) 裁判所ノ表示

(ハ) 請求ノ一定ノ數額、目的物及ヒ原因ノ表示若シ數箇ノ請求ヲ爲ス場合ニハ各請求ノ

一定ノ數額目的物及ヒ原因ノ表示但申請ニ關スル費用ハ表示ヲ爲ササルモ裁判スヘキモノトス

(ニ)支拂命令ヲ發センコトノ申立

第三百八十五條

裁判所ハ申請ヲ調査シ其申請カ前三條ノ規定ニ適當セス又ハ申請ノ旨趣ニ於テ請求ノ理由ナク又ハ現時理由ナキコトノ顯ハルルトキハ其申請ヲ却下ス
請求ノ一分ノミニ付支拂命令ヲ發スルコトヲ得サルトキハ亦其申請ヲ却下ス然レトモ數箇ノ請求中或ルモノニ理由ナクシテ其他ノモノニ理由アリト見ユルトキハ其理由アリト見ユルモノニ限り申請ヲ許容ス

右却下ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス然レトモ通常ノ訴訟手續ニ依リ訴追スルヲ妨グルコト無シ

〔註〕本條ハ申請ノ效力ヲ規定シタルモノナリ即チ申請カ前述ノ要件ヲ具備セサルトキ若クハ請求ノ一定ノ原因ニシテ不當ト認メ得ヘキトキハ之ヲ却下スヘシ其請求ノ一方理由アリテ其他ハ理アリト認ムルヲ得サルトキモ亦其申請ヲ却下スヘシ然レトモ數箇ノ請求中其一カ理由ナクシテ他カ理由アルトキハ其理由アリト見ユル請求ニ付キ支拂命令ヲ發

スヘシ

又其申請カ適法ナルトキ即チ形式及ヒ要件ニ於テ缺クル所ナキト雖モ元來督促手續ヲ許ササル請求ナルトキハ亦其申請ヲ却下スヘキハ勿論ナリトス申請ヲ爲ス者ハ法律上代理人ナルカ申請者カ訴訟能力ヲ有スルヤ否ヤ又其請求ハ司法裁判ニ屬スヘキモノナルヤ否ヤハ裁判所ニ於テ職權上調査シ若シ其一ヲ缺クトキハ該申請ヲ却下スヘシ
右申請ノ却下ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百八十六條

支拂命令ハ豫メ債務者ヲ審訊セスシテ之ヲ發ス

支拂命令ニハ第三百八十四條第一號及ヒ第二號ニ掲ケタル申請ノ要件ヲ記載シ且即時ノ強制執行ヲ避ケント欲セハ此命令送達ノ日ヨリ十四日ノ期間内ニ請求ヲ満足セシメ及ヒ其手續ノ費用ニ付キ定ムル數額ヲ債權者ニ辨濟ス可ク又ハ裁判所ニ異議ヲ申立ツ可キ旨ヲ債務者ニ對スル命令ヲ記載ス可シ

前項ノ期間ハ爲替ヨリ生スル請求ニ付テハ二十四時間其他

ノ請求ニ付テハ申立ニ因リ三日マテニ之ヲ短縮スルコトヲ得

〔註〕申請カ缺點ナキトキハ即チ正當ナルトキハ裁判所ハ其申請ニ依リ支拂命令ヲ發スルモノトス而シテ支拂命令ハ裁判所ヨリ發スル所ノ命令書ニシテ前條第一號及ヒ第二號ノ要件ノ外尙ホ債務者ニ對シ強制執行ヲ避ケント欲セハ此命令送達ノ日ヨリ十四日ノ期間内ニ請求ニ應シ及ヒ其手續ノ爲メ要セン費用幾何ヲ債權者ニ辨濟スヘク又ハ此命令ニ對シ裁判所ニ異議ヲ申立ツヘシトノ命令ヲ記載スヘシトス但右十四日ノ期間爲替ヨリ生スル請求ニ付テハ二十四時間其他ノ請求ニ付テハ三日間ニマテ申立ニ因リ之ヲ短縮スルコトヲ得ルナリ

第三百八十七條 權利拘束ノ效力ハ支拂命令者ヲ債務者ニ送達スルヲ以テ始マル

支拂命令ノ送達ハ之ヲ債務者ニ通知ス可シ

〔註〕支拂命令ハ之ヲ債務者ニ送達シタル日ヨリ其效力ヲ生スルナリ即チ其送達ノ日ヨリ所謂權利拘束ノ效力ヲ生スルナリ
右權利拘束ノ訴訟法上ノ效力ハ債務者ニ於テ支拂命令ニ對シ異議ヲ申立テ又執行命令ニ對シ故障ヲ申立テタルトキ若クハ債權者カ債務者ニ對シ同一ノ請求ニ關シ他ニ訴ヲ提起

シタル場合ニ於テ初メテ其適用ヲ見ル即チ債權者カ同一ノ請求ニ付キ同一ノ債務者ニ對シ他ニ訴ヲ提起シタルトキハ債務者ハ權利拘束ノ抗辯ヲ爲スヲ得ルナリ

第三百八十八條 債務者ハ支拂命令ニ對シ書面又ハ口頭ヲ以テ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

〔註〕債務者カ支拂命令ニ對シ異議ヲ申立ツルニハ前ニ述ヘタル期間内ニ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スモノトス若シ適法ニ即チ期間内ニ申立ツルトキハ次條ノ規定ニ從ヒ支拂命令ノ效力ヲ失フ

第三百八十九條 債務者カ請求ノ全部又ハ一分ニ對シ適當ナル時間ニ異議ヲ申立ツルトキハ支拂命令ノ效力ヲ失フ然レトモ權利拘束ノ效力ヲ存續ス
數箇ノ請求中或ルモノニ對シ異議ヲ申立テタルトキハ支拂命令ハ其他ノ請求及ヒ之ニ相當スル費用ノ部分ニ付キ效力ヲ有ス

〔註〕債務者カ適當ナル時期ニ於テ支拂命令ニ對シ異議ノ申立ヲ爲シタルトキハ支拂命令ハ其效力ヲ失フ即チ之ニ因リ強制執行ヲ爲スヲ得サルニ至ル然レトモ權利拘束ノ效力ヲ失フモノニ非ス又數箇ノ請求中或ルモノニ對シ異議ヲ申立タルトキハ其他ノ請求及ヒ之

ニ對スル費用ニ付テハ支拂命令ノ效力ヲ失フモノニ非ス

第三百九十條 適當ナル時間ニ異議ヲ申立テタル場合ニ於テ
請求ニ付キ起ス可キ訴カ區裁判所ノ管轄ニ屬スルトキハ其
訴ハ支拂命令ノ送達ト同時ニ區裁判所ニ之ヲ起シタルモノ
ト看做ス其口頭辯論ノ期日ハ第三百七十七條ノ規定ニ從ヒ
テ之ヲ定ム

〔註〕有效ナル異議ノ申立アリタルトキハ請求カ地方裁判所ノ管轄ニ屬スルト區裁判所ノ
管轄ニ屬スルトニ依リ之カ區別ヲ爲ササルヘカラス

起スヘキ請求カ區裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノナルトキ即チ通常訴訟手續ニ依リ訴ヲ起
サントセハ之ヲ區裁判所ニ提起スヘキモノナルトキハ支拂命令ノ送達ニ因リ其請求ニ關
スル訴ハ區裁判所ニ提起セラレタルモノト看做ス故ニ裁判所ハ第三百七十七條ノ規定ニ
從ヒ口頭辯論ノ期日ヲ定ム然レトモ當事者ハ合意上其期日前ニ出頭シテ辯論ヲ爲スコト
ヲ得ルナリ

第三百九十一條 請求ニ付キ起ス可キ訴カ地方裁判所ノ管轄
ニ屬スル場合ニ於テハ適當ナル時間ニ異議ノ申立アリタル
コトヲ債權者ニ通知ス可シ

債權者其通知書ノ送達アリタル日ヨリ起算シ一个月ノ期間
内ニ管轄裁判所ニ訴ヲ起ササルトキハ權利拘束ノ效力ヲ失
フ

〔註〕請求カ地方裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノナルトキ即チ通常訴訟手續ニ依リ訴ヲ起ス
トキハ之ヲ地方裁判所ニ提起スヘキモノナルトキハ區裁判所ハ適當ナル時期ニ於テ債務
者ヨリ支拂命令ニ對シ異議ノ申立アリタルコトヲ債權者ニ通知スヘシ

債權者ニ於テ其通知ヲ受ケタル日ヨリ一ヶ月ノ期間内ニ於テ管轄地方裁判所ニ訴ヲ起ス
トキハ支拂命令ノ送達ニ因リ生シタル權利拘束ノ效力ハ毫モ消滅スルコトナシト雖モ若
シ其ノ期間内ニ訴ノ提起ヲ爲ササルトキハ其權利拘束ノ效力ハ消滅ニ販ス然レトモ假令
權利拘束ノ消滅スルモ民法上ノ規定ニ依リ訴ノ提起ニ因リテ生スル所ノ效力ハ毫モ影響
ヲ蒙ルモノニ非スシテ權利拘束ノ消滅スルニ拘ハラス其效力ヲ有スルナリ

第三百九十二條 督促手續ノ費用ハ適當ナル時間ニ異議ノ申
立アリタル場合ニ於テハ起ス可キ訴訟ノ費用ノ一分ト看做
ス

前條ノ場合ニ於テ期間内ニ訴ヲ起ササルトキハ手續ノ費用
ハ債權者ノ負擔ニ歸ス

〔註〕督促手續ノ費用ハ訴訟費用ノ一部ト見做シ訴訟費用ト共ニ之ヲ裁判スルモノトス然レトモ債權者ニ於テ異議ノ通知後一ヶ月内ニ訴ノ提起ヲ爲ササルトキハ督促手續ハ全ク其效力ヲ失フモノナルカ故ニ此場合ニ於テハ督促手續ノ費用ハ常ニ債權者ニ於テ之ヲ負擔セサルヘカラス

第三百九十三條

支拂命令ハ其命令中ニ掲ケタル期間ノ經過後債權者ノ申請ニ因リ之ヲ假ニ執行シ得ヘキコトヲ宣言ス但假執行ノ宣言前債務者異議ヲ申立テサルトキニ限ル

右假執行ノ宣言ハ支拂命令ニ付ス可キ執行命令ヲ以テ之ヲ爲ス其執行命令ニハ債權者ニ於テ計算スル手續ノ費用ヲ掲ク可シ

債權者ノ申請ヲ却下スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

〔註〕債務者ニ於テ支拂命令ニ記載シタル十四日ノ期間内ニ異議ノ申立ヲ爲ササルトキハ債權者ノ申請ニ因リ裁判所ハ其支拂命令ヲ假リニ執行シ得ルコトヲ宣言スルコトヲ得ルナリ債務者ニ於テハ十四日ノ期間經過後ト雖モ支拂命令ニ付キ假執行ノ宣言アルマテ其

異議ヲ申立ツルヲ得ルモノナルカ故ニ十四日ノ期間債務者ニ於テ異議ノ申立ヲ爲ササルトキニ限リ假執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ得ルナリ

是ヲ以テ債權者ニ於テ假執行ノ申請ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ先ツ十四日ノ期間ノ經過シタルヤ否ヤ又債務者ハ適當ナル期間ニ於テ異議ノ申立ヲ爲シタルヤ否ヤヲ調査シ然ル後假執行ノ宣言ヲ爲スヘキモノトス

假執行ノ宣言ハ支拂命令ニ對スル執行命令ヲ以テ之ヲ爲ス而シテ其命令ニハ督促手續ニ關スル費用ヲ掲クルコトヲ要ス

右債權者ノ申請ヲ却下スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ルナリ

第三百九十四條

執行命令ハ假執行ノ宣言ヲ付シタル闕席判決ニ同一ナリトス其執行命令ニ對シテハ第二百五十五條乃至第二百六十四條ノ規定ニ從ヒテ故障ヲ申立ツルコトヲ得

請求カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ區裁判所ハ其故障ヲ法律上ノ方式及ヒ期間ニ於テ申立テタルヤノ點ノミニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ爲ス此場合ニ於テハ第三百九十一條第二項ニ定メタル期間内故障ヲ許ス決定ヲ確定ヲ以テ始マル〔註〕執行命令ハ假執行ノ宣言ヲ付シタル缺席判決ト其結果ヲ同フス但執行ヲ爲サントス

◎第二編第一審ノ訴訟手續 第二章區裁判所ノ訴訟手續 三百二十七

ルニ當リテハ別ニ執行文ヲ要セス執行命令ニ依リテ直チニ之ヲ執行スルコトヲ得ルモノトス然レトモ債權又ハ債務者ニ於テ承繼アリタル場合ニハ執行文ヲ附記スルコトヲ要ス債務者カ支拂命令ニ執行命令ヲ付シタルモノノ送達ヲ受ケタルトキハ其日ヨリ十四日ノ期間内ニ於テ其命令ニ對シ故障ヲ申立ツルコトヲ得ルナリ其他執行命令ニ對スル故障ヲ爲スニハ第二百五十五條乃至第二百六十四條ノ規定ニ從フヘキモノトス

右ノ故障ハ其ノ執行命令ヲ發シタル區裁判所ニ之ヲ爲スヘシ而シテ其請求カ區裁判所ニ屬スヘキモノナルトキハ區裁判所ハ單ニ故障ニ付テノミナラス本案ニ付テモ亦裁判スヘシ即チ故障カ適法ナルトキハ事件ハ缺席以前ノ程度ニ復スルモノナルヲ以テ債務者ハ異議ヲ申立テタル結果トシテ口頭辯論ニ於テ提出シ得ル所ノ總テノ防禦方法ヲ提出スルコトヲ得ルナリ但シ執行命令ノ假執行ハ單ニ故障ヲ申立テタリトノ一事ニ因リテ停止セラレルモノニ非ス故ニ第五百十二條ノ規定ニ從ヒ裁判所ハ第五百條ノ命令ヲ爲スコトヲ得而シテ判決ニ因リ執行命令ノ廢棄セラレタルトキハ第五百十條ニ從ヒ假執行ハ其效力ヲ失フ

之ニ反シ其請求カ地方裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノナルトキハ區裁判所ハ故障ノ適法ナルヤ否ヤニ付テノミ辯論及ヒ裁判ヲ爲スヘシ此裁判ハ即チ終局判決ナリ何トナレハ故障カ不適法ナルトキハ其故障ヲ却下シ又適法ナル場合ニ於テハ執行命令ヲ廢棄スヘキモノナレハナリ而シテ執行命令ヲ廢棄シタルトキハ支拂命令ハ執行命令ヲ附セラレサルモノ

ト爲ルカ故ニ債權者ハ第三百九十一條第二項ノ期間内ニ訴テ地方裁判所ニ提起セサルヘカラサルニ至ル但シ此場合ニ於テハ一个月ノ期間ハ故障ヲ許ス判決ノ確定ヲ以テ始マル
第三百九十五條 時期ニ後レテ申立テタル異議ハ命令ヲ以テ之ヲ却下ス

此却下ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

〔註〕不變期間ハ必ス其期間内ニ訴訟行為ヲ爲ササレハ懈怠ノ結果異議ノ申立テ爲スモ其ノ效ナキモノトナル即チ異議ノ申立テ爲ストモ却下セラレハシ而シテ此却下ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三編 上訴

第一章 控訴

〔註〕民事訴訟法ニ於テ上訴ト稱スルハ上級裁判所ニ對シ未確定ノ裁判ノ破毀若クハ變更ヲ求ムル爲メ當事者ニ與ヘタル救済ノ方法ナリ蓋シ上訴ヲ許スノ目的ハ主トシテ當事者ノ利益ヲ保護スルニ在リ然レトモ其立法ノ主意タル單ニ當事者ノ利益ヲ保護スルノミチ以テ上訴ノ目的ト爲シタルニ非ス併セテ裁判ノ公正ヲ維持シ且其統一ヲ期スルコトモ亦其目的タルヤ明カナリ是レ第二審裁判所カ事實並ニ法律ノ點ニ關シテ覆審ヲ爲シ及ヒ職權上調査スヘキ訴訟手續ノ違背ハ當事者ノ申立テ待タスシテ之ヲ廢棄スルコトヲ得ル

カ如キハ當事者ノ利益ヲ保護スルト同時ニ裁判ノ公正ヲ圖ルニ過キス其他上告裁判所カ法律ノ點ニ關シテ覆審ノ權利ヲ有スルカ如キモ亦當事者ノ利益ヲ保護スルノミニ止マラスシテ裁判ノ統一ヲ期スルニ出ツ

上訴ニ三種アリ控訴、上告及ヒ抗告是ナリ而シテ故障及ヒ再審ノ訴即チ原狀回復ノ訴及ヒ取消ノ訴ハ上訴ノ中ニ包含セラレス何トナレハ故障及ヒ再審ノ訴ハ共ニ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所ニ提起シテ再度ノ審理裁判ヲ求ムルモノニシテ上級審ニ向テ下級裁判所ノ裁判ノ審査ヲ求ムルモノニ非サレハナリ

右三種ノ上訴方法中抗告ハ決定又ハ命令ニ對シテ之ヲスコトヲ得ルモノニシテ控訴及ヒ上告ハ共ニ終局判決ニ對シテ之ヲ爲シ得ヘキモノトス然レトモ控訴ト上告トハ固ヨリ同一ノモノニ非スシテ左ノ點ニ於テ差異アリ

第一 控訴ハ第一審ノ終局判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得之ニ反シテ上告ハ第二審ノ終局判決ニ對スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二 控訴ハ事實及ヒ法律ノ點ニ關シ覆審ヲ爲スモノ即チ事實ノ認定及ヒ法律ノ適用ニ關シ第一審ノ裁判ヲ審査スルモノナリ之ニ反シテ上告ハ法律ノ適用ノミニ關シ第二審ノ終局判決ノ當否ヲ審査ス但事實ノ認定ト雖モ下級裁判所カ法律ニ反シ不當ニ之ヲ爲シタルモノナルトキハ亦上告裁判所ノ審査ヲ受クルモノナリ

右控訴及ヒ上告ニ反シ抗告ハ訴訟手續ニ關スル申請ヲ却下スル決定其他法律ニ於テ特定

シタル場合ニ於テ之ヲ爲スヲ得ルナリ之ヲ換言セハ法律上特ニ簡易ノ上訴方法ナリ上訴ヲ爲スノ權利ヲ有スル者ハ主タル當事者即チ訴訟ノ原告又ハ被告ナリ故ニ主タル當事者ノ死亡相續人モ亦當然上訴ヲ爲スノ權利ヲ有シ破産管財人モ破産者ニ代リテ當然上訴ヲ爲スノ權利ヲ有スルナリ

又第一審ニ於テ共同訴訟人タリシ者ハ各自ニ上訴ヲ爲スノ權利ヲ有シ權利關係カ合一ニノミ確定スヘキ共同訴訟ノ場合ニ於テハ上訴ヲ爲サカリシ者ハ上訴ヲ爲シタル者ニ依リテ代理セラルルモノトス但此場合ニ於テモ共同訴訟人ノ各自ハ各別ニ上訴ヲ爲スノ權利ヲ妨ケラルルコトナシ

主參加人モ亦上訴權ヲ有スルハ勿論ニシテ從參加人ト雖モ補助セラルル當事者ノ爲メ上訴ヲ爲スノ權利ヲ有ス加之ナラス從參加人タラントスル者ハ上訴ヲ爲スト同時ニ從參加チ爲シ以テ當事者ノ一方ヲ補助スルコトヲ得ルナリ

然レトモ上訴權ヲ有スル者カ訴訟代理人ニ依リテ代理セラレタルトキハ其代理人ハ特別ノ委任ヲ受クルニ非サレハ控訴又ハ上告ヲ爲スノ權利ヲ有セス

又訴訟無能力者カ法定代理人ニ依リテノミ上訴ヲ爲スコトヲ得訴訟無能力者ノ爲メ特別代理人ノ選任アリタルトキハ法定代理人カ訴訟ノ行爲ヲ爲ササル時ハ特別代理人ニ於テ上訴ヲ爲スコトヲ得ルナリ

第三百九十六條 控訴ハ區裁判所又ハ地方裁判所ノ第一審ニ

◎第三編上訴 第一章控訴

於テ爲シタル終局判決ニ對シテ之ヲ爲ス

〔註〕控訴ハ第一審ノ終局判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス故ニ控訴ヲ爲スニハ左ノ條件ヲ必要トス

第一 終局判決ニ對スルコト

終局判決ニ對スルニ非サレハ控訴ヲ爲スヲ得サルコトハ前ニ述ヘタル所ニ因テ明カナリ然レトモ終局判決タル以上ハ全部ノ終局判決ニ對スルト一部ノ終局判決ニ對スルトナ問ハス又其判決ハ通常ノ訴訟手續ニ依リタルモノナルト證書訴訟若クハ爲替訴訟ノ手續ニ依リタルモノナルトナ問ハサルナリ之ニ反シテ中間判決又ハ決定ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得ス唯タ左ノ中間判決ノミニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得ルナリ

(イ) 妨訴抗辯ヲ棄却シタル中間判決(第二百七條第二項)

(ロ) 請求ノ原因及ヒ數額ニ付キ爭アル場合ニ於テ裁判所カ請求ノ原因ヲ正當ト認メタル中間判決(第二百二十八條第二項)

妨訴抗辯ニ付キ爭テ生シタルトキハ則チ獨立シタル防禦方法ニ付テノ爭ナリ故ニ其ノ抗辯ニ付キ裁判所カ特ニ判決ヲ爲ストキハ其判決ハ所謂中間判決ナリ然レトモ其判決カ妨訴抗辯ヲ正當ナリトスルトキハ之ニ因リテ訴訟ハ其裁判所ノ繫屬ヲ離脱スルモノナルカ故ニ所謂終局判決ヲ隨テ其判決ニ對シテハ明文ヲ要セスシテ當然訴訟ヲ爲スコトヲ得ルナリ然レトモ其判決ニシテ妨訴抗辯ヲ棄却シタルモノナルトキハ其判決ハ全ク中間判

決タリ故ニ法律ノ明文ナキ以上ハ該判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スヲ得ス但タ第二百七條ニ於テ特ニ上訴ニ關シテハ終局判決ト看做ストノ明文アルヲ以テ右妨訴ノ抗辯ヲ棄却シタル中間判決ニ對シテモ亦抗訴ヲ爲スコトヲ得ヘク請求ノ原因ノ判決ニ對シテモ亦同シ而シテ其ノ請求ノ原因ナシトスル判決ハ訴訟ノ數額ニ付キ裁判ヲ爲ササルニ至ルモノニシテ所謂終局判決ナルヲ以テ其判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スヲ得ト雖モ之ニ反シテ請求ノ原因ヲ正當ナリトスルトキハ其ノ數額ニ付キ裁判ヲ爲スヲ得ヘキモノナルカ故ニ其判決タルヤ中間判決ナルモ第二百二十八條ニ於テ該判決ハ上訴ニ關シテハ終局判決ト看做ストノ明文アルヲ以テ其判決ニ對シテハ亦控訴ヲ爲スコトヲ得ルナリ

第三百九十七條

終局判決前ニ爲シタル裁判ハ亦控訴裁判所ノ判斷ヲ受ク但此法律ニ於テ不服ヲ申立ツルコトヲ得スト明記シタルトキ又ハ抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ルトキハ此限ニ在ラス

〔註〕控訴ハ第一審ノ終局判決ニ對シテノミ之ヲ爲スコトヲ得ルモノナルカ故ニ中間判決及ヒ決定ニ對シテハ控訴ヲ爲スヲ得サルコトハ上ニ既ニ述タル如クナリ然レトモ中間判決及ヒ決定ニ對シテハ控訴ヲ爲スヲ得ストハ單ニ其裁判ニ對シ獨立シテ上訴スルコトヲ得スト云フニ止マリ終局判決ニ對シ控訴ヲ爲シタル場合ニ於テハ其覆審ノ效力ハ勿論中

間判決及ヒ決定ニマテ及フモノナリ故ニ第一審ノ終局判決前ニ爲シタル裁判ハ總テ控訴
審ノ判斷ヲ受クルモノトス但法律規定ニ因リ不服ヲ申立ツルコトヲ得サル裁判抗告ヲ以
テ獨立シテ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判及ヒ控訴提起前已ニ確定シタル中間判決ハ此
限ニ在ラストス

第三百九十八條

闕席判決ニ對シテハ期日ヲ懈怠シタル者ヨ
リ控訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス但故障ヲ許ササル
闕席判決ニ對シテハ懈怠ナカリシコトヲ理由トスルトキニ
限リ控訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得

〔註〕終局判決ト雖モ左ノ判決ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

(イ) 訴訟費用ノミニ付テノ判決

(ロ) 闕席判決

費用ノ點ニ限リタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ストハ第八十二條ノ規定ス
ル所ナリ故ニ控訴ニ依ルモ該裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス然レトモ本案ニ
付キ上訴ノ提起アリタルトキハ費用ノ點ニ限リタル裁判ニ對シテモ亦不服ヲ申立ツルコ
トヲ得ルナリ

缺席裁判ニ對シテハ缺席判決ヲ受ケタル者ヨリ故障ヲ爲スコトヲ得ルナリ故ニ故障ヲ爲

スコトヲ得ル者ハ缺席判決ニ對シ控訴ヲ爲スノ權利ヲ有セス然レトモ缺席判決ニ對シテ
ハ常ニ故障ヲ爲スコトヲ得ルモノニ非スシテ左ノ場合ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得ルナリ
(イ) 缺席判決ニ對シ故障ヲ爲シタル者カ故障ニ付テノ辯論期日ヲ懈怠シタルトキハ裁
判所ハ缺席判決ヲ以テ故障ヲ棄却スヘシ此故障ヲ棄却シタル缺席判決ニ對シテハ更ニ
故障ヲ爲スコトヲ得ス

(ロ) 原狀回復ノ申立ヲ爲シタル場合ニ於テ第七十七條第二項ノ規定ニ從ヒ缺席判決
ヲ爲シタルトキハ其缺席判決ニ對シテハ故障ヲ爲スヲ得ス

右二個ノ場合ニ於テハ缺席判決ヲ受ケタル者カ辯論期日ヲ懈怠セサリシコトヲ理由トナ
ストキニ限リ其判決ニ對シテノミ控訴ヲ爲スコトヲ得ルナリ是レ本條ノ規定アリタル所
以ナリ

第三百九十九條

控訴ハ口頭辯論ノ前ニ於テハ被控訴人ノ承
諾ナクシテ之ヲ取下クルコトヲ得

第四百條

控訴期間ハ一个月トス此期間ハ不變期間ニシテ判
決ノ送達ヲ以テ始マル
判決ノ送達前ニ提起シタル控訴ハ無効トス

第二百四十二條ノ規定ニ從ヒ控訴期間内ニ追加裁判ヲ以テ判決ヲ補充シタルトキハ控訴期間ノ進行ハ最初ノ判決ニ對スル控訴ニ付テモ追加裁判ノ送達ヲ以テ始マル

第四百一條 控訴ノ提起ハ控訴狀ヲ控訴裁判所ニ差出シテ之ヲ爲ス

此控訴狀ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 控訴セラルル判決ノ表示

第二 此判決ニ對シ控訴ヲ爲ス旨ノ陳述

此他控訴狀ハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ作リ且判決ニ對シ如何ナル程度ニ於テ不服ナルヤ及ヒ判決ニ付キ如何ナル變更ヲ爲ス可キヤノ申立ヲ掲ケ若シ新ニ主張セントスル事實及ヒ證據方法アルトキハ其新ナル事實及ヒ證據方法ヲ掲ク可シ

〔註〕控訴ノ提起ヲ爲サントスルニハ本條ニ規定シタル事項ヲ具備シタル控訴狀法定ノ期間内ニ控訴裁判所ニ提出スヘク即チ控訴狀ニ記載スヘキ事項ハ左ノ如シ

第一 控訴セラルル判決ノ表示

第二 控訴ヲ爲ス旨ノ陳述

控訴セラルル判決ノ表示ハ如何ナル判決ニ對シ控訴ヲ爲スヤチ明ニスルヲ以テ目的トス而シテ判決ノ表示ハ判決ヲ爲シタル裁判所、判決ヲ受ケタル當事者、判決言渡ノ期日、判決ノ主旨、及ヒ事件番號ヲ記載シテ之ヲ爲スヘシ尤モ其表示ノ方法ハ必スシモ右ノ如クナルヲ要セス實際ニ於テハ判決ヲ表示シタリト看做スヘキヤ否ヤハ裁判所ノ認定ニ依ルヘシ

右ノ外控訴ヲ爲ス旨ノ陳述ヲ掲ケタルトキハ控訴狀トシテハ法定ノ方式ニ適スルモノトス控訴狀ハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒ之ヲ作ルヘキモノトス故ニ當事者及ヒ控訴裁判所ノ表示及ヒ控訴提起ノ日時等ハ之ヲ控訴狀ニ記載スヘク殊ニ判決ニ對スル不服ノ程度、原判決ヲ如何ニ變更スヘキヤノ申立及ヒ控訴人カ主張セントスル新事實並ニ新證據方法ハ之ヲ掲クルヲ可トス然レトモ此等ノ事項タルヤ敢テ必要事項ニ非スシテ單ニ注意的ニ過キス故ニ其記載ヲ爲ササルモ控訴人ハ之カ爲メニ權利上ニ不利益ヲ受クルモノニ非ス

第四百二條

判然許ス可カラサル控訴又ハ判然法律上ノ方式ニ適セス若クハ其期間ノ經過後ニ起シタル控訴ハ裁判長ノ命令ヲ以テ之ヲ却下ス

此却下ノ命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

〔註〕控訴ノ適法ナルヤ否ヤハ裁判長ニ於テ之ヲ調査スヘキモノトス而シテ控訴ヲ許スヘカラサルモノナルコト控訴カ法律上ノ方式ニ適セサルコト又ハ控訴期間ノ經過後提起シタルモノナルコト判然タルトキハ裁判長ハ命令ヲ以テ之ヲ却下スヘキモノトス但シ却下ノ命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ルナリ故ニ控訴期間後却下ノ命令ヲ爲シ而シテ其命令ニ對スル即時抗告ノ期間ヲ徒過スルカ又ハ其命令ニ對シ抗告ヲ爲シ而シテ其抗告ヲ棄却セラレタルトキニ於テ已ニ控訴期間經過シタル後チナルトキハ裁判長カ單ニ法律上ノ方式ニ違背シタル控訴狀ナリトシテ控訴ヲ却下シタリシ場合ニ於テモ控訴人ハ再ヒ控訴ヲ爲スコトヲ得サルニ至ルモノナリ

第四百三條

控訴狀ノ送達口頭辯論ノ期日トノ間ニ存スルコトヲ要スル時間ニ付テハ第九十四條ノ規定ヲ適用シ答辯書ヲ差出ス可キ期間ノ催告ニ付テモ第九十九條ノ規定ヲ適用ス

前項ノ場合ニ於テモ亦第二百三條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第四百四條

答辯書ハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒテ

之ヲ作り且被控訴人ノ一定ノ申立及其主張セントスル新ナル事實及證據方法ヲ掲ク可シ

〔註〕控訴裁判所ニ於ケル訴訟手續ニハ地方裁判所ニ於ケル第一審ノ訴訟手續ヲ準用スルヲ原則トスルコトハ第四百八條ニ規定セラル而シテ控訴狀ノ送達ト口頭辯論トノ間ニ存スヘキ準備期間、答辯書ノ差出期間、答辯書ニ記載スヘキ事項ニ付キ地方裁判所ノ第一審ノ訴訟手續ニ關スル規定ヲ準用スルハ則チ其ノ原則ノ旨趣ニ準據シタルモノナリ其他準備書面ノ交換、證據調ノ手續其他口頭辯論ニ關スル第一審ノ規定ハ總テ之ヲ控訴審ノ手續ニ準用スヘキモノトス

第四百五條

被控訴人ハ自己ノ控訴ヲ拋棄シタルトキ又ハ控訴期間ノ經過シタルトキト雖モ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得
闕席判決ニ對シ附帶控訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトニ付テハ第三百九十八條ノ規定ニ從フ

〔註〕控訴期間ハ一个月トス此ノ期間ハ不變期間ニシテ裁判所ノ休暇ニ因リテ停止セララルコトナク又當事者ノ合意ノ申立アルモ之ヲ短縮若クハ伸張スルコトヲ得ス(第六十八條第七十條)但シ訴訟手續ノ中斷及ヒ中止ノ場合ニ於テハ其中斷及ヒ中止ノ止ミタルトキヨリ更ニ不變期間ノ進行ヲ始ムルモノトス(第八十六條)

控訴期間ハ不服ヲ申立テテレタル判決ノ送達ヲ以テ始マル而シテ送達ハ當事者ノ住所ノ遠近ニ因リ自ラ遲速ノ別アルカ故ニ送達ノ日時モ亦各當事者ニ對シ同一ナルモノニ非ス隨テ控訴期間ハ各當事者ニ對シ獨立シテ進行スルモノトス

然レトモ第一審ノ判決ニ對シ其控訴期間内ニ追加裁判ノ言渡ヲ爲シタル場合ニ於テハ第四百條第三項ニ於テ特別ノ規定ヲ設ケ控訴期間ノ進行ハ最初ノ判決ニ對シテモ追加裁判ノ送達ヲ以テ始マルモノトス是レ追加判決ナルモノハ獨立シタル一部判決ニシテ最初ノ判決ノ一部ヲ爲スモノニ非サルヲ以テ追加判決ニ對スル控訴ノ期間ハ其判決ニ付キ獨立シテ進行ス即チ最初ノ判決ノ送達ヨリ一ヶ月ノ期間經過ノ後チ追加判決ノ言渡アルカ又ハ追加判決ノ申立ヲ却下シタルトキハ控訴期間ハ追加判決ニ對シ獨立シテ進行ス但シ最初ノ判決ノ控訴期間内ニ追加判決ノ言渡アリタルトキハ當事者カ已ニ最初ノ判決ニ對シ控訴ヲ爲シタルト否トニ關セス控訴期間ハ右二個ノ判決ニ對シ追加判決ノ送達ヲ以テ始マル

以上ニ述タル控訴狀ノ方式、控訴期間及ヒ控訴ヲ爲スノ條件ハ裁判所ノ職權調査ニ係ルモノトス而シテ第四百二條ニ依レハ裁判長ハ左ノ點ニ關シ職權上調査ヲ爲シ若シ其違法ナルコト明ナルトキハ命令ヲ以テ控訴ヲ却下スヘシ之ニ反シテ其控訴ヲ適法ナリトスルトキハ口頭辯論ノ期日ヲ定メ書記ナシテ當事者ヲ呼出サシムヘキモノトス

第一審ノ終局判決ニ對シテハ當事者ハ控訴ヲ爲スヲ得ルモノナルヲ以テ原告ヨリ控訴ヲ

爲シタル場合ニ於テ被告ヨリモ亦同一判決ニ對シ控訴ヲ爲スヲ得ルモノトス此場合ニ於テハ其控訴ハ各獨立シタル控訴ニシテ裁判所ハ訴訟ヲ併合スルノ權利ニ依リ單ニ辯論及ヒ裁判ヲ同時ニスル爲メ之ヲ併合スルヲ得ルナリ

然レトモ當事者ノ一方カ控訴ヲ爲シタル場合ニ於テ相手方カ其同一判決ニ對シ不服ヲ申立テントスルニハ必ス獨立シタル控訴ノ方法ニ依ルヲ必要トセス即チ被控訴人ハ附帶控訴ノ方法ニ依リテモ亦之ヲ申立ツルコトヲ得ルナリ即チ被控訴人ハ控訴ノ辯論ニ於テ自己モ亦其判決ニ對シ不服ヲ申立ツル旨ヲ陳述シテ覆審ヲ求ムルコトヲ得ルナリ而シテ附帶控訴ヲ爲スノ權利ハ被控訴人カ控訴ヲ爲サスシテ控訴期間ヲ經過シ又ハ自ラ控訴ヲ爲スノ權利ヲ拋棄シタル場合ニ於テモ尙ホ其被控訴人ニ屬スルモノトス然レトモ附帶控訴ヲ爲スニハ被控訴人カ自ラ控訴ヲ爲シ得ヘキ事件ナラサルヘカラス故ニ缺席判決ニ對シテハ被控訴人ハ附帶控訴ヲ爲スヲ得ス但シ第三百八十九條ノ規定ニ從ヒ控訴ヲ爲シ得ヘキトキハ此限ニ在ラス

又費用ノ點ニ限リタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得サルヲ原則トスレトモ附帶控訴ヲ以テスルトキハ則チ之ヲ申立ツルコトヲ得ルナリ(第八十二條第二項)是レ附帶控訴ハ本控訴ノ存スルトキニ非サレハ之ヲ爲スヲ得サルモノニシテ本案ノ裁判ニ付キ上訴ヲ爲シタル場合ナルヲ以テ隨テ附帶控訴ヲ以テ費用ノ點ノミニ付キ不服ヲ申立ツルヲ得ルナリ

第四百六條

左ノ場合ニ於テハ附帶控訴ハ其效力ヲ失フ

第一 控訴ヲ不適法トシテ判決ヲ以テ棄却シタルトキ

第二 控訴ヲ取下ケタルトキ

然レトモ被控訴人カ控訴期間内ニ附帶控訴ヲ爲シタルトキハ之ヲ獨立ノ控訴ト看做ス

〔註〕附帶控訴ハ本控訴ニ附帶スルモノナルカ故ニ單ニ法律ノ規定ニ從ヒ正當ニ附帶控訴ヲ申立ツルモ其控訴ノ效力如何ハ本控訴ノ運命ニ伴ハサルヲ得ス故ニ本控訴ニシテ不適法トシテ却下セラレ若クハ取下ケラレタルトキハ附帶控訴モ亦隨テ消滅ス而シテ此ノ如ク控訴ノ取下ハ附帶控訴ノ效力ヲ失ハシムルニ至ルヲ以テ控訴ニ關シテノ口頭辯論ノ始マリタル後ハ被控訴人ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ取下クルヲ得スト規定スルニ至リタリ即チ控訴ニ付キ控訴人又ハ被控訴人カ訴訟條件若クハ本案ニ付キ辯論ヲ始メタルトキハ被控訴人ノ承諾ヲ得スシテハ控訴ヲ取下クルコトヲ許ササルハ第四百九十九條ノ規定ナリ此ノ如ク附帶控訴ハ本控訴ト其運命ヲ共ニスルモノナルモ其附帶控訴カ控訴期間内ニ提起セラレタルトキハ獨立シタル控訴ト看做シ本控訴ノ取下又ハ不適法トシテノ却下ニ依リテ附帶控訴ノ效力ヲ失ハシムルコトナシ
併附帶控訴ハ本控訴ノ辯論ノ終結ニ至ルマテ之ヲ爲スヲ得レトモ控訴人缺席ノ場合ニ於

テハ口頭ヲ以テ附帶控訴ヲ爲スヲ得ス蓋シ控訴人カ缺席ノ場合ニ於テハ本控訴ニ付テノ辯論ノ存スル理由ナク隨テ辯論ニ於テ申立ヲ爲スヲ得サルモノナレハナリ

第四百七條

答辯書ニ新ナル事實若クハ證據方法ヲ掲ケ又ハ

附帶控訴ヲ爲ス旨ノ陳述ヲ掲ケタルトキハ之ヲ控訴人ニ送達ス可シ

第四百八條

右ノ外控訴ノ訴訟手續ニハ地方裁判所ノ第一審

ノ訴訟手續ノ規定ヲ準用ス但本章ノ規定ニ依リ差違ヲ生スルモノハ此限ニ在ラス

第四百九條

當事者ノ雙方ヨリ控訴ヲ起シタルトキハ其兩控

訴ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ同時ニ爲スヲ以テ通例トス

〔註〕控訴裁判所ニ於ケル訴訟手續ニハ地方裁判所ニ於ケル第一審ノ訴訟手續ヲ準用スルヲ原則トス然レトモ或手續ニ付テハ控訴ノ目的ヲ達スルカ爲メ特ニ其規定ヲ異ニシタルモノアリ今其控訴審ニ特殊ノ手續即チ第一審ノ手續ト差異アルモノヲ舉ケレハ即チ左ノ如シ

第一ハ第四百二條ノ規定是レナリ即チ前ニ述ヘタレハ之ヲ畧ス

第二ハ第四百九條ノ規定ニシテ當事者ノ双方ヨリ控訴ヲ提起シタルモノナルトキハ裁

判所ハ其兩控訴ノ辯論及ヒ裁判ヲ併合スヘキモノトス

第三ハ第四百三十一條ノ規定ナリ是ハ該條ノ下ニ於テ之ヲ説明スヘシ

第四第五ハ第十條ニ於テ規定セリ即チ以下該條下ニ於テ之ヲ述フルコトトス

第四百十條

口頭辯論ハ其期日ニ於テ被。訴人ノ控訴期間ノ未タ經過セサルキハ其申立ニ因リ期間ノ滿了マテ之ヲ延期ス
闕席判決ヲ受ケタル原告若クハ被告ヨリ裁判ニ對シ故障ヲ申立テ相手方ヨリ控訴ヲ起シタルトキハ控訴ニ付テノ辯論及ヒ裁判ハ故障ノ完結マテ職權ヲ以テ之ヲ延期ス

〔註〕控訴ノ口頭辯論期日ニ於テ被控訴人ノ被控訴期間カ未タ經過セサルトキハ被控訴人ノ申立ニ依リ其期間ノ滿了マテ控訴ノ辯論ヲ延スルモノトス例ヘハ原告ニ對シテハ被告ノ申立ニ依リ三月一日ニ判決ノ送達ヲ爲シ被告ニ對シテハ原告ノ申立ニ依リ四月一日ニ判決ノ送達ヲ爲シ而シテ原告カ其控訴期間内ニ控訴ヲ提起シタルニ因リ控訴裁判所ノ裁判長ハ四月二十日ヲ以テ口頭辯論ノ期日ト定メ當事者ヲ呼出シタルトキハ被控訴人ノ控訴期間ハ其期日ニ於テ未タ經過セサルモノナルヲ以テ此場合ニ於テハ被控訴人ノ申立ニ依リ其期間ノ滿了ニ至ルマテ控訴ノ辯論ノ延期ヲ爲スヘキナリ闕席判決ニ對シ其判決ヲ受ケタル當事者ヨリ故障ヲ爲シ相手方ヨリ控訴ヲ提起シタルトキハ控訴ニ付テノ辯論

ハ故障完結ニ至ルマテ即チ故障ニ基キ本案ノ辯論ヲ爲シ及其第一審ノ判決アルマテ職權ヲ以テ之ヲ延期スヘキモノトス何トナレハ此場合ニ於テ控訴ニ付テノ辯論ヲ延期セサルトキハ同一判決ニ對シ二箇ノ裁判所ニ於テ同時ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲スニ至ルモノニシテ其結果控訴ハ無益ニ歸スルノ恐アレハナリ

第四百十一條

控訴裁判所ニ於ケル訴訟ハ不服ノ申立ニ因リ定マリタル範圍内ニ於テ更ニ之ヲ辯論ス

第四百十二條

當事者ハ其控訴ノ申立及ヒ不服ヲ申立テラレタル裁判ノ當否ヲ明瞭ナラシムル爲メ必要ナル限リハ口頭辯論ノ際第一審ニ於ケル辯論ノ結果ヲ演述ス可シ
演述ノ不正確又ハ不完全ナル場合ニ於テハ裁判長ハ其更正若クハ補完ヲ爲サシメ又必要ナル場合ニ於テハ辯論ヲ再開シテ之ヲ爲サシム可シ

〔註〕當事者ハ其控訴ノ申立及ヒ不服ヲ申立テラレタル裁判ノ正當ナルヤ否ヤヲ明確ナラシムル爲メ必要ナル限リハ口頭辯論ニ於テ第一審ニ於ケル辯論ノ結果ニ付キ演述スヘシ其陳述ノ正確ナラサルカ又ハ十分ナラサル場合ニハ裁判長ハ其更正若クハ補完ヲ爲サシ

メ又必要ナル場合ニハ再ヒ辯論ヲ開キ事實ヲ正確ナラシムヘキモノトス是レ控訴手續ノ異ナル第六ナリ

第四百十三條 訴ノ變更ハ相手方ノ承諾アルトキト雖モ之ヲ許サス

第四百十四條 妨訴ノ抗辯ハ職權ヲ以テ調査ス可カラサルモノニシテ且原告若クハ被告カ其過失ニ非スシテ第一審ニ於テ提出シ能ハサリシコトヲ疏明スルニ限り之ヲ主張スルコトヲ得

本案ノ辯論ハ妨訴ノ抗辯ニ基キ之ヲ拒ムコトヲ得ス然レトモ裁判所ハ職權ヲ以テ妨訴ノ抗辯ニ付キ分離シタル辯論ヲ命スルコトヲ得

〔註〕訴訟ノ本案ニ付テノ判決ニ對シ控訴ヲ提起シタル場合ト妨訴抗辯ニ付テノ判決ニ對シ控訴ヲ提起シタル場合トヲ問ハス被告カ有效ニ拋棄スルコトヲ得ル妨訴抗辯ハ被告カ過失ニ非スシテ第一審ニ於テ之ヲ主張シ能ハサリシコトヲ疏明シタルトキニ限り控訴審ニ於テ初メテ之ヲ主張スルコトヲ得ルモノトス

然レトモ妨訴抗辯ニ基キ本案ノ辯論ヲ拒ムコトヲ得ス但裁判所ハ職權ヲ以テ妨訴抗辯ニ付キ分離シタル辯論ヲ命スルコトヲ得ルナリ

第四百十五條 當事者第一審ニ於テ主張セサリシ攻撃防禦ノ方法殊ニ新ナル事實及ヒ證據方法ヲ提出スルコトヲ得

〔註〕控訴裁判所ニ於テハ第一審ニ於テ判決ヲ爲シタル訴訟ニ付キ更ニ辯論ヲ爲スモノナルカ故ニ其辯論ノ材料ハ第一審ニ於ケル辯論ノ材料ヲ包含シ得ヘキハ勿論第一審ニ於テ辯論ノ材料ヲサリシ所ノ新ナル材料ト雖モ其訴訟ニ關スルモノハ之ヲ包含スルコト明カナリ

第一審裁判所ニ於ケル辯論ノ結果ヨリ觀察スルトキハ其裁判ハ毫モ不當ニ非サルコトヲ認ムル場合ニ於テモ尙ホ控訴人ハ新ナル事實ヲ主張シ其事實ニ基キ第一審判決ノ變更ヲ求ムルコトヲ得ルナリ已ニ新ナル事實ノ主張ヲ爲スコトヲ得ル以上ハ新ナル證據方法ヲ提出スルコトヲ得ルコトモ亦勿論ナリ隨テ第一審ニ於テ提出セサリシ事實若クハ證據方法ヲ新ニ提出スルモ之カ爲メ當事者ハ其權利上ニ不利ナルコトナシ但テ第一審ニ於テ提出シ得ヘカリシモノヲ新ニ控訴審ニ提出シ而シテ新ナル事實又ハ證據方法ニ基キ勝訴ト爲リタル者ハ第二審ノ訴訟費用ヲ負擔スルモノトス

第四百十六條 新ナル請求ハ第九十六條第二號及ヒ第三號

◎第三編上訴 第一章控訴

ノ場合又ハ相殺スルコトヲ得ヘキモノニシテ且原告若クハ被告カ其過失ニ非スシテ第一審ニ於テ提出シ能ハサルコトヲ疏明スルトキニ限り之ヲ起スコトヲ得

〔註〕新ナル請求ハ第二審ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得ス新ナル請求トハ總テ第一審ニ於テ訴又ハ反訴ノ目的ヲラサリシ請求ヲ云フ故ニ已ニ提起シタル所ノ請求ト雖モ第一審ニ於テ有效ニ取下ケテシタル後ハ再ヒ第二審ニ於テ之ヲ提起スルコトヲ得サルナリ然レトモ第九十六條第二號及ヒ第三號ノ場合又ハ相殺スルコトヲ得ヘキモノニシテ且原告若クハ被告カ其過失ニ非スシテ第一審ニ於テ提出シ能ハサリシコトヲ疏明スルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得ルナリ

而シテ新ナル請求中ニハ第九十六條第二號及ヒ第三號ノ場合ハ固ヨリ包含セラルルモノニアラス何トナレハ申立ノ擴張若クハ減縮又ハ物ノ滅盡ニ因リ代價ヲ求ムルカ如キハ訴ノ變更ト看做ササルコトハ第九十六條ニ依リ之ヲ知ルコトヲ得ヘキヲ以テ此等ノ事項ハ第二審ニ於テ之ヲ爲スモ爲メニ新ナル請求ヲ爲スモノト云フヲ得サレハナリ

第四百十七條 事實又ハ證書ニ付キ第一審ニ於テ爲ササリシ陳述又ハ拒ミタル陳述ハ第二審ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得
第四百十八條 第一審ニ於テ爲シタル裁判上ノ自白ニ第二審

ニ於テモ亦其效力ヲ有ス

〔註〕第一審ニ於テ事實若クハ證書ニ付キ陳述ヲ爲サス若クハ其陳述ヲ拒ミタルトキト雖モ第二審ニ於テハ其陳述ヲ爲スコトヲ得ルナリ故ニ第一審ニ於テハ當事者カ何等ノ陳述ヲ爲ササリシ事項ニ因リ第九十一條第二項ノ規定ニ從ヒ自白シタルモノト看做サレタル事實ニ對シテモ第二審ニ於テハ更ニ反對ノ陳述ヲ爲シテ其事實ヲ爭フコトヲ得ヘシトス

第四百十九條 控訴裁判所ハ控訴ヲ許ス可キヤ否ヤ又控訴ヲ法律上ノ方式ニ從ヒ若クハ其期間ニ於テ起シタルヤ否ヤテ職權ヲ以テ調査スヘシ若シ此要件ノ一ヲ缺クトキハ判決ヲ以テ控訴ヲ不適當トシテ棄却ス可シ

〔註〕控訴裁判所ハ口頭辯論ニ付キ法律上許サレタル控訴ナルヤ否ヤ又其控訴カ法定ノ方式及ヒ期間等ヲ遵守シタルモノナルヤ否ヤテ職權ヲ以テ調査スヘシ而シテ控訴カ其一ヲ缺クトキハ判決ヲ以テ控訴ヲ不合法トシテ却下スヘキモノトス故ニ當事者ニ於テ控訴カ適當ナルヤ否ヤニ付キ異議ヲ述ヘサルモ裁判所ハ職權ヲ以テ之ヲ調査セサルヘカラス

第四百二十條 第一審ノ裁判ハ變更ヲ申立テタル部分ニ限り之ヲ變更スルコトヲ得

〔註〕當事者ノ各自カ一部勝訴タリシ場合ニ於テ控訴人カ其敗訴ノ部分ニ付キ變更ヲ求メカリシトキハ控訴裁判所ハ控訴モラレタル判決ノ全部ヲ變更スルコトヲ得ス又控訴人ハ一審ニ於テ五百圓ノ請求ヲ爲シタルニ拘ハラヌニ於テハ單ニ三百圓ノミヲ求メタルトキハ控訴裁判所ハ其五百圓ノ全部ニ付キ裁判ヲ爲スコトヲ得ス

第四百二十一條

第一審ニ於テ是認シ又ハ非認シタル請求ニ關スル總テノ争點ニシテ申立ニ從ヒ辯論及ヒ裁判ヲ必要トスルモノハ第一審ニ於テ又争點ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ爲ササルトキト雖モ控訴裁判所ニ於テ其辯論及ヒ裁判ヲ爲ス

〔註〕控訴セラレタル判決ニ於テ棄却若クハ認可セザリシ請求ハ控訴審ノ裁判ノ目的物タルコトヲ得ス故ニ第一審判決ニ於テ主タル請求若クハ從タル請求ニ付キ判決ヲ脱漏シタルトキハ移審ノ效力ハ其部分ニ及ハサルモノトス但當事者ニ於テ補充判決ノ申立ヲ爲シ裁判所ニ於テ其補充ノ判決ヲ爲シタルトキハ其判決ニ對シ更ニ適法ノ控訴ヲ爲シ以テ移審ノ效力ヲ生セシムルヲ得ルハ勿論ナリ

第四百二十二條

控訴裁判所ハ左ノ場合ニ於テ事件ニ付キ尙ホ辯論ヲ必要トスルトキハ其事件ヲ第一審裁判所ニ差戻ス可シ

- 第一 不服ヲ申立テラレタル判決カ關席判決ナルトキ
- 第二 不服ヲ申立テラレタル判決カ關席裁判ニ對スル故障ヲ不適法トシテ棄却シタルモノナルトキ
- 第三 不服ヲ申立テラレタル判決カ妨訴ノ抗辯ノミニ付キ裁判ヲ爲シタルモノナルトキ
- 第四 請求カ其原因及ヒ數額ニ付キ争アル場合ニ於テ不服ヲ申立テラレタル判決カ先ツ其原因ニ付キ裁判ヲ爲シタルモノナルトキ
- 第五 不服ヲ申立テラレタル判決カ證書訴訟及ヒ爲替訴訟ニ於テ敗訴ノ被告ニ別訴訟ヲ以テ追加ヲ爲ス權ヲ留保シタルモノナルトキ

〔註〕控訴裁判所ニ於テ審理ノ末第一審判決ノ廢棄若クハ變更ヲ爲スヘキモノニ非スト認メタルトキハ終局判決ヲ以テ控訴ハ理由ナシトシテ之ヲ棄却スヘシ之ニ反シテ第一審判決ヲ不當ト認ムルトキハ其判決ヲ變更シテ更ニ自ラ判決ヲ爲スヘキモノトス然レトモ或ル場合ニ於テハ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻シ更ニ事件ニ付テノ判決ヲ爲サシム此場合ニ於テモ亦控訴裁判所ハ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スコトヲ得ル場合ト差戻ササル可カラ

サル場合トノ別アリ

左ノ場合ニ於テハ事件ニ付キ尙ホ辯論ヲ必要ト認ムルトキハ控訴裁判所ハ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スヘシ

(イ)不服ヲ申立ラレタル判決カ闕席判決ナルトキ

缺席判決ニ對シ控訴ヲ爲シ得ル場合ハ第三百九十八條ニ於テ之ヲ規定セリ即チ缺席判決ニ對シ故障ヲ爲シ而シテ其故障カ新缺席判決ヲ以テ棄却セラレタルトキハ缺席者ハ懈怠ナカリシコトナ理由一シテ其缺席判決ニ對シ控訴ヲ爲スコトヲ得ルナリ

此場合ニ於テ控訴カ不適法ナルカ若クハ理由ナキトキハ第一審ノ缺席判決ハ確定シ之ニ反シテ控訴カ理由アリトスルトキハ更ニ本案ニ付キ辯論ヲ爲スヘシ而シテ其辯論ハ第一審ニ於テ之ヲ爲スヘキモノナルカ故ニ此場合ニ於テハ控訴裁判所ハ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スヘキモノトス

(ロ)控訴セラレタル判決カ故障ヲ不適法トシテ棄却シタルモノナルトキ

故障ヲ不適法トシテ棄却スル判決ハ常ニ缺席判決ニ非ス故ニ此判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スヲ得ルナリ此場合ニ於テ控訴カ不適法ナルカ若クハ理由ナキトキハ故障ヲ棄却シタル判決カ確定ニ至ルヘキモノナルヲ以テ進ンテ辯論ヲ爲スノ要ナク隨テ控訴裁判所ハ事件ノ差戻ヲ爲スヘキモノニアラス之ニ反シテ控訴裁判所ニ於テ控訴ヲ理由アリト認メ隨テ故障ヲ適法ト認メタルトキハ尙ホ本案ニ付キ辯論ヲ要スルモノナルカ故ニ控訴裁判所ハ

事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スヘキモノトス

(ハ)不服ヲ申立テラレタル判決カ妨訴抗辯ノミニ付キ裁判ヲ爲シタルモノナルトキ

此場合ニ於テ尙ホ辯論ヲ要スルハ控訴裁判所カ妨訴抗辯ヲ理由ナシト認ムルトキニ限ル如何トナレハ妨訴抗辯ニシテ理由アリトセンカ裁判所ハ本案ニ付キ裁判ヲ爲スヘキモノニ非サレハナリ故ニ第一審ニ於テ妨訴抗辯ヲ理由アリトシテ爲シタル裁判ニ對シテ控訴ヲ爲シ而シテ控訴裁判所カ其控訴ヲ理由アリトシテ第一審裁判ヲ變更シタル場合又ハ第一審ニ於テ妨訴抗辯ヲ理由ナシト認メタル裁判ニ對シテ控訴ヲ爲シ而シテ控訴裁判所カ其控訴ヲ理由ナシトシタル場合ニ於テモ總テ控訴裁判所ニ於テ妨訴抗辯ヲ理由ナシトスルノ裁判ヲ爲スニ至ルトキハ第一審ニ於テ妨訴抗辯ニ付キ辯論ヲ分離シタル場合ト否トナ問ハス總テ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スヘシ

(ニ)請求ノ原因及ヒ數額ニ付キ爭アル場合ニ於テ控訴ニ係ル判決カ先ツ其原因ニ付キ裁判ヲ爲シタルモノナルトキ

此場合ニ於テ差戻ヲ要スルハ控訴裁判所カ控訴ヲ理由ナシトシテ第一審裁判所カ請求ノ原因アリト認メタル判決ヲ認可スル場合ナリトス蓋シ第一審裁判所カ原因ニ付テノ辯論ヲ分離シタル場合ト否トナ問ハス原因ナシト認ムルトキハ第二百二十五條ノ規定ニ從ヒ請求ノ棄却ヲ爲スヘキモノナルカ故ニ其判決ニ對シ控訴ヲ爲シタル末原因アリト認ムルモ其第一審裁判タルヤ先ツ其原因ニ付キ裁判ヲ爲シタルモノニ非サルヲ以テ事件ヲ第一

審裁判所ニ差戻スヘキモノニ非ス故ニ第一審裁判所カ原因アリトノ中間判決ヲ爲シ其判決ニ對シテ控訴アリタル場合ニ於テ控訴裁判所カ其控訴ヲ理由ナシトシテ第一審判決ヲ認可スル場合ニ於テ初メテ事件ノ差戻ヲ爲スヘキモノトス

(ホ)控訴ニ係ル判決カ證書訴訟又ハ爲替訴訟ニ於テ敗訴ノ被告ニ別訴訟ヲ以テ訴訟手續ノ追行ヲ爲スノ權利ヲ留保シタルモノナルトキ

此場合ニ於テ差戻ヲ要スルハ控訴裁判所カ第一審判決ヲ認可シタル場合ナリトス之ニ反シテ控訴裁判所カ第一審判決ヲ變更シテ訴ヲ却下シ若クハ請求ヲ棄却シタル場合ニ於テハ更ニ事件ニ付キ辯論ヲ爲サシムルノ餘地ナキモノナルカ故ニ事件ノ差戻ヲ爲スコトヲ得サルヤ明カナリ又第一審裁判所ニ於テ請求ヲ棄却シ若クハ敗訴ノ被告ニ權利ノ留保ヲ爲ササリシ場合ニ於テ控訴裁判所カ其裁判ヲ變更シテ請求ヲ理由アリト爲シ又ハ敗訴ノ被告ニ權利ノ留保ヲ爲シタル場合ニ於テハ事件ノ差戻ヲ爲スヲ得ス何トナレハ事件ノ差戻ヲ爲ス場合ハ第一審判決ニ於テ被告ニ權利ノ留保ヲ爲シタル場合ニ限ルヲ以テナリ本條第五號ノ場合ヲ例セハ爲替手形ノ如キモノニ對シテ金額ヲ拂フヘキ義務アル甲カ乙ヨリ其手形ヲ以テ支拂ヲ請求スルニ付キ之ニ拂渡セシニ後又丙ヨリモ同様ノ手形ヲ以テ請求セリ然ルニ最早先キニ乙ニ支拂タリシ旨ヲ以テ其支拂ヲ拒ミシニ終ニ丙ヨリ訴訟ヲ起シタルモ其證書アルカ爲メニ敗訴ト爲リシニ甲之ヲ不服ニテ控訴シ又一方ニ在テハ前ニ支拂シ乙ニ對シテ訴訟ヲ爲シタルトキハ一ノ手形カ二個トナルモノナレハ何レカ眞ニ

アラサルモノアルヘシ若シ丙ノ手形カ偽物ナラハ丙ヨリ損害ノ賠償ヲ求メ又乙ノ手形カ偽造ナラハ敗訴ノ理ナシ乃チ二葉ノ手形カ何レカ眞偽ノ明白ニ至ルマテハ乙ノ權利ハ丙ヘ對シテ訴訟ノ判決アルマテハ留保シテ執行セサシムル如キヲ云フナリ

第四百二十三條

第一審ニ於テ訴訟手續ニ付テノ規定ニ違背シタルトキハ控訴裁判所ハ其判決及ヒ違背背シタル訴訟手續ノ部分ヲ廢棄シ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スコトヲ得

〔註〕本條ノ場合ニ於テ第一審ニ事件ヲ差戻スヘキヤ否ヤハ違背シタル訴訟手續ノ性質ニ因リテ之ヲ定ムヘク若シ其手續ニシテ判決ノ基本タル關係ヲ有スルモノナルトキ若クハ控訴裁判所カ裁判ヲ爲スニ付キ基本トスヘキ手續ニ違背シタル場合ニ於テハ事件ノ差戻ヲ爲スヘシ例ヘハ第一審ノ證人ニ法律ノ規定ニ背キテ宣誓ヲ爲サシメサリシトキ判決ノ事實ニ錯誤アルカ又ハ判決ニ事實ノ指示ナキトキ又ハ獨立シタル攻撃防禦ノ方法ニ非サルモノニ付キ辯論ヲ分離シタルトキノ如シ然レトモ控訴裁判所ノ認定ニ依リ自ラ判決ヲ爲スヲ便宜ト認メタルトキハ事件ヲ差戻ササルコトヲ得ルナリ

又其手續ノ廢棄ハ必スシモ其手續ノ全部ニ及フヲ要セス例ヘハ區裁判所ニ當事者本人カ出頭シ管轄違ノ抗辯ヲ爲サスシテ本案ニ付キ辯論ヲ爲シ次ノ口頭辯論ノ期日ニ於テハ訴訟代理人ヲ出頭セシメタルモ其代理人ハ當事者ヲ代理スル權限ナキニ拘ハラス裁判ヲ爲

シタルトキハ控訴審ハ單ニ其第二回ノ辯論期日ニ於ケル辯論ノ手續ヲ廢棄シテ事件ヲ差戻スコトヲ得ルナリ此場合ニ於テハ第一回ノ辯論ハ其效力ヲ有スルナリ

第四百二十四條 控訴ヲ理由ナシトスルトキハ判決ヲ以テ控訴ノ棄却ヲ言渡ス可シ

第四百二十五條 判決ヲ控訴人ノ不利益ニ變更スルコトハ相手方カ控訴又ハ附帶控訴ノ方法ヲ付キ不服ヲ申立テタル部分ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

〔註〕判決ヲ控訴人ノ不利益ニ變更スルトキトハ例ヘハ原告カ第一審ノ判決ニ不服ニテ訴訟シタルトキ被告ハ原告ノ控訴スル點ニ付キ原判決ノ正當ナルコトヲ主張シ其不利益ニ變更セントスルトキハ控訴又ハ附帶控訴ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシト云フ義ナリ

第四百二十六條 第二百二十條ノ規定ニ從ヒテ防禦ノ方法ヲ却下スルトキハ其防禦ノ方法ヲ主張スル權ハ之ヲ被告ニ留保ス可シ
判決ニ此留保ヲ掲ケサルトキハ第二百四十二條ノ規定ニ從ヒテ判決ノ補充ヲ申立ツルコトヲ得

留保ヲ掲ケタチ判決ハ上訴及ヒ強制執行ニ付テハ終局判決ト看做ス

〔註〕第一審ノ被告即チ訴訟ノ被告タリシ控訴人若クハ被控訴人カ時機ニ後レテ防禦方法ヲ提出シタルヤ否ヤハ控訴審ノ程度ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノトス

第二百十條ノ規定ニ依リ防禦ノ方法ヲ却下シタルトキト雖モ其防禦ノ方法ヲ主張スル權ハ消滅スルモノニアラスシテ尙ホ之ヲ被告ニ留保スヘシトス然レトモ妨訴抗辯ヲ棄却シタル判決及ヒ請求ノ原因ヲ正當トシタル判決ハ中間判決ナルモ訴訟法上二箇ノ判決ハ共ニ上訴ニ關シテハ終局判決ト看做シ獨立シテ上訴ヲ爲スコトヲ得セシメタルカ故ニ其中間判決ニ對シ控訴ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ本案又ハ數額ニ付テノ審理裁判ヲ爲スヲ得ス本條第三項ノ規定ニ從ヒ上訴及ヒ強制執行ニ付キ終局判決ト看做シタル裁判ニ付テモ亦同一ナリ

第四百二十七條 防禦ノ方法ニシテ被告ニ其主張ヲ留保スルモノニ付テハ其訴訟ハ第二審ニ繫屬ス
爾後ノ手續ニ於テ訴ヲ以テ主張シタル請求ノ理由ナカリシコトノ顯ハルルトキハ前判決ハ廢棄シテ其訴ヲ棄却シ且申立ニ因リ判決ニ基キ支拂ヒタルモノ又ハ給付シタルモノヲ

返還ス可キコトヲ言渡シ並ニ費用ニ付キ裁判ヲ爲ス可シ

〔註〕被告ニ防禦ノ方法ヲ主張スヘキコトヲ留保シタルトキハ第二審ニ屬スルナリ尤モ其後ノ手續ヲ追行スルコトヲ許シタリ唯タ此等ノ場合ニ於テ續行シタル手續ハ條件附ノ性質ヲ有スルモノニシテ控訴ノ理由アリシトキ即チ原判決ヲ控訴審ノ判決ニ依リ變更セラレタルトキハ其手續ハ全ク消滅ニ歸スルモノナリ

第四百二十八條

控訴人カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セサルトキハ出頭シタル被控訴人ノ申立ニ因リ闕席判決ヲ以テ控訴ノ棄却ヲ言渡スヘシ

第四百二十九條

被控訴人口頭辯論ノ期日ニ出頭セサル場合ニ於テ出頭シタル控訴人ヨリ闕席判決ノ申立ヲ爲ストキハ第一審裁判ノ憑據ト爲リタルモノニ牴觸セサル控訴人ノ事實上ノ供述ハ被控訴人之ヲ自白シタルモノト看做シ且第一審裁判所ノ事實上ノ確定ヲ補充シ若クハ辯駁スル爲メ控訴人ノ申立テタル適法ノ證據調ハ既ニ之ヲ爲シ及ヒ其結果ヲ得タルモノト看做シ闕席判決ヲ爲ス

〔註〕被控訴人カ缺席ノ場合ニ於テハ控訴人ノ申立ニ依リ懈怠判決ヲ爲ス可シ然レトモ此場合ニ於テハ控訴審ニ關シ特別ノ規定ヲ設ケタリ即チ控訴人ノ事實上ノ陳述ハ總テ被控訴人ニ於テ自白シタルモノト看做スコトヲ得シテ第一審判決ノ憑據ト爲リタル事實ニ牴觸セサル控訴人ノ事實上ノ供述ニ限り被控訴人ニ於テ自白シタルモノト看做シ裁判ヲ爲スヘキモノトス而シテ第一審判決ノ憑據ト爲リタル事實上ノ供述トハ第一審裁判ノ辯論ニ於テ顯ハレタル事實ヲ云フ即チ當事者間ニ爭ヒタル事實若クハ爭ニ係ラサル事實被控訴人カ第一審裁判所ニ於テ自白シタル事實等ヲ云フ故ニ其事實ト牴觸スルモノハ被控訴人ニ於テ自白シタルモノト看做スコトヲ得ス之ニ反シテ其事實ニ牴觸セサルモノニシテ豫メ被控訴人ニ通知シタル事實ハ被控訴人カ之ヲ自白シタルモノト看做シテ裁判ヲ爲ス可シ然レトモ控訴人カ適法ニ提出シタル證據ハ其結果ヲ得ルモノト看做スカ故ニ其結果トシテ第一審ノ憑據ト爲リタル事實ニ牴觸スルモノモ亦眞實ト認ムルコトヲ得ルナリ故ニ右等ノ事實ニ依リ控訴人ノ控訴ヲ正當ト認メタルトキハ第一審判決ノ變更ヲ爲シ之ニ反シテ其控訴ヲ正當ナラスト認ムルトキハ之ヲ棄却スヘキモノトス

第四百三十條

判決中ノ事實ノ摘示ニ付テハ前審ノ判決ヲ引用スルコトヲ得

第四百三十一條

控訴裁判所ノ書記ハ控訴狀ノ提出ヨリ二十

四時間ニ第一審裁判所ノ書記ニ訴訟記録ノ送付ヲ求ム可シ
控訴完結ノ後其記録ハ第二審ニ於テ爲シタル判決ノ認證アル
騰本ト共ニ第一審裁判所ノ書記ニ之ヲ返還ス可シ

〔註〕右二條ハ説明ヲ要スヘキ事項ナキヲ以テ之ヲ略ス

第二章 上告

〔註〕上告ハ地方裁判所又ハ控訴院カ第二審裁判所トシテ爲シタル終局判決ニ對シテ爲スコトヲ得ル上訴方法ナリ上告ヲ爲スニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 第二審裁判所カ爲シタル終局判決ニ對スルコト

區裁判所又ハ地方裁判所カ第一審トシテ爲シタル判決ニ對シテハ終局判決タルト否トハ問ハス總テ上告ヲ爲スコトヲ得ス又地方裁判所又ハ控訴院カ第二審裁判所トシテ爲シタル判決ト雖モ終局判決ニ非サル判決ニ對シテハ上告ヲ爲スコトヲ得ス之ニ反シテ第二審裁判所ノ終局判決ナル以上ハ其判決ハ請求ノ全部ニ對スルモノト一部ニ對スルモノトハ問ハス之ニ對シ上告ヲ爲スコトヲ得ルナリ而シテ右終局判決ノ中ニハ第二審裁判所カ爲シタル差戻ノ判決ヲモ包含セシムヘキモノナリ

右ノ如ク上告ハ第二審裁判所ノ爲シタル終局判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得ルトハ必シモ第二審ナル終局判決即チ第一審裁判所ノ判決ニ對シタル控訴ニ付キ第二審裁判所カ爲

シタル終局判決ニ對シテノミ上告ヲ爲スコトヲ得ト云フニ非スシテ地方裁判所若クハ控訴院カ第二審裁判所タルノ資格ヲ以テ爲シタル終局判決ニ對シテモ亦上告ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ是レ第二審裁判所ニ於テ爲ス判決ハ必スシモ控訴ニ付テノ判決ノミニ限ラスシテ或ハ其控訴ニ基カサル申立ニ付キ判決ヲ爲スコトアリ例ヘハ控訴裁判所ニ通常訴訟手續ニ依リ訴訟事件カ繫屬スル場合ニ於テ裁判所ハ假差押又ハ假處分ニ關シ控訴ニ基カサル申立ニ付キ判決ヲ爲スコトアリ此場合ニ於テハ第二審裁判所ハ即チ第二審裁判所ノ資格ヲ以テ判決ヲ爲スモノナルカ故ニ此判決ニ對シテハ上告ヲ得スコトヲ爲ヘシ

第四百三十二條 上告ハ地方裁判所及ヒ控訴院ノ第二審ニ於

テ爲シタル終局判決ニ對シテ之ヲ爲ス

第四百三十三條 終局判決前ニ爲シタル裁判ハ亦上告裁判所ノ判斷ヲ受ク且此法律ニ於テ不服ヲ申立ツルコトヲ得スト明記シタルトキ又ハ抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ルトキハ此限ニ在ラス

〔註〕右二條ハ前ニ述ヘタル理由ニ依リ意義自カラ明カナリ

第四百三十四條 上告ハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理

由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第四百三十五條

法則ヲ適用セス又ハ不當ニ適用シタルトキハ法律ニ違背シタルモノトス

〔註〕法律ニ違背スルトハ單ニ成文法即チ法律ノ明文ニ違背シタルコトノミナ云フニ非スシテ法律ノ原則其他慣習法ニ違背シタル場合モ亦包含セラレ且ツ單ニ法律ヲ不當ニ適用シタル場合ニ限ラスシテ法律規則ヲ適用セサル場合モ亦包含スルモノトス故ニ法則ノ有無ヲ誤リ法律規則ノ意義ニ違背シ其他法則ニ違背シテ事實ノ認定ヲ爲シタルカ如キハ總テ法律ニ違背シタル裁判タルコトヲ免レサルナリ

此ノ如ク法律違背ノ裁判ナルコトヲ理由トスルニ非サレハ上告ヲ爲スチ得サルモノナルカ故ニ單ニ事實上ノ認定ヲ誤リタルコトヲ理由トシテ上告ヲ爲ストキハ其上告ハ不適法ノ上告ナリトス是レ前ニ述ヘタル第二ノ理由ナリ

第四百三十六條

裁判ハ左ノ場合ニ於テハ常ニ法律ニ違背シタルモノトス

- 第一 規定ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セリシトキ
- 第二 法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタル判事カ裁判ニ參與シタルトキハ但忌避ノ申請又ハ上訴ヲ以テ

除斥ノ理由ヲ主張シタルモ其效ナカリシトキハ此限ニ在ラス

- 第三 判事カ忌避セラレ且忌避ノ申請ヲ理由アリト認マルニ拘ハラス裁判ニ參與シタルトキ
- 第四 裁判所カ管轄又ハ管轄違チ不當ニ認めタルトキ
- 第五 訴訟手續ニ於テ原告若クハ被告カ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレタリシトキ
- 第六 訴訟手續ノ公行ニ付テノ規定ニ違背シタル口頭辯論ニ基キ裁判ヲ爲シタルトキ
- 第七 裁判ニ理由ヲ付セサルトキ

〔註〕本條ハ法律ノ違背ニ基ク判決ナル場合ヲ規定シタルナリ法則ノ違背ニ基ク判決トハ法則ノ違背ト判決トノ間ニ所謂原因結果ノ關係アルコトヲ云フ而シテ法則ノ違背カ實體法ノ違背ナル場合ニ於テハ其違背カ判決ノ基礎タルコトハ多クノ場合ニ於テ疑チ存セサルモノノ如シ例ヘハ判決ノ基本タル事實ニ對シ實體法ノ適用ヲ誤リタルカ如キ場合はレナリ然レトモ訴訟手續上ノ法則ニ違背シタル場合ニ於テハ其違背ハ常ニ判決ノ基礎タルコトヲ認ムルチ得ス例ヘハ管轄權チ有セサル裁判所カ判決ヲ爲シタル場合ニ於テ他ノ裁

判所カ判決ヲ爲ストキハ必ス同一ノ判決ヲ爲サスト云フヲ得ス然レトモ訴訟手續ノ基本タル法則ニ違背シタルトキハ法律上其違背ト判決トノ間ニ原因結果ノ關係アルモノト看做シ以テ上告裁判所ノ裁判ヲ受クルコトヲ得セシメタリ其場合ハ左ノ如シ

(イ)法律ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セザリシトキ
法律ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セストハ裁判所構成法ノ規定ニ從ヒ構成セラレザリシトキ
ナキトキ等ナキ者カ構成ノ一部ヲ爲シタルトキ構成ニ要スル定數ノ判事
ナキトキ等ナキ云フ

(ロ)法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタル判事カ裁判ニ關與シタルトキ
法律ノ規定ニ依リ職務ヲ行フコトヲ得サル判事カ裁判ニ關與シタルトキハ其判事カ裁判
ヲ爲シタルトキ否トニ拘ハラス上告ノ理由トナリ而シテ其判事カ終局判決ニ關與シタルト
中間判決ニ關與シタルトハ問フ所ニ非ス然レトモ其判事カ裁判ノ言渡ニ關與シ若クハ單
ニ證據調ニノミ關與シタルトキハ上告ノ理由トナラス但忌避ノ申請又ハ上訴ニ於テ除斥
ノ理由ヲ主張シタルニ拘ハラス裁判上除斥ノ理由ナキコト確定シタルトキハ上告ノ理由
ト爲ラサルナリ

(ハ)判事カ忌避セラレ且其申請カ理由アリト認メラレタルニ拘ハラス裁判ニ關與シタルトキ
(ニ)裁判所カ其管轄又ハ管轄違テ不當ニ認メタルトキ

裁判管轄ノ規定ニ違背シ裁判ヲ爲シタルトキハ則チ其管轄又ハ管轄違テ不當ニ認メタル
モノナリ但合意管轄ノ生シタルトキハ此限ニ在ラス

(ホ)訴訟手續ニ於テ當事者カ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレザリシトキ
代理ノ中ニハ法定代理及ヒ訴訟代理ヲ包含ス而シテ本號ノ場合ハ當事者カ法律ノ規定ニ
從ヒ代理セラレザリシニ拘ハラス當事者トシテ訴訟手續ニ關與シタル場合ナキ云フ

(ヘ)訴訟手續ノ公行ニ付テノ規定ニ違背シタル口頭辯論ニ基キ裁判ヲ爲シタルトキ
公行スヘキ場合ニ於テ公行ヲ爲サス若クハ公行ヲ停止スヘキ場合ニ其停止ヲ爲サザリシ
場合ナキ云フ但公行ヲ停止スルト否トハ問ハス裁判所ノ意見ニ任セタル場合ハ此限ニ在ラ
ス

(ト)裁判ニ理由ヲ付セサルトキ
裁判ニ理由ヲ付セストハ全部理由ヲ記載セサルトキ又ハ判決ヲ爲スニ至リタル一部ノ理
由ヲ付セサルトキナキ云フ中間判決ニシテ上告裁判所ノ判斷ヲ受クルモノニ付キ理由ヲ付
セサルトキ亦同シ

第四百三十七條 上告期間ハ一个月トス此期間ハ不變期間ニ

シテ判決ノ送達ヲ以テ始マル
判決ノ送達前ニ提起シタル上告ハ無効トス

第四百三十八條

三百六十六

テ之ヲ爲ス

上告ノ提起ハ上告狀ヲ上告裁判所ニ差出シ

此上告狀ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 上告セラルル判決ノ表示

第二 此判決ニ對シ上告ヲ爲ス旨ノ陳述

此他上告狀ハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ作
リ特ニ判決ニ對シ如何ナル程度ニ於テ不服ナルヤ及ヒ判決
ニ付キ如何ナル程度ニ於テ破毀ヲ爲ス可キヤノ申立ヲ掲ケ
且法則ヲ適用セス若クハ不當ニ適用シタルコトヲ上告ノ理
由トスルトキハ其法則ノ表示又ハ訴訟手續ニ付テノ規定ニ
違背シタルコトヲ上告ノ理由トスルトキハ其欠缺ヲ明カニ
スル事實ノ表示又ハ法律ニ違背シテ事實ヲ確定シ若クハ遺
脱シ若クハ提出シタルト看做シタルコトヲ上告ノ理由トス
ルトキハ其事實ノ表示ヲ掲ク可シ

〔註〕上告ヲ爲スニハ上告狀ヲ上告裁判所ニ差出スヘキモノニシテ上告ノ效力ハ其上告狀

ヲ裁判所ニ差出シタルトキニ於テ生スルモノトス而シテ上訴提起ノ書面トシテノ上告狀
ニハ左ノ事項ヲ掲クルコトヲ要ス

第一 上告ニ係ル判決ノ表示

第二 右判決ニ對シ上告ヲ爲ス旨ノ陳述

右二個ノ事項ヲ具備セサル書面ハ法律ノ規定ニ反スル上告狀ニシテ之ニ依リテ裁判所ハ
上告本案ノ事件ニ付キ裁判ヲ爲スノ義務ヲ生セス而シテ上告狀カ法律ノ規定ニ適合スル
ヤ否ヤ又上告カ上告ニ要スル條件ヲ具備スルヤ否ヤハ裁判所自ラ之ヲ調査スヘキモノニ
シテ裁判長ニ於テ之ヲ調査スルヲ得ス故ニ既ニ上告狀トシテ書面ノ提出アリタルトキハ
裁判長ハ辯論ノ期日ヲ定メ當事者ヲ呼出スヘキモノトス

第四百三十九條

上告裁判所ハ上告人ヲ呼出シ其陳述ヲ聽キ

上告ヲ許ス可カラサルモノナルトキ又ハ法律上ノ方式及ヒ
期間ニ於テ起ササルトキ又ハ第四百三十四條ノ規定ニ依ラ
サルトキハ判決ヲ以テ之ヲ棄却ス可シ

上告人カ呼出ノ期日ニ出頭セサルトキハ上告ヲ取下ケタル
モノト看做ス但出頭セサリシコトヲ期日ヨリ七日ノ期間内
ニ十分ナル理由ヲ以テ辯解シタルトキハ更ニ期日ヲ定ム

〔註〕上告狀カ本條ノ規定ニ適合スルヤ上告期間内ニ提起シタル上告ナルヤ及ヒ第四百三十四條ノ規定ニ從ヒ提起シタル上告ナルヤヲ調査シ若シ其一ニ違背シタルトキハ判決ヲ以テ上告ヲ不適法トシテ却下シ否ラサルトキハ別ニ判決ヲ爲サスシテ本案事件ニ付テノ辯論期日ヲ定メ當事者双方ヲ呼出スヘシ

訴訟條件ニ付テノ期日ニ上告人カ出頭セサルトキハ上告ヲ取下ケタルモノト看做シ特ニ判決ヲ爲サス但上告人カ其期日ヨリ七日以内ニ自己ノ過失ニ非スシテ出頭スルコト能ハカリシコトノ正當ナル理由ヲ申出タルトキハ更ニ期日ヲ定メテ訴訟條件ニ付テノ調査ヲ爲スモノトス

第四百四十條

上告狀ノ送達ト口頭辯論ノ期日トノ間ニ存スルコトヲ要スル時間ニ付テハ第九十四條ノ規定ヲ適用シ答辯書ヲ差出ス可キ時間ノ催告ニ付テハ第九十九條ノ規定ヲ適用ス前項ノ場合ニ於テモ亦第二百三條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第四百四十一條

答辯書ハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ作り且一定ノ申立ヲ掲ク可シ

〔註〕準備書面トシテ上告ノ申立即チ原判決ニ對スル不服ノ程度及ヒ其判決ヲ如何ナル程度ニ於テ破毀セラレシコトノ申立ヲ掲ケ且ツ其ノ申立ノ理由即チ左ノ如シ

- (イ) 實體法ノ違背ヲ理由トスルトキハ其法則ヲ表示スヘシ
- (ロ) 訴訟手續ニ付テノ規定ニ違背シタルヲ理由トスルトキハ其違背ヲ明ニスル事實ヲ表示スヘク
- (ハ) 法則ニ違背シテ事實ヲ確定シ遺脱シ若シクハ提出シタリト認メタルトキハ其事實ヲ表示スヘキモノトス

第四百四十二條

被告人ハ附帶上告ヲ爲スコトヲ得此附帶上告ニ付テハ附帶控訴ノ規定ヲ準用ス

〔註〕附帶上告ニ付テハ附帶ニ關スル規定ヲ準用スルモノトス而シテ附帶上告ヲ許シタルノ理由ハ附帶控訴ニ於ケルカ如ク主トシテ上告ノ方式ヲ省略セシムルニ在ルヲ以テ附帶上告ノ場合ニ於テモ其理由ハ常ニ法則ノ違背ナラサルヘカヲサレナリ

第四百四十三條

答辯書ニ附帶上告ヲ爲ス旨ノ陳述ヲ掲ケタルトキハ之ヲ上告人ニ送達ス可シ

第四百四十四條

右ノ外上告ノ訴訟手續ニハ地方裁判所ノ第一審ノ訴訟手續ノ規定ヲ準用ス但本章ノ規定ニ依リ差異ヲ

生スルモノハ此限ニ在ラス

第四百四十五條 上告裁判所ハ當事者ノ爲シタル申立ノミニ付キ調査ヲ爲ス

〔註〕上告裁判所ノ審査ノ目的ハ上告セラレタル判決ナリ故ニ第二審ノ判決ニ遺脱ノ事項アルトキハ其遺脱ノ事項ハ固ヨリ上告裁判所ノ判決ヲ受クヘキモノニ非ス又新タナル請求ハ上告裁判所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得サルコト亦明カナリ

第四百四十六條 上告裁判所ハ裁判ヲ爲スニ付キ控訴裁判所カ其裁判ノ憑據トシタル事實ヲ標準トス此事實ノ外ハ第四百三十八條第三項ニ掲ケタル事實ニ限り之ヲ斟酌スルコトヲ得

證據調ヲ必要トスルトキハ上告裁判所ハ之ヲ命ス可シ

〔註〕上告セラレタル判決前ニ爲シタル裁判ニシテ不服ヲ申立ツルコトヲ明記シタルモノ及ヒ抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ルモノヲ除キ其他ノ裁判ハ總テ上告裁判所ノ判斷ヲ受ク然レトモ其裁判所ニ對シ獨立シテ上告ヲ爲スコトヲ得ス

上告セラレタル判決ハ上告申立ノ範圍ニ於テ上告裁判所ノ審査ヲ受ク然レトモ其ノ審査タルヤ敢テ上告人若クハ附帶上告人ノ主張スル理由ニ依リテ制限セララルモノニ非ス蓋

シ上告裁判所ノ自由審査ノ點ニ付テハ法律上明文ナシト雖モ第四百三十八條ニ於テ上告申立ノ理由ハ準備事項トシテ上告狀ニ記載スヘキコトヲ規定シ之ヲ以テ敢テ上告狀ノ必要事項ト爲ササリシコト及ヒ第四百五十三條ノ規定ニ依リ之ヲ推知スルニ足ルナリ

第四百四十七條

上告ヲ理由アリトスルトキハ不服ヲ申立テラレタル判決ヲ破毀ス可シ

訴訟手續ニ關スル規定ニ違背シタルニ因リ判決ヲ破毀スルトキハ其違背シタル部分ニ限り訴訟手續ヲモ亦破毀ス可シ

〔註〕上告カ法律上許サレサルモノナルトキ又ハ上告カ方式若クハ期間ヲ遵守セサルモノナルトキハ上告裁判所ハ職權ヲ以テ上告ヲ不適法トシテ却下スヘシ之ニ反シテ上告カ右ノ事件ヲ具備スルトキハ上告裁判所ハ本案ニ付キ判決ヲ爲シ或ハ原判決ヲ破棄シ或ハ上告ヲ棄却スヘシ以上ハ上告ノ手續ヲ違ヒタル場合ナリ

上告ノ手續ヲ誤ラサルモ其上告ハ理由ナシト認ムル場合即チ原判決カ法則ノ違背ニ基クモノニ非スト認メタル場合ニハ上告裁判所ハ之カ審査ノ上棄却スヘキナリ

之ニ反シテ原判決カ法則ノ違背ニ基クモノナルコトヲ認メタルトキハ其判決ヲ破棄スヘシ然レモ原判決カ其理由ニ於テ法則ノ違背アルモ他ノ理由ニ依リテ裁判ノ正當ナルコトヲ認メラルルハ上告ヲ棄却スヘシ例ハ第二審裁判所ニ於テハ甲ナル證書ハ被控訴人

ニ對シ何等ノ證據力ナキモノナリト判定シテ控訴人ノ控訴ヲ棄却シ且ツ其理由トシテ被控訴人ハ該證書ニ依リ債務ヲ負擔スル意思ナカリシモノト認ムトノ理由ヲ附加シアリタル場合ニ於テ上告裁判所ニ於テハ該證書ハ公正證書ナルヲ以テ被控訴人ニ對シ證據力ナシト判定シタルハ違法ナリト認ムルモ他ノ理由即チ被控訴人ハ該證書ニ依リ債務ヲ負擔スルノ意思ナシトノ理由ニ依テ判決ノ正當ナルキハ上告ヲ棄却スヘキモノトスルカ如シ

第四百四十八條

判決ヲ破毀スル場合ニ於テハ第四百五十一條ノ規定ヲ除ク外更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ事件ヲ控訴裁判所ニ差戻シ又ハ之ヲ他ノ同等ナル裁判所ニ移送ス可シ

事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ハ新口頭辯論ニ基キ裁判ヲ爲スコトヲ要ス

〔註〕原判決ヲ破毀スル裁判ハ更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メニ事件ヲ原裁判所ニ差戻シ又ハ他ノ同等ナル裁判ニ移送スルヲ原則トス此場合ニ於テハ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ハ上告裁判所カ判決ノ破毀ノ基本ト爲シタル法律上ノ判斷ヲ遵守スルノ義務ヲ有スルモノトス

第四百四十九條

當事者ハ破毀セラレタル判決ノ以前ニ於ケ

ル口頭辯論ニ當リ提出スルコトヲ得ヘカリシ事項ヲ新口頭辯論ニ際シ提出スル權利アリ

〔註〕上告裁判所ニ於ケル辯論ハ單ニ法律ノ適用ニ關シテノ上告ニ係ル第二審判決ヲ審査スルヲ以テ目的トナス故ニ事件ニ關スル事實ニシテ判決ノ基礎タルモノニ付テハ上告裁判所ハ審査ノ權限ヲ有セス隨テ第二審裁判所カ法律上附與セラレタル認定權ニ依リテ爲シタル事實ノ存否又ハ眞否ニ付テハ上告裁判所ハ何等ノ審査權ヲ有セス故ニ當事者ハ上告裁判所ニ於テハ新事實、其證據方法又ハ第二審ニ於テ已ニ主張シタル事實ニ關スル新ナル證據ヲ提出スルコトヲ得テ自白、認諾又ハ拋棄ハ上告裁判所ニ於テハ其效力ヲ生セサルモノトス但シ認諾又ハ拋棄ハ場合ニ依リ上告ノ取下ト同一ニ歸着スルモノナリ

然レトモ上告ノ理由タル法律違背ノ生スル事實ニ限リテハ當事者ハ上告審ニ於テ新タニ之ヲ主張シ及ヒ必要ノ場合ニ在リテハ其事實ノ立證ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ

第四百五十條

事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ハ上告裁判所ノ爲シタル法律ニ係ル判斷ニシテ判決ヲ破毀スル基本ト爲シタルモノヲ以テ新ナル辯論及ヒ裁判ノ基本ト爲ス義務アリ

〔註〕本條ハ第四百四十八條ニ述ヘタル理由ト同一ナルヲ以テ自カラ明カナリ

第四百五十一條 上告裁判所ハ左ノ場合ニ於テ事件ニ付キ裁判ヲ爲ス可シ

第一 確定シタル事實ニ法律ヲ適用スルニ當リ法律ニ違背シタル爲ニ判決ヲ破毀シ且其事件カ裁判ヲ爲スニ熟スルトキ

第二 無訴權ノ爲メ又ハ裁判所ノ管轄ナル爲ニ判決ヲ破毀スルトキ

〔註〕原裁判ハ確定ノ事實ニ對シ法律ノ適用ヲ誤リタリトノ理由ニ依リテ其判決ヲ破毀スル場合ニ於テ事件カ裁判ヲ爲スニ熟シタルトキハ上告裁判所ハ事件ヲ原裁判所ニ差戻シ又ハ他ノ同等ナル裁判所ニ移送セスシテ直チニ其事件ニ付キ判決ヲ爲スヘキモノトス例ヘハ第二審裁判所ハ當事者間ノ貸借ノ關係ヲ認メ而シテ單ニ出訴期限ノ規則ヲ適用シテ原告ノ請求ヲ排斥シタル場合ニ於テ上告裁判所ハ當事者カ援用セサルニ拘ハラス出訴期限ノ規則ヲ適用シタルハ不法ナリト認メタルトキハ原裁判ヲ破毀シテ直チニ原告ノ請求ヲ採用スヘシ
此ノ如ク法律ノ適用ヲ誤リタリトノ理由ヲ以テ原判決ヲ破毀スル場合ト雖モ事實關係カ

未タ確定セサル場合即チ事件カ裁判ヲ爲スニ熟セサルトキハ固ヨリ上告裁判所ハ判決ヲ爲スコトヲ得ス

上告裁判所カ事件ニ付テノ裁判ヲ爲スハ原裁判カ實體法ノ違背ニ基クト訴訟法上ノ法則ノ違背ニ基クトヲ問ハサルヲ以テ實體法ノ適用ヲ爲スニ熟シタルトキニ於テモ又訴訟法上ノ規則ノ適用ヲ爲スニ熟シタルトキニ於テモ直チニ事件ニ基キ裁判ヲ爲スヘキモノトス故ニ第二審裁判所カ確定シタル事實ニ基キ訴訟條件ノ欠缺アリト認ムルトキハ上告裁判所ハ直チニ事件ニ基キ裁判ヲ爲シ以テ原告ノ訴ヲ却下スヘシ本條第二號ノ場合ノ如キ是ナリ

第四百五十二條 上告ヲ理由ナシトスルトキハ之ヲ棄却ス可シ

第四百五十三條 裁判カ其理由ニ於テ法律ニ違背シタルトキト雖モ他ノ理由ニ因リ裁判ノ正當ナルトキハ上告ヲ棄却ス可シ

〔註〕本條ハ第四百四十七條ノ下ニ於テ述ヘタル所ト同シキナリ他ノ理由トハ實體法上ノ理由タルト訴訟手續上ノ理由タルトヲ問ハス又原裁判所カ其判決ニ認メタル理由ナルト上告裁判所カ初メテ見出シタル理由ナルトヲ問ハス例ヘハ原判決ニ於テハ甲ナル證書ハ證據力ナシト判定シタルハ違法ナリトスルモ上告裁判所ニ於テ該證書タルヤ印紙法ニ違

背シタルモノニシテ裁判上其效ナキモノト認メタルトキハ上告ヲ棄却スヘク隨テ此ノ如キ理由ニ於テハ被上告人ハ附帶上告ノ方法ニ依ラスシテ原判決ヲ正當ナリトスル他ノ理由ヲ主張スルコトヲ得ルモノトス

第四百五十四條 左ノ諸件ニ關スル控訴ノ規定ハ上告ニ之ヲ準用ス

- 第一 闕席判決ニ對スル不服ノ申立
- 第二 控訴ノ却下
- 第三 當事者ノ雙方ヨリ控訴ヲ起シタル場合ニ於ケル訴訟手續及ヒ控訴ト故障トヲ同時ニ爲シタルトキノ訴訟手續
- 第四 口頭辯論ノ延期
- 第五 口頭辯論ノ際ニ於ケル當事者ノ演述
- 第六 妨訴ノ抗辯ニ付テノ辯論
- 第七 控訴ヲ起シタル者ノ不利益ト爲ル裁判ヲ爲ス可カラサルコト

第八 記録ノ送付並ニ返還

〔註〕上告審ノ訴訟手續ニハ主トシテ第一審ノ訴訟手續ヲ準用スルコトハ第四百四十條第四百四十三條及ヒ第四百四十四條ニ規定セリ又闕席判決ニ對スル不服ノ申立、控訴ノ取下ケ當事者双方ヨリ控訴シタル場合ニ於ケル訴訟手續、控訴ト故障トヲ同時ニ爲シタルトキノ訴訟手續等其他本條ニ掲ケル規定ハ上告審ニモ之ヲ準用スルモノトス第一審ニ於ケル闕席手續ハ上告審ニ之ヲ準用スルコトニ付テハ疑ヲ存スル所ナリト雖モ然レトモ上告審ニ於テモ當事者ノ辯論ヲ經テ裁判ヲ爲スヘキモノナル以上ハ一方カ缺席シタルトキハ其場合ニ處スル手續ヲ要スルコト明カナリ而シテ上告ノ提起ハ訴ノ提起ニ相當スルモノナルカ故ニ上告人カ缺席シタル場合ニ於テハ第二百四十七條ヲ準用シテ上告ノ棄却ヲ爲スヘキモノトス

被上告人カ缺席シタル場合ニ於テモ亦第二百四十八條ヲ準用スヘシ然レトモ此規定ヲ準用スルコトヲ得ル場合ハ甚タ少ナシ何トナレハ上告審ニ於テ當事者カ事實ノ主張ヲ爲スコトヲ得ルハ第四百三十八條第二項ニ規定シタル如ク訴訟手續ニ付テノ規定ニ違背シタルコトヲ上告ノ理由トスルトキ及ヒ法律ニ違背シテ事實ヲ確定シ遺脱シ若クハ提出シタリト看做シタルコトヲ上告ノ理由ト爲シタル場合ニ限ルモノナレハナリ

第三章 抗告

〔註〕抗告ニ二種アリ單純ノ抗告及ヒ即時抗告是レナリ單純ノ抗告ニ付テハ法律上別ニ其

抗告ヲ爲スニ要スルニ期間ノ規定ナシト雖モ即時抗告ハ七日ノ不變期間内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

抗告ハ單純ノ抗告ト即時抗告トヲ問ハス其性質タルヤ控訴若クハ上告ヲ補充シ又ハ之ヲ簡易ナラシムルモノナリ而シテ抗告ハ裁判所カ爲シタル決定又ハ裁判長カ爲シタル命令ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス然レトモ決定又ハ命令ニ對シテハ常ニ抗告ヲ爲シ得ルモノニ非スシテ法律上制限ヲ定メタルナリ

第四百五十五條

抗告ハ訴訟手續ニ關スル申請ヲ口頭辯論ヲ經スシテ却下シタル決定又ハ命令ニ對シテ却下シタル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

〔註〕抗告ハ訴訟手續ニ關スル申請ヲ口頭辯論ヲ經スシテ却下シタル決定又ハ命令ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得ルト又抗告ハ訴訟法ニ於テ特ニ許シタル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得ルトノ制限アリ而シテ訴訟手續ニ關スル申請ヲ口頭辯論ヲ經スシテ却下シタル裁判ナルモ法律上特ニ抗告ヲ許ササル旨ノ規定ヲ爲シタル場合ニ於テハ固ヨリ抗告ヲ爲スコトヲ得ス例ハ第八百二十七條第三項第七十一條第三項第二百四十一條第三項等ノ如シ又訴訟法ニ於テ特ニ抗告ヲ爲スコトヲ許シタル場合ハ第三十八條第四十一條第五十七條第三項第三百一一條第三項第三百二十二條第三百二條第八十三條第八十五條第三百二條

條第三項第八十九條第二百四十一條第二百五十三條第二百九十四條第三項第三百二十二條第三百九十三條第三項第五百五十八條第七百五十四條第四項第七百五十六條第七百六十九條第三項等ニシテ而シテ此諸條項中第四十一條第五十七條第三項第三百一一條第三項第二百二十二條第八十三條第八十五條第三項第八十九條第二百四十一條第二百五十三條第三百九十三條第三項第五百五十八條第七百五十四條第四項第七百六十九條第三項ノ場合ニ於テハ特ニ即時抗告ノミヲ許シ其他ノ場合ニ故テハ單純ノ抗告ヲ爲スコトヲ許シタルモノトス

右ノ外抗告ヲ爲スニ付テハ他ノ條件ヲ必要トセス唯タ抗告人カ抗告ヲ爲スニ付キ權利上ノ利益ヲ有スヘキコトハ控訴ノ場合ニ於ケルト同シ

第四百五十六條

抗告ニ付テハ直近ノ上級裁判所其裁判ヲ爲ス

抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ其裁判ニ因リ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生シタルトキニ非サレハ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

〔註〕再抗告ニ付テハ法律上制限ヲ設ケタリ即チ抗告裁判所カ爲シタル裁判ニ對シ更ニ抗告ヲ爲スニハ抗告裁判所ノ裁判ニ因リ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生シタルコトヲ必要トス

ルナリ新ナル獨立ノ抗告理由トハ如何ナル理由ヲ云フヤハ大ニ疑ヲ存スル所ナリ文字上ヨリ之ヲ解釋スルトキハ抗告裁判所ノ裁判ニ於テ初メテ生シタル不服ノ廉アルトキヲ指示スルモノノ如シ故ニ原裁判所ノ決定若クハ命令ニ對スル抗告ヲ棄却シタル場合ト否トヲ問ハス總テ新ナル不服ノ廉ヲ生シタルトキハ其裁判ニ對シテ更ニ抗告ヲ得ルモノノ如シ

抗告ニ付テノ管轄裁判所ハ抗告セラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所ノ直近上級裁判所ナリ即チ區裁判所ノ裁判ニ對スル抗告ニ付テハ地方裁判所地方裁判所ノ裁判ニ對スル抗告ニ付テハ控訴院、控訴院ノ裁判ニ對スル抗告ニ付テハ大審院ニ於テ裁判ヲ爲スモノトス而シテ抗告ヲ爲スニハ抗告セラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ其裁判ヲ爲シタル裁判長ノ屬スル裁判所ニ抗告狀ヲ差出スヘシ

第四百五十七條

抗告ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長ノ屬スル裁判所ニ抗告狀ヲ差出シテ之ヲ爲ス

訴訟カ區裁判所ニ繫屬シ若クハ管テ繫屬シタルトキ又ハ證人、鑑定人ヨリ若クハ證書ヲ提出スル義務アリト宣告ヲ受ケタル第三者ヨリ抗告ヲ爲ストキハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコト

ヲ得

〔註〕抗告ヲ爲スニハ抗告セラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ其裁判ヲ爲シタル裁判長ノ屬スル裁判所ニ抗告狀ヲ差出スヘシ然レトモ其訴訟カ區裁判所ニ繫屬スルトキ若クハ繫屬シタルトキ又ハ證人鑑定人ヨリ抗告ヲ爲ス場合ニハ口頭ヲ以テ抗告ヲ爲スコトヲ得ルナリ但シ本條第二項ノ規定ニ依レハ口頭ヲ以テ抗告ヲ爲スコトヲ得ル場合ハ常ニ前ニ述タル二個ノ場合ニ限ラスシテ尙ホ證書ヲ提出スルノ義務アリトノ宣言ヲ受ケタル第三者ヨリ抗告ヲ爲ス場合ニ於テモ之ヲ爲シ得ヘキ旨ヲ規定セリ

第四百五十八條

抗告ハ新ナル事實及ヒ證據方法ヲ以テ憑據ト爲スコトヲ得

〔註〕抗告ニ付テノ裁判ハ辯論ヲ經テ之ヲ爲スコトヲ必要トセス書面ノミニ依リテ裁判ヲ爲スコトヲ得ルナリ然レトモ當事者ハ抗告裁判所ニ新ナル事實及ヒ新ナル證據方法ヲ提出スルコトヲ得ルモノトス

第四百五十九條

不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長カ再度ノ考案若クハ新ナル提供ニ基キ抗告ヲ理由アリトスルトキハ不服ノ點ヲ更正シ又理由ヲシトスルトキハ裁判所又ハ裁判長ハ意見ヲ付シテ三日ノ期間内ニ抗

告ヲ抗告裁判所ニ送付シ又適當トスル場合ニ於テハ訴訟記録ヲモ送付ス可シ

〔註〕抗告裁判所ハ職權ヲ以テ抗告ノ適法ナルヤ否ヤヲ調査シ不適法ト認ムルトキハ之ヲ却下スヘク適法ト認ムルトキハ本案ニ付キ裁判ヲ爲シ或ハ之ヲ棄却シ又ハ原裁判ヲ變更シ若クハ原裁判所ヲシテ更ニ裁判ヲ爲サシムルコトヲ得ルナリ

抗告裁判所カ抗告ヲ不適法トシテ却下シタル場合ニ於テハ抗告裁判所ハ形式上抗告ヲ許ス可カラサルモノト判定シタルモノニシテ所謂抗告ノ實質ニ付キ裁判ヲ爲サスト裁判シタルモノナルカ故ニ該裁判ニ對シテハ更ニ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生シタルモノナリ故ニ其裁判ニ對シテハ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ルナリ

然レトモ抗告裁判所カ抗告ヲ不適法トシテ却下シタルト同一ノ理由ニ因リテ原裁判所カ申請ヲ却下シタルモノナルトキハ其抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

第四百六十條

抗告ハ此法律ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタル場合ニ限り執行停止ノ效力ヲ有ス

然レトモ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長ハ抗告ニ付テノ裁判アルマテ其執行ノ中止ヲ命スル

コトヲ得

抗告裁判所ハ抗告ニ付テノ裁判ヲ爲ス前ニ不服ヲ申立テラレタル裁判ノ執行中止ヲ命スルコトヲ得

〔註〕抗告ハ通常執行停止ノ效力ヲ有スルモノトス然レトモ此ノ法律ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス執行停止トハ裁判ノ確定ニ依リ判決ノ效力ヲ行フヘキモノヲ一時停止シテ行ハシメサルヲ云フ本法別ニ規定ヲ設ケタルトキハ抗告ニ付キ其執行ヲ停止スルノ效力アルモノトス

不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長ハ抗告ノ判決アルマテハ其執行中止ヲ命スルコトヲ得ルナリ抗告裁判所ハ抗告ヲ裁判スル以前ニ不服ヲ申立テラレタル裁判ニ付キ執行中止ヲ命スルコトヲ得ルナリ

第四百六十一條

抗告ハ急迫ナル場合ニ限り直チニ抗告裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得

抗告裁判所ハ裁判ヲ爲ス前ニ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長ノ意見及ヒ記録ヲ要求スルコトヲ得

抗告裁判所ハ事件ヲ急迫ナラスト認ムルトキハ不服ヲ申立